

地域福祉に関するアンケート調査結果報告書

令和 5 年 3 月

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回答状況	1
6	調査結果の表示方法	2
II	調査結果（市民）	3
(1)	回答者属性	3
(2)	暮らしについて	7
(3)	回答者及び家族について	15
(4)	地域のつながりや地域活動への参加状況について	27
(5)	災害について	38
(6)	福祉施策、福祉サービスについて	43
(7)	成年後見制度について	51
(8)	再犯防止について	54
(9)	暮らしに関する環境について	56
III	調査結果（関係団体等）	63
1	自治会	63
2	民生委員・児童委員	72
3	地区社会福祉協議会	80
4	市内社会福祉法人	83
5	関係団体共通設問	89
IV	調査結果のまとめ	98
	【市民】	98
	【自治会】	100
	【民生委員・児童委員】	100
	【地区社会福祉協議会】	101
	【市内社会福祉法人】	101
	【関係団体共通】	101

I 調査の概要

1 調査の目的

令和6年度から令和10年度を計画期間とする次期地域福祉計画の効果的・効率的な推進を図るため、市民及び関係団体に対してアンケートを実施しました。

2 調査対象

- ① 実態調査：住民基本台帳を基に、無作為に抽出した市内在住の満18歳以上の市民
- ② 関係団体等実態調査：自治会
民生委員・児童委員
地区社会福祉協議会
市内社会福祉法人

3 調査期間

令和5年1月11日～令和5年1月25日

4 調査方法

- ① 実態調査：郵送方式
- ② 関係団体等実態調査：郵送方式
※民生委員・児童委員については、役員会1月定例会にて配布

5 回答状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
18歳以上市民	3,000通	1,070通	35.7%
自治会	152通	130通	85.5%
民生委員・児童委員	254通	218通	85.8%
地区社会福祉協議会	11通	11通	100.0%
市内社会福祉法人	17通	13通	76.5%

6 調査結果の表示方法

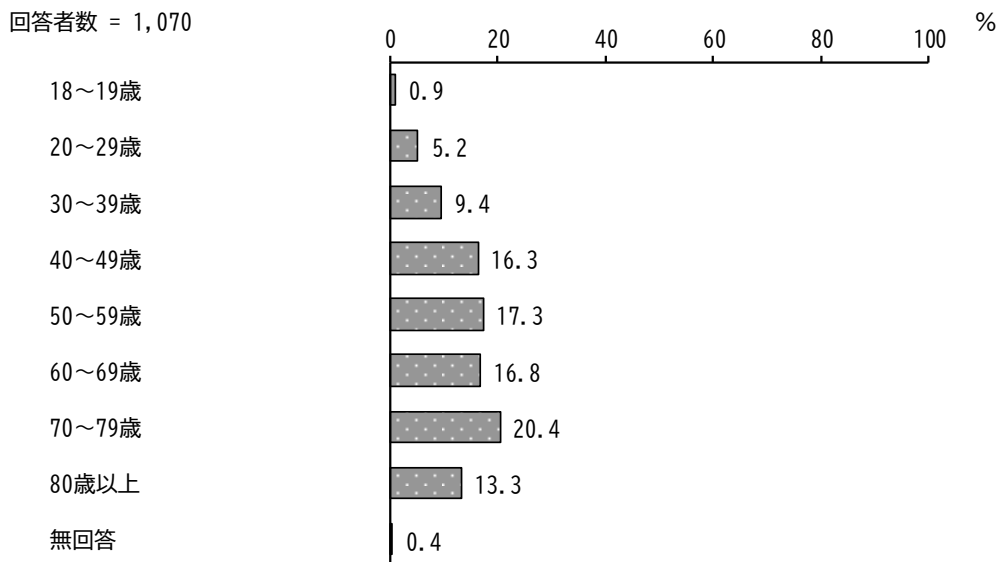
- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものに網かけをしています。（無回答を除く）

Ⅱ 調査結果（市民）

（１）回答者属性

問１ あなたの年齢をお答えください。（令和５年１月１０日現在）

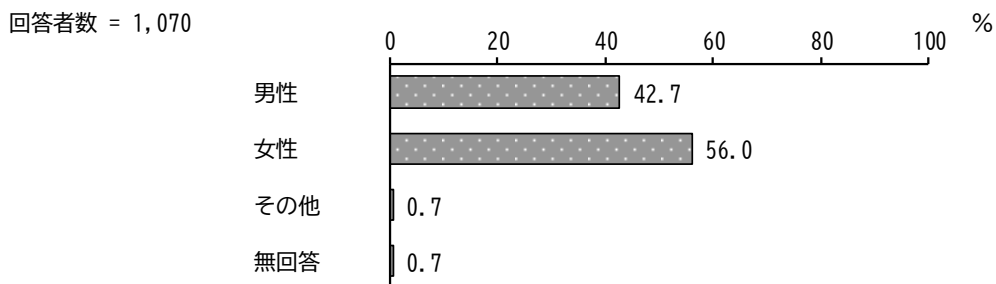
「70～79歳」の割合が20.4%と最も高く、次いで「50～59歳」の割合が17.3%、「60～69歳」の割合が16.8%となっています。



問２ あなたの性別をお答えください。

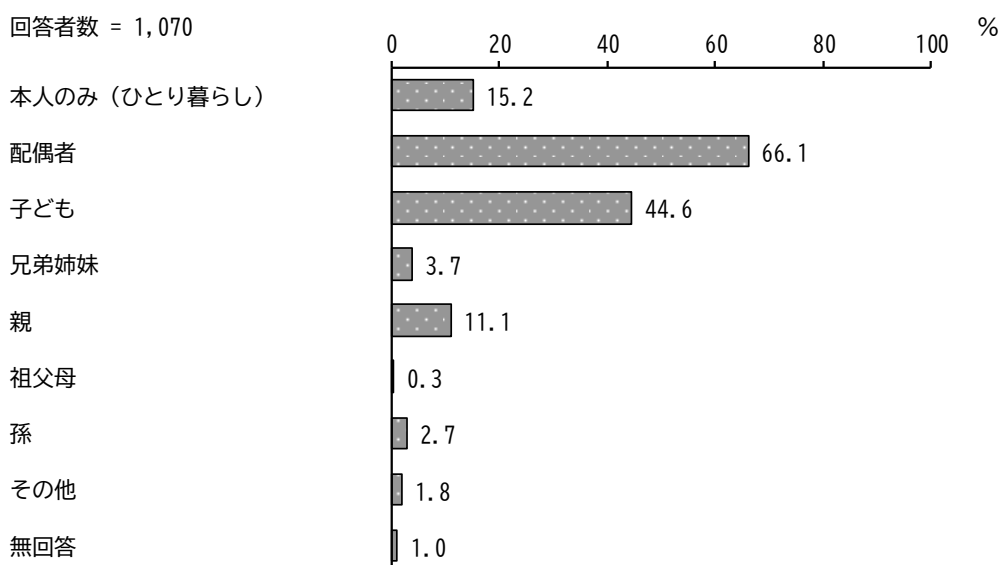
「男性」の割合が42.7%、「女性」の割合が56.0%となっています。

「その他」と回答した件数は7件でそのうち1件は「どちらともいえない」、6件は無回答でした。



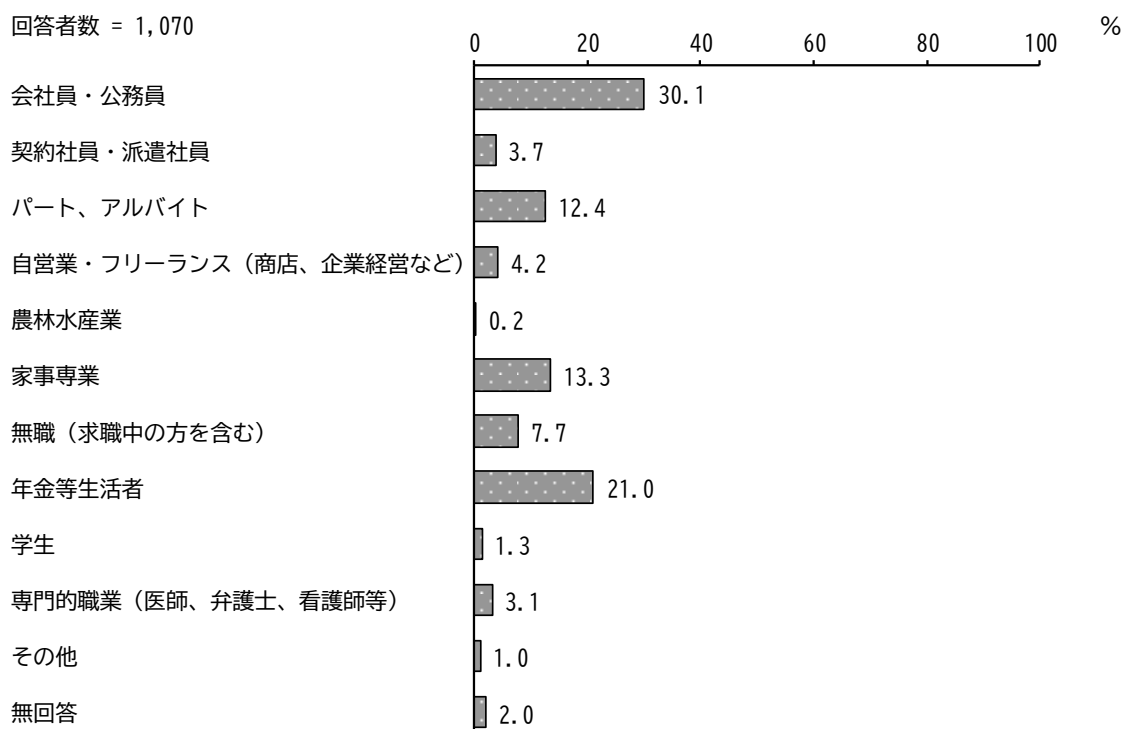
問3 あなたの世帯の構成員をお答えください。(○はいくつでも)

「配偶者」の割合が66.1%と最も高く、次いで「子ども」の割合が44.6%、「本人のみ(ひとり暮らし)」の割合が15.2%となっています。



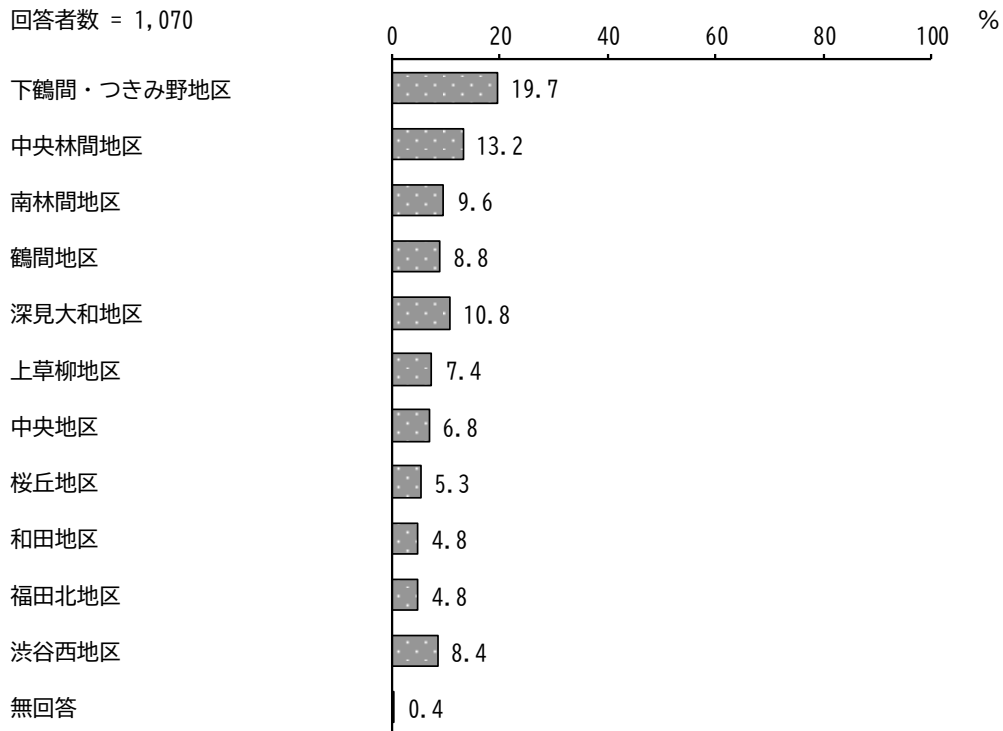
問4 あなたの主な就業・就学は次のどれですか。(○は1つだけ)

「会社員・公務員」の割合が30.1%と最も高く、次いで「年金等生活者」の割合が21.0%、「家事専業」の割合が13.3%となっています。



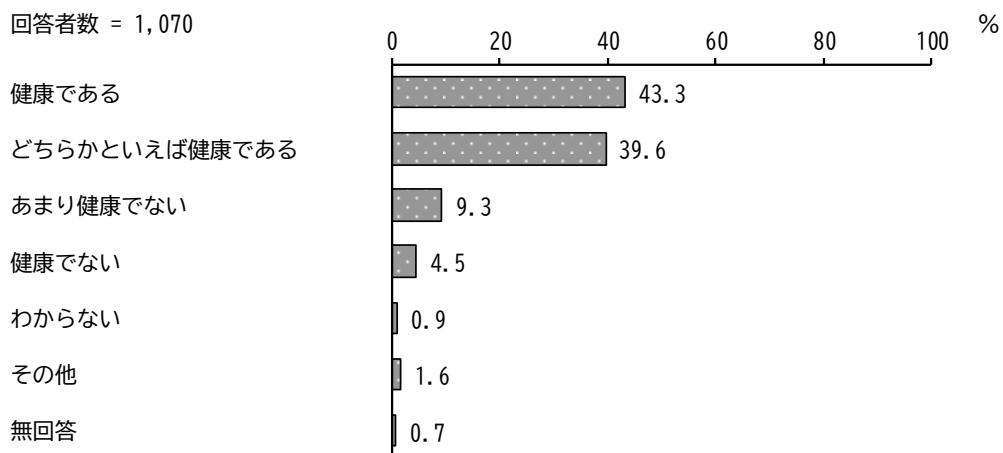
問5 あなたの住んでいる地区は次のどれですか。(○は1つだけ)

「下鶴間・つきみ野地区」の割合が19.7%と最も高く、次いで「中央林間地区」の割合が13.2%、「深見大和地区」の割合が10.8%となっています。



問6 あなたの現在の健康状態はいかがですか。(○は1つだけ)

「健康である」の割合が43.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば健康である」の割合が39.6%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、18～49歳で「健康である」の割合が、50歳以上で「どちらかといえば健康である」の割合が高くなっています。70歳以上で「あまり健康でない」の割合が、他の年齢層に比べ高くなっています。

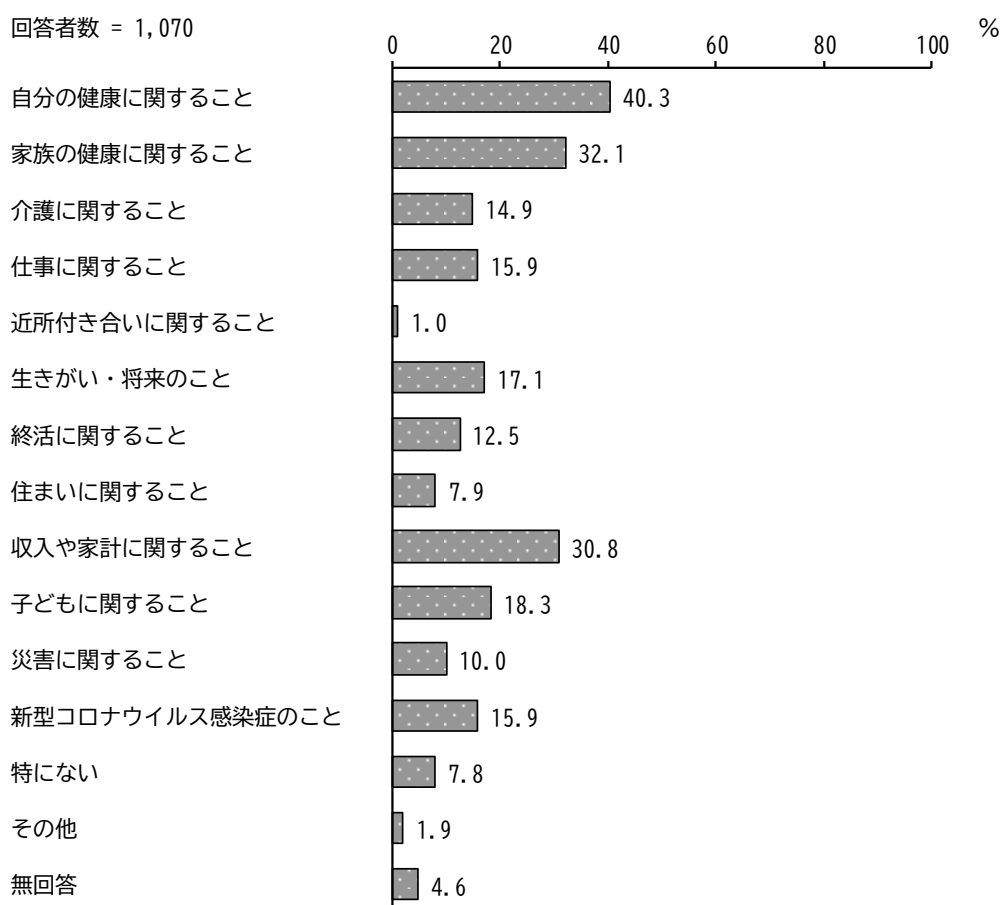
単位：％

区分	回答者数 (件)	健康である	どちらか 健康である といえば	あまり健康でない	健康でない	わからない	その他	無回答
全 体	1,070	43.3	39.6	9.3	4.5	0.9	1.6	0.7
18～19歳	10	70.0	30.0	—	—	—	—	—
20～29歳	56	71.4	28.6	—	—	—	—	—
30～39歳	101	60.4	33.7	2.0	1.0	1.0	2.0	—
40～49歳	174	62.1	28.7	5.7	2.3	1.1	—	—
50～59歳	185	42.7	45.9	5.9	2.7	1.1	1.6	—
60～69歳	180	37.8	43.3	11.7	3.9	1.1	1.7	0.6
70～79歳	218	32.1	45.0	15.1	5.0	0.5	1.4	0.9
80歳以上	142	21.1	42.3	16.2	14.1	1.4	4.2	0.7

(2) 暮らしについて

問7 あなたは、日々の暮らしの中でどのような悩みや不安を感じていますか。
(○は主なもの3つまで)

「自分の健康に関すること」の割合が40.3%と最も高く、次いで「家族の健康に関すること」の割合が32.1%、「収入や家計に関すること」の割合が30.8%となっています。



【年齢別】

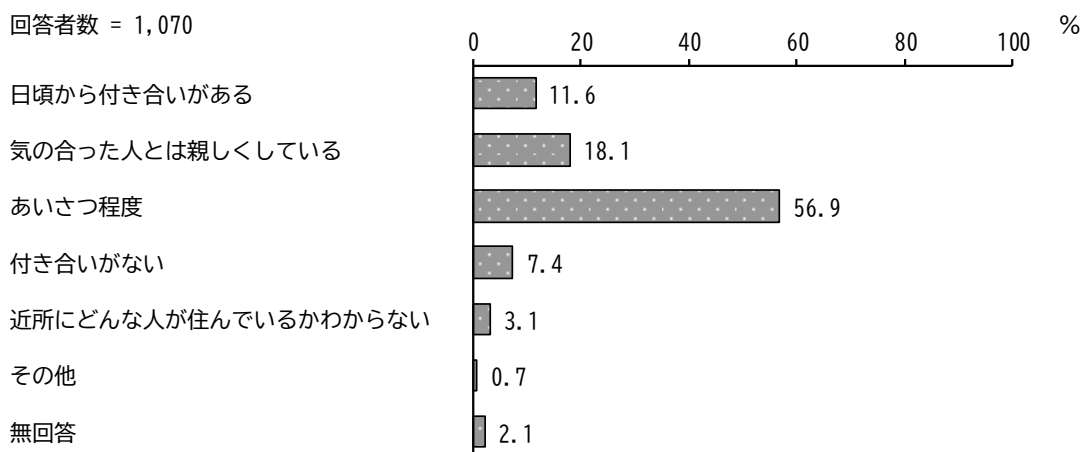
年齢別にみると、18～19歳で「生きがい・将来のこと」の割合が、20～29歳で「仕事に関すること」の割合が、30～39歳で「収入や家計に関すること」の割合が、他の年齢に比べ高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	自分の健康に関すること	家族の健康に関すること	介護に関すること	仕事に関すること	近所付き合いに関すること	生きがい・将来のこと	終活に関すること	住まいに関すること	収入や家計に関すること	子どもに関すること	災害に関すること	新型コロナウイルス感染症のこと	特にない	その他	無回答
全体	1,070	40.3	32.1	14.9	15.9	1.0	17.1	12.5	7.9	30.8	18.3	10.0	15.9	7.8	1.9	4.6
18～19歳	10	20.0	10.0	—	10.0	—	90.0	—	—	20.0	—	10.0	10.0	—	—	—
20～29歳	56	23.2	21.4	3.6	41.1	—	37.5	—	12.5	42.9	25.0	8.9	8.9	7.1	—	3.6
30～39歳	101	17.8	31.7	4.0	27.7	—	19.8	3.0	22.8	47.5	37.6	12.9	8.9	4.0	3.0	7.9
40～49歳	174	28.2	31.6	8.6	27.6	1.1	17.8	4.0	6.9	38.5	39.1	14.9	10.3	2.9	1.1	6.9
50～59歳	185	36.8	35.1	18.9	21.6	0.5	21.6	9.7	8.6	37.3	16.8	11.4	11.4	7.0	2.7	2.7
60～69歳	180	46.7	36.7	18.9	11.1	1.7	18.3	16.1	7.2	33.3	10.6	7.8	16.1	7.8	1.7	3.3
70～79歳	218	54.6	32.1	17.4	3.7	0.9	9.2	21.6	4.6	18.3	9.6	6.9	21.6	12.4	1.8	3.2
80歳以上	142	53.5	27.5	20.4	1.4	2.1	5.6	21.1	2.8	13.4	3.5	8.5	28.2	11.3	2.1	5.6

問8 あなたは、近所の人とは、どのような関係にありますか。(○は1つだけ)

「あいさつ程度」の割合が56.9%と最も高く、次いで「気の合った人とは親しくしている」の割合が18.1%、「日頃から付き合いがある」の割合が11.6%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、すべての年齢において、近所の人との関係について「あいさつ程度」の割合が高くなっていますが、70歳～79歳では「気の合った人とは親しくしている」の割合が、80歳以上では「日頃から付き合いがある」の割合が、他の年齢に比べ高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	日頃から 付き合いが ある	気の合った人とは 親しくしている	あいさつ 程度	付き合いが ない	近所にどんな人が住 んでいるかわからない	その他	無回答
全 体	1,070	11.6	18.1	56.9	7.4	3.1	0.7	2.1
18～19 歳	10	—	10.0	70.0	20.0	—	—	—
20～29 歳	56	—	8.9	67.9	16.1	5.4	—	1.8
30～39 歳	101	2.0	7.9	68.3	12.9	7.9	1.0	—
40～49 歳	174	6.9	17.8	60.3	9.2	5.2	0.6	—
50～59 歳	185	7.6	19.5	60.5	8.1	1.6	1.6	1.1
60～69 歳	180	9.4	17.8	60.6	7.8	3.3	0.6	0.6
70～79 歳	218	19.3	25.2	48.2	2.3	0.9	0.5	3.7
80 歳以上	142	25.4	18.3	43.7	3.5	1.4	0.7	7.0

【世帯の状況別】

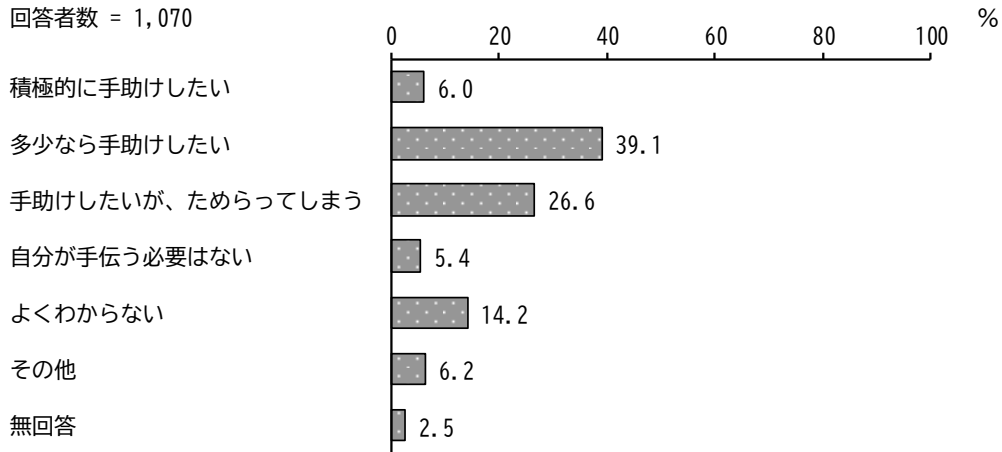
世帯の状況別にみると、すべての世帯において、近所の人との関係について「あいさつ程度」の割合が高くなっていますが、子どもがいる世帯で「気の合った人とは親しくしている」の割合が、孫のいる世帯で「日頃から付き合いがある」の割合が、他の世帯に比べ高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	日頃から 付き合いが ある	気の合った人とは 親しくしている	あいさつ 程度	付き合いが ない	近所にどんな人が住 んでいるかわからない	その他	無回答
全 体	1,070	11.6	18.1	56.9	7.4	3.1	0.7	2.1
本人のみ (ひとり暮らし)	161	14.9	16.8	42.2	13.0	7.5	0.6	5.0
配偶者	694	11.2	20.3	58.9	5.8	1.7	0.6	1.4
子ども	466	10.7	22.1	59.7	2.6	2.1	1.3	1.5
兄弟姉妹	40	2.5	10.0	67.5	17.5	2.5	—	—
親	118	6.8	11.9	66.1	12.7	1.7	0.8	—
祖父母	3	—	—	100.0	—	—	—	—
孫	29	31.0	13.8	44.8	3.4	6.9	—	—
その他	19	—	10.5	57.9	10.5	10.5	—	10.5

問9 あなたの近所で、支援が必要な世帯があったら、あなたは手助けしますか。
(○は1つだけ)

「多少なら手助けしたい」の割合が39.1%と最も高く、次いで「手助けしたいが、ためらってしまう」の割合が26.6%、「よくわからない」の割合が14.2%となっています。



【年齢別】

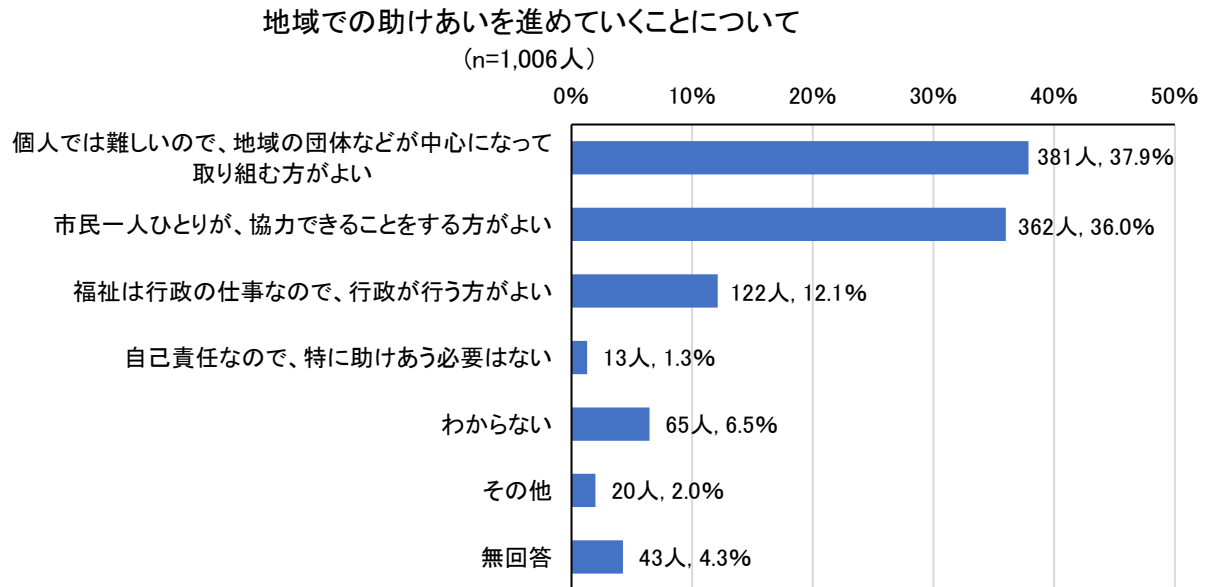
年齢別にみると、支援が必要な世帯への手助けについて、20歳以上で「多少なら手助けしたい」の割合が高く、特に50～59歳で割合が高くなっています。また、18～19歳で「自分が手伝える必要はない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	積極的に手助けしたい	多少なら手助けしたい	手助けしたいが、 ためらってしまう	自分が手伝える必要はない	よくわからない	その他	無回答
全体	1,070	6.0	39.1	26.6	5.4	14.2	6.2	2.5
18～19歳	10	—	10.0	30.0	40.0	10.0	—	10.0
20～29歳	56	7.1	33.9	32.1	7.1	16.1	1.8	1.8
30～39歳	101	6.9	35.6	32.7	6.9	10.9	6.9	—
40～49歳	174	8.0	34.5	31.0	6.9	13.2	6.3	—
50～59歳	185	3.2	44.9	28.1	4.9	16.2	2.7	—
60～69歳	180	3.9	42.8	27.8	3.9	13.9	6.7	1.1
70～79歳	218	7.3	41.7	24.8	2.8	14.2	5.5	3.7
80歳以上	142	7.0	34.5	14.8	5.6	15.5	12.0	10.6

【参考：平成 29 年度調査

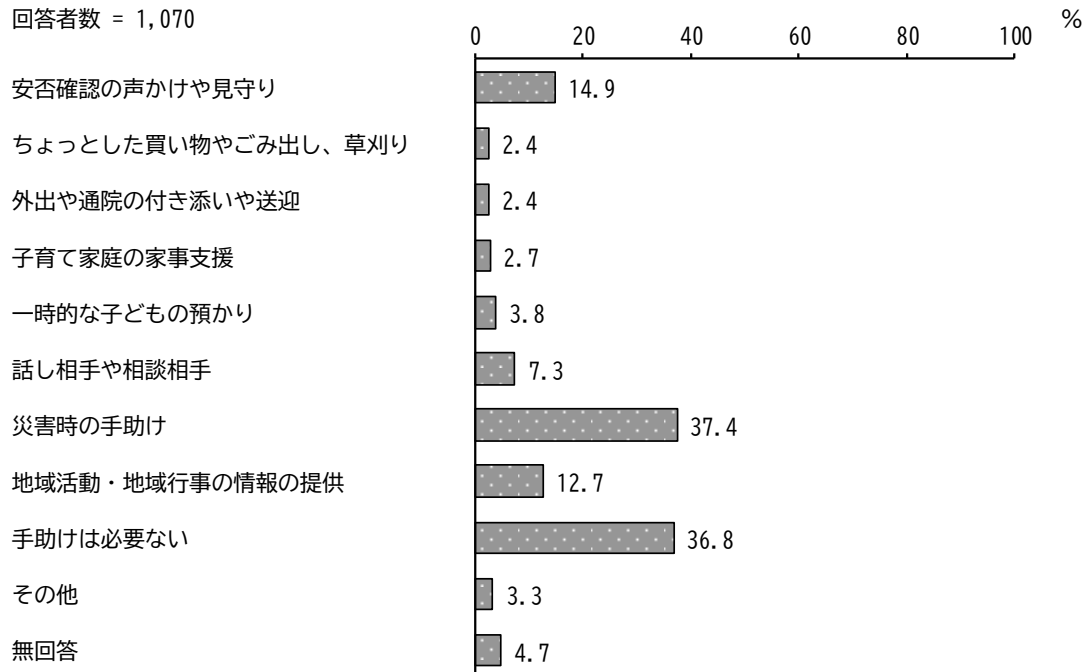
「あなたは、地域での助け合いを進めていくことについて、どのように思いますか(単一回答)」】



平成 29 年度調査時では、「福祉は行政の仕事なので、行政が行う方がよい」や「自己責任なので、特に助けあう必要はない」という意見は1割程度であり、今回の調査と大きな変化はみられませんでした。

問10 あなたは次のうち、近所や地域の人に手助けしてもらいたいことはありますか。
(〇はいくつでも)

「災害時の手助け」の割合が37.4%と最も高く、次いで「手助けは必要ない」の割合が36.8%、「安否確認の声かけや見守り」の割合が14.9%となっています。



【年齢別】

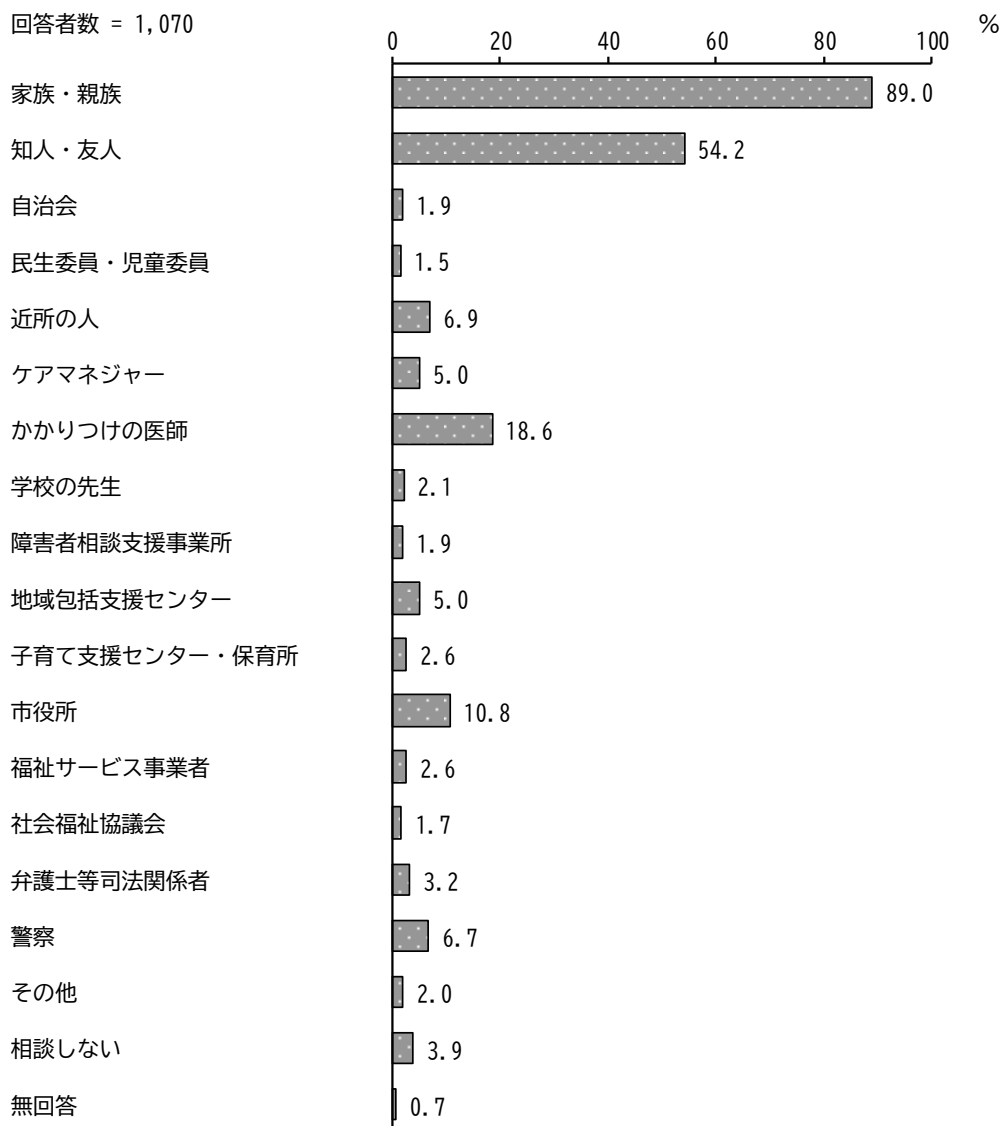
年齢別にみると、18～19歳で「手助けは必要ない」の割合が、80歳以上で「安否確認の声かけや見守り」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	安否確認の声かけや見守り	ちょっとした買い物やごみ出し、草刈り	外出や通院の付き添いや送迎	子育て家庭の家事支援	一時的な子どもの預かり	話し相手や相談相手	災害時の手助け	地域活動・地域行事の情報の提供	手助けは必要ない	その他	無回答
全体	1,070	14.9	2.4	2.4	2.7	3.8	7.3	37.4	12.7	36.8	3.3	4.7
18～19歳	10	10.0	—	—	—	—	10.0	—	—	80.0	—	—
20～29歳	56	7.1	1.8	1.8	5.4	8.9	1.8	41.1	12.5	39.3	—	1.8
30～39歳	101	13.9	—	1.0	7.9	10.9	5.9	44.6	15.8	34.7	—	1.0
40～49歳	174	17.2	1.1	1.1	8.6	11.5	6.9	41.4	17.2	29.9	4.0	1.7
50～59歳	185	19.5	1.6	2.7	0.5	1.6	9.7	38.9	11.9	38.9	4.9	1.6
60～69歳	180	11.1	2.2	1.1	0.6	—	9.4	38.3	13.3	38.3	5.0	3.3
70～79歳	218	10.6	3.7	2.8	0.5	0.9	4.6	28.9	8.7	46.3	2.8	8.3
80歳以上	142	21.8	5.6	6.3	—	—	9.2	38.7	12.0	23.9	2.8	12.0

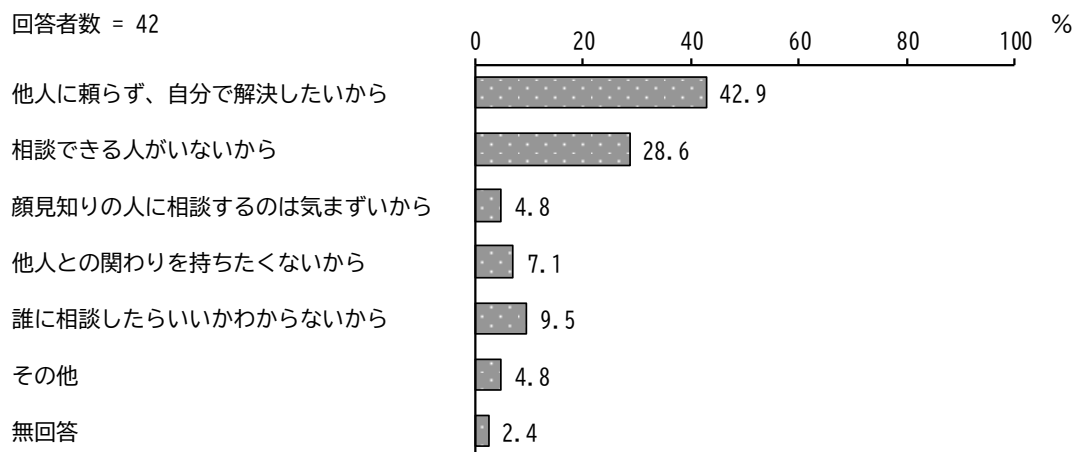
問11 あなたは困ったことがある時、誰に相談しますか。
(あてはまるものすべてに○)

「家族・親族」の割合が89.0%と最も高く、次いで「知人・友人」の割合が54.2%、「かかりつけの医師」の割合が18.6%となっています。



問 11-1 問 11 で「困ったことがある時、相談しない」と回答した方にお尋ねします。
相談しない理由は何ですか。(〇は1つだけ)

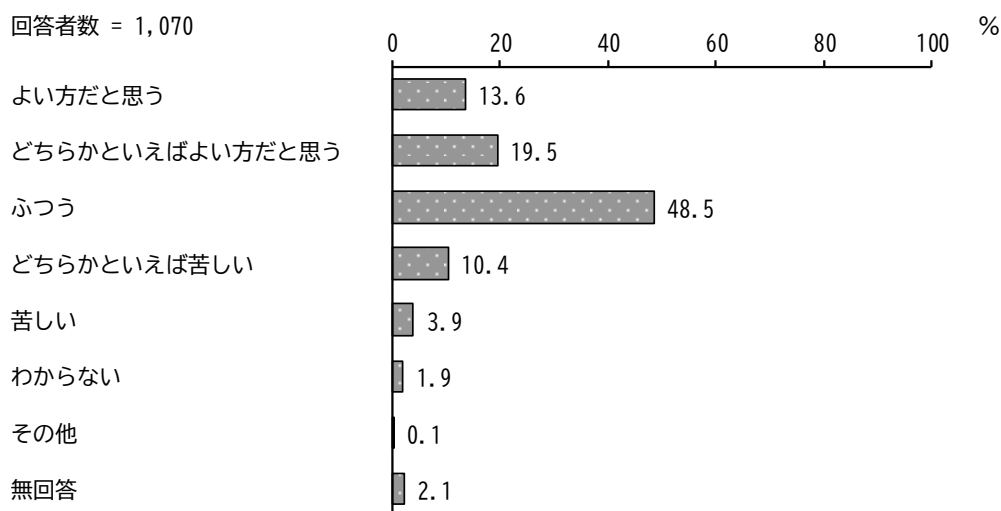
「他人に頼らず、自分で解決したいから」の割合が 42.9%と最も高く、次いで「相談できる人がいないから」の割合が 28.6%となっています。



(3) 回答者及び家族について

問12 あなたの世帯の現在の暮らし向き（経済的な状況）はいかがですか。
（○は1つだけ）

「ふつう」の割合が48.5%と最も高く、次いで「どちらかといえばよい方だと思う」の割合が19.5%、「よい方だと思う」の割合が13.6%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、すべての年齢で「ふつう」の割合が最も高くなっていますが、18～19歳で「どちらかといえばよい方だと思う」の割合が、50～59歳で「どちらかといえば苦しい」の割合が、他の年齢に比べ高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	よい方だと思う	どちらかといえばよい方だと思う	ふつう	どちらかといえば苦しい	苦しい	わからない	その他	無回答
全体	1,070	13.6	19.5	48.5	10.4	3.9	1.9	0.1	2.1
18～19歳	10	20.0	30.0	40.0	—	10.0	—	—	—
20～29歳	56	16.1	28.6	32.1	12.5	8.9	1.8	—	—
30～39歳	101	16.8	20.8	38.6	11.9	5.9	3.0	—	3.0
40～49歳	174	8.0	22.4	51.7	10.9	5.7	1.1	—	—
50～59歳	185	20.0	17.3	43.8	14.6	2.7	—	—	1.6
60～69歳	180	12.2	16.1	51.1	8.3	4.4	3.9	0.6	3.3
70～79歳	218	11.0	21.1	51.4	9.2	1.4	2.8	—	3.2
80歳以上	142	14.1	16.2	55.6	7.7	2.8	0.7	—	2.8

【職業別】

職業別にみると、その他を除くすべての職業で「ふつう」の割合が高くなっていますが、学生で「よい方だと思う」の割合が、自営業・フリーランス（商店、企業経営など）、専門的職業（医師、弁護士、看護師等）で「どちらかといえばよい方だと思う」の割合が、高くなっています。

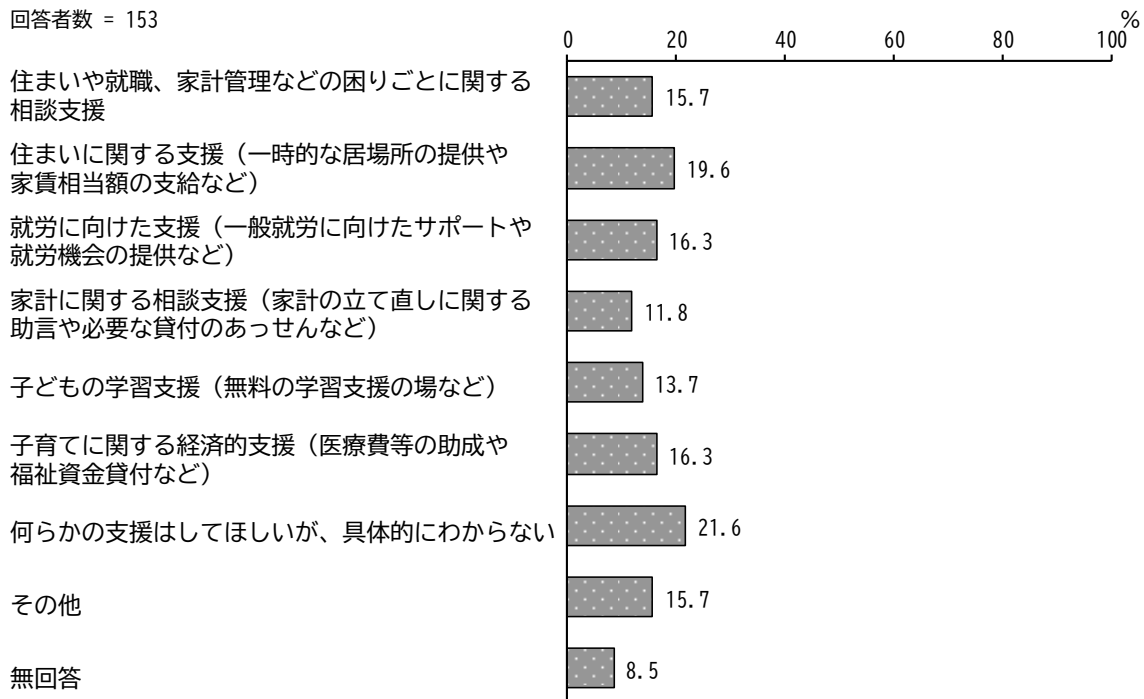
単位：％

区分	回答者数 (件)	よい方 だと思う	どちらか といえば よい方 だと思う	ふつ う	ど ちらか とい え ば 苦 しい	苦 しい	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
全 体	1,070	13.6	19.5	48.5	10.4	3.9	1.9	0.1	2.1
会社員・公務員	322	13.0	24.2	45.3	9.3	5.3	1.2	—	1.6
契約社員・派遣社員	40	12.5	10.0	47.5	20.0	—	2.5	2.5	5.0
パート、アルバイト	133	12.0	15.8	44.4	17.3	6.0	3.0	—	1.5
自営業・フリーランス (商店、企業経営など)	45	22.2	26.7	28.9	17.8	2.2	2.2	—	—
農林水産業	2	50.0	—	50.0	—	—	—	—	—
家事専業	142	20.4	16.9	50.7	7.0	2.8	—	—	2.1
無職 (求職中の方を含む)	82	12.2	14.6	41.5	15.9	7.3	4.9	—	3.7
年金等生活者	225	8.4	17.8	62.2	5.8	2.2	0.9	—	2.7
学生	14	28.6	21.4	50.0	—	—	—	—	—
専門的職業（医師、 弁護士、看護師等）	33	12.1	27.3	48.5	3.0	—	6.1	—	3.0
その他	11	36.4	18.2	9.1	18.2	9.1	—	—	9.1

問 12-1 問 12 で現在の暮らし向きについて「4. どちらかといえば苦しい」「5. 苦しい」と回答した方にお尋ねします。
あなたにとって必要な支援は何ですか。(〇はいくつでも)

「何らかの支援はしてほしいが、具体的にわからない」の割合が 21.6%と最も高く、次いで「住まいに関する支援（一時的な居場所の提供や家賃相当額の支給など）」の割合が 19.6%、「就労に向けた支援（一般就労に向けたサポートや就労機会の提供など）」、「子育てに関する経済的支援（医療費等の助成や福祉資金貸付など）」の割合が 16.3%となっています。

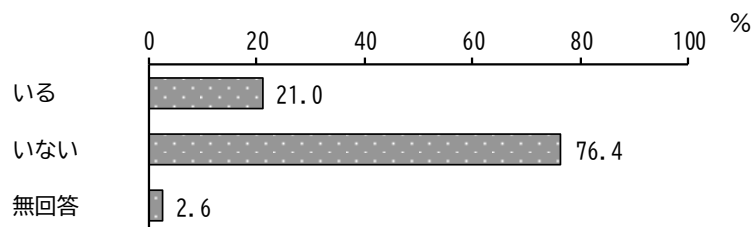
回答者数 = 153



問 13 あなた又はあなたの家族に、支援（身体的・経済的等）が必要な人はいますか。
(〇は1つだけ)

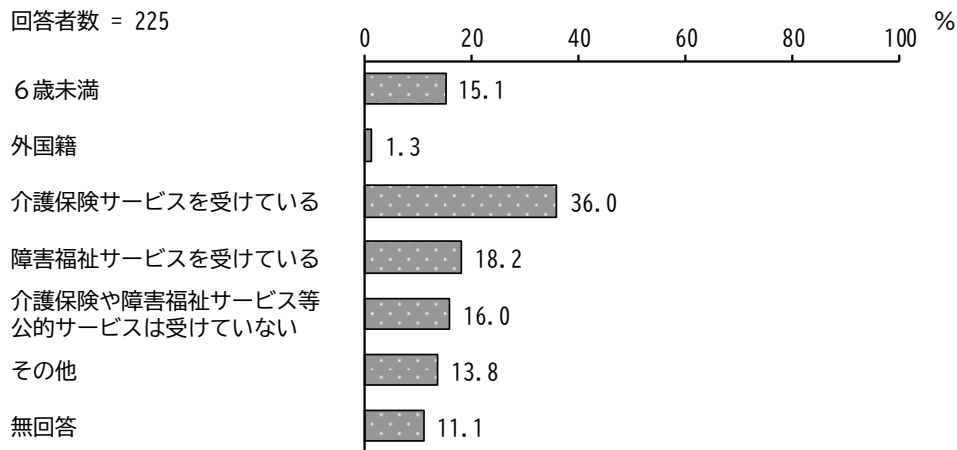
「いる」の割合が 21.0%、「いない」の割合が 76.4%となっています。

回答者数 = 1,070



問 13-1 問 13 で「あなた又はあなたの家族に支援を必要とする人がいる」と回答した方にお尋ねします。
 具体的にはどのような方ですか。(あてはまるもの全てに○をしてください)

「介護保険サービスを受けている」の割合が 36.0%と最も高く、次いで「障害福祉サービスを受けている」の割合が 18.2%、「介護保険や障害福祉サービス等公的サービスは受けていない」の割合が 16.0%となっています。



【支援が必要な人の重複状況】

支援が必要な人の重複状況を見ると、「介護保険サービスを受けている+障害福祉サービスを受けている」人の割合が 6.2%となっています。

区分	回答者数 (件)	割合 (%)
全 体	225	100.0
6歳未満+介護保険サービスを受けている	1	0.4
6歳未満+障害福祉サービスを受けている	3	1.3
介護保険サービスを受けている+障害福祉サービスを受けている	14	6.2

【クロス集計】（同居している要支援者の状態×地域の人に手助けしてもらいたいこと）

同居している要支援者の状態別でみると、すべての区分において、「災害時の手助け」の割合が高くなっていますが、障害福祉サービスを受けている人がいる世帯で「安否確認の声かけや見守り」の割合が、介護保険サービスや障害福祉サービス等公的サービスは受けていない人がいる世帯で「手助けは必要ない」の割合が、他の区分に比べ高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	安否確認の声かけや見守り	ちよつとした買い物やごみ出し、草刈り	外出や通院の付き添いや送迎	子育て家庭の家事支援	一時的な子どもの預かり	話し相手や相談相手	災害時の手助け	地域活動・地域行事の情報の提供	手助けは必要ない	その他	無回答
全 体	225	19.1	5.8	4.4	5.3	6.2	11.6	41.8	14.7	28.0	4.4	5.3
6歳未満	34	14.7	—	—	20.6	23.5	2.9	44.1	29.4	26.5	2.9	—
外国籍	3	—	—	33.3	33.3	—	—	66.7	33.3	—	—	—
介護保険サービスを受けている	81	18.5	7.4	7.4	1.2	1.2	7.4	40.7	7.4	27.2	7.4	6.2
障害福祉サービスを受けている	41	29.3	7.3	4.9	4.9	9.8	17.1	53.7	22.0	19.5	—	2.4
介護保険や障害福祉サービス等公的サービスは受けていない	36	16.7	8.3	5.6	5.6	11.1	8.3	47.2	16.7	33.3	2.8	8.3
その他	31	19.4	3.2	3.2	3.2	3.2	22.6	35.5	9.7	35.5	9.7	3.2

【クロス集計】（同居している要支援者の状態×困った時の相談先）

同居している要支援者の状態別で見ると、困った時の相談先について、すべての区分で「家族・親族」「知人・友人」の割合が高くなっていますが、介護保険サービスを受けている人がいる世帯で「ケアマネジャー」の割合が、障害福祉サービスを受けている人がいる世帯で「かかりつけの医師」の割合が、他の区分に比べ、高くなっています。

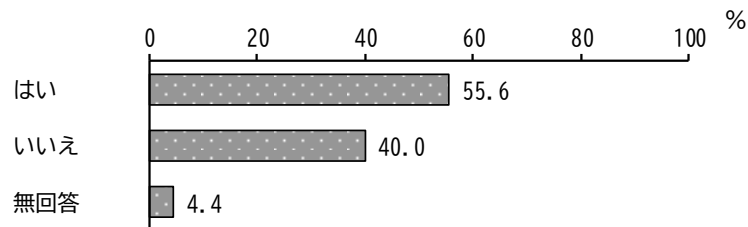
単位：％

区分	回答者数(件)	家族・親族	知人・友人	自治会	民生委員・児童委員	近所の人	ケアマネジャー	かかりつけの医師	学校の先生	障害者相談支援事業所	地域包括支援センター	子育て支援センター・保育所	市役所	福祉サービス事業者	社会福祉協議会	弁護士等司法関係者	警察	その他	相談しない	無回答
全 体	225	89.3	50.7	1.3	1.3	3.6	13.3	19.6	1.3	6.7	8.0	4.9	9.8	6.2	1.8	2.7	5.3	3.6	3.1	0.9
6歳未満	34	100.0	82.4	—	—	2.9	—	11.8	2.9	8.8	—	26.5	—	2.9	—	—	—	—	—	—
外国籍	3	66.7	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
介護保険サービスを受けている	81	93.8	40.7	2.5	2.5	3.7	30.9	21.0	—	2.5	8.6	1.2	9.9	7.4	1.2	2.5	4.9	1.2	3.7	—
障害福祉サービスを受けている	41	82.9	43.9	—	2.4	4.9	24.4	29.3	—	22.0	12.2	7.3	14.6	26.8	2.4	4.9	7.3	2.4	4.9	—
介護保険や障害福祉サービス等公的サービスは受けていない	36	86.1	50.0	—	—	2.8	2.8	16.7	5.6	11.1	13.9	—	8.3	5.6	8.3	2.8	5.6	2.8	5.6	—
その他	31	80.6	51.6	3.2	—	—	—	16.1	3.2	3.2	—	—	9.7	—	—	6.5	9.7	16.1	3.2	—

問 13-2 問 13 で「あなた又はあなたの家族に支援を必要とする人がいる」と回答した方にお尋ねします。
 あなたが主に、その方の支援を担っていますか。(○は1つだけ)

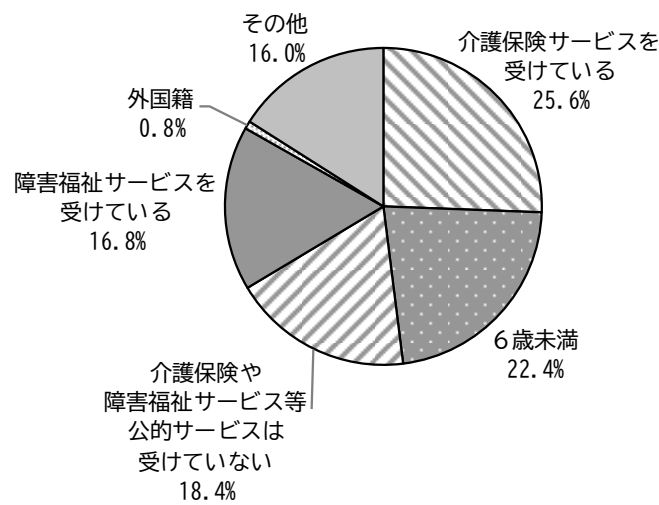
「はい」の割合が 55.6%、「いいえ」の割合が 40.0%となっています。

回答者数 = 225



【要支援者の状態の内訳】

「介護保険サービスを受けている」の割合が 25.6%と最も高く、次いで「6歳未満」が 22.4%となっています。



回答数 = 125

【クロス集計】（支援を必要とする人を支援している人の年齢×同居している要支援者の状態）

支援している人の年齢別で見ると、20～49歳で「6歳未満」の割合が、50歳以上で「介護保険サービスを受けている」の割合が、それぞれ最も高くなっています。

また、40～49歳、60～69歳で「障害福祉サービスを受けている」の割合が、他の年齢に比べ高くなっています。

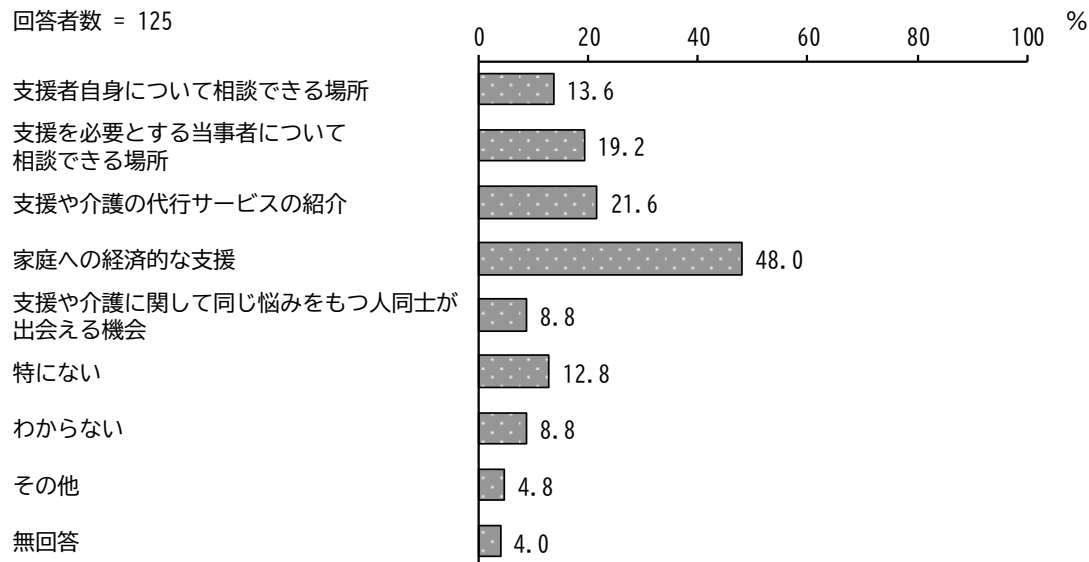
単位：%

区分	回答者数 (件)	6歳未満	外国籍	介護保険サービスを受けている	障害福祉サービスを受けている	介護保険や障害福祉サービス等公的サービスは受けていない	その他	無回答
全 体	125	22.4	0.8	25.6	18.4	18.4	16.8	10.4
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29歳	8	75.0	—	12.5	—	12.5	—	—
30～39歳	19	73.7	5.3	—	5.3	—	21.1	—
40～49歳	17	41.2	—	23.5	35.3	17.6	17.6	—
50～59歳	27	3.7	—	37.0	18.5	22.2	25.9	3.7
60～69歳	20	—	—	40.0	30.0	25.0	25.0	5.0
70～79歳	14	—	—	35.7	14.3	35.7	7.1	14.3
80歳以上	20	—	—	20.0	15.0	15.0	5.0	45.0

問 13-2-1 問 13-2「あなたが主に、その方の支援を担っていますか」で「1. はい」と回答した方にお尋ねします。
あなたにとって必要な支援は何ですか。(〇はいくつでも)

「家庭への経済的な支援」の割合が 48.0%と最も高く、次いで「支援や介護の代行サービスの紹介」の割合が 21.6%、「支援を必要とする当事者について相談できる場所」の割合が 19.2%となっています。

回答者数 = 125



【クロス集計】(同居している要支援者の状態×支援者が必要とする支援)

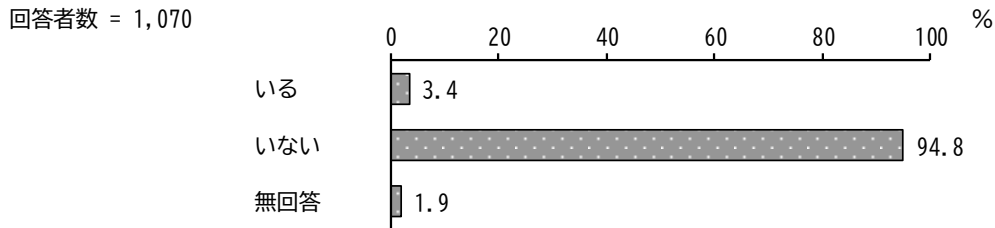
同居している要支援者の状態別でみると、「家庭への経済的な支援」の割合が高く、特に6歳未満がいる世帯で割合が高くなっています。また、障害福祉サービスを受けている人がいる世帯で「支援者自身について相談できる場所」「支援や介護の代行サービスの紹介」の割合が、他の区分に比べ高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	支援者自身について相談できる場所	支援を必要とする当事者について相談できる場所	支援や介護の代行サービスの紹介	家庭への経済的な支援	支援や介護に関して同じ悩みをもつ人同士が出会える機会	特にない	わからない	その他	無回答
全体	125	13.6	19.2	21.6	48.0	8.8	12.8	8.8	4.8	4.0
6歳未満	28	10.7	21.4	17.9	64.3	7.1	21.4	3.6	—	—
外国籍	1	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0
介護保険サービスを受けている	32	12.5	28.1	31.3	34.4	9.4	12.5	3.1	9.4	—
障害福祉サービスを受けている	23	30.4	26.1	43.5	56.5	21.7	8.7	8.7	—	—
介護保険や障害福祉サービス等公的サービスを受けていない	23	8.7	4.3	21.7	52.2	8.7	8.7	17.4	8.7	—
その他	21	23.8	28.6	4.8	57.1	4.8	4.8	4.8	4.8	—

問 14 あなた又はあなたのご家族で、いわゆるひきこもりの状態にある方はいらっしゃいますか。(〇は1つだけ)

「いる」の割合が3.4%、「いない」の割合が94.8%となっています。



【クロス集計】(ひきこもりの状態にある人の有無×困った時の相談先)

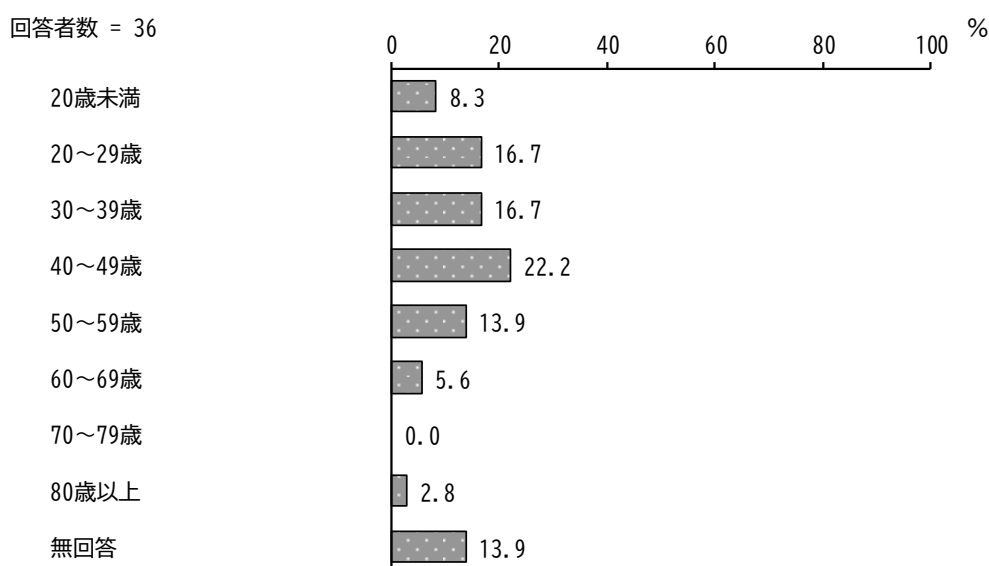
ひきこもりの状態にある人がいる世帯において、困った時の相談先として「家族・親族」の割合が83.3%と最も高く、次いで「知人・友人」「かかりつけの医師」となっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	家族・親族	知人・友人	自治会	民生委員・児童委員	近所の人	ケアマネジャー	かかりつけの医師	学校の先生	障害者相談支援事業所	地域包括支援センター	子育て支援センター・保育所	市役所	福祉サービス事業者	社会福祉協議会	弁護士等司法関係者	警察	その他	相談しない	無回答
全体	1,070	89.0	54.2	1.9	1.5	6.9	5.0	18.6	2.1	1.9	5.0	2.6	10.8	2.6	1.7	3.2	6.7	2.0	3.9	0.7
ひきこもりの人がいる	36	83.3	44.4	5.6	-	-	2.8	22.2	8.3	11.1	16.7	2.8	16.7	5.6	2.8	-	5.6	-	11.1	-
ひきこもりの人はいない	1,014	89.3	54.8	1.8	1.6	6.6	5.1	17.9	2.0	1.6	4.6	2.7	10.4	2.5	1.7	3.3	6.6	2.0	3.6	0.6

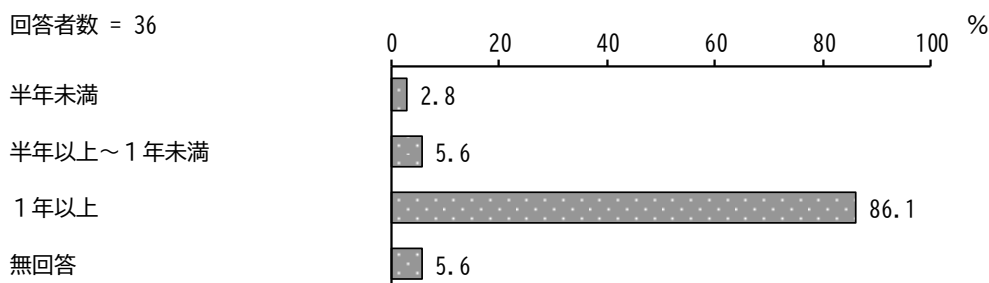
ひきこもりの状態にある方の年齢

「40～49歳」の割合が22.2%と最も高く、次いで「20～29歳」、「30～39歳」の割合が16.7%となっています。



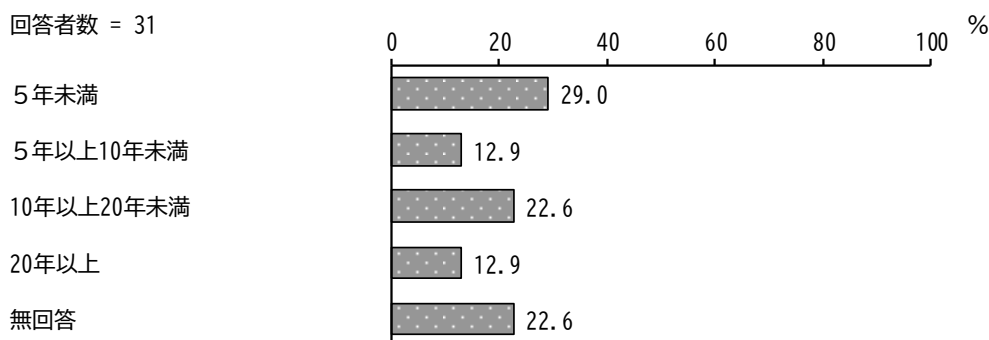
問 14-1 問 14 で「ひきこもりの状態にある人がいる」と回答した方にお尋ねします。その方は、どのくらいその状態が続いていますか。(〇は1つだけ)

「1年以上」の割合が86.1%と最も高くなっています。



「1年以上」の年数について

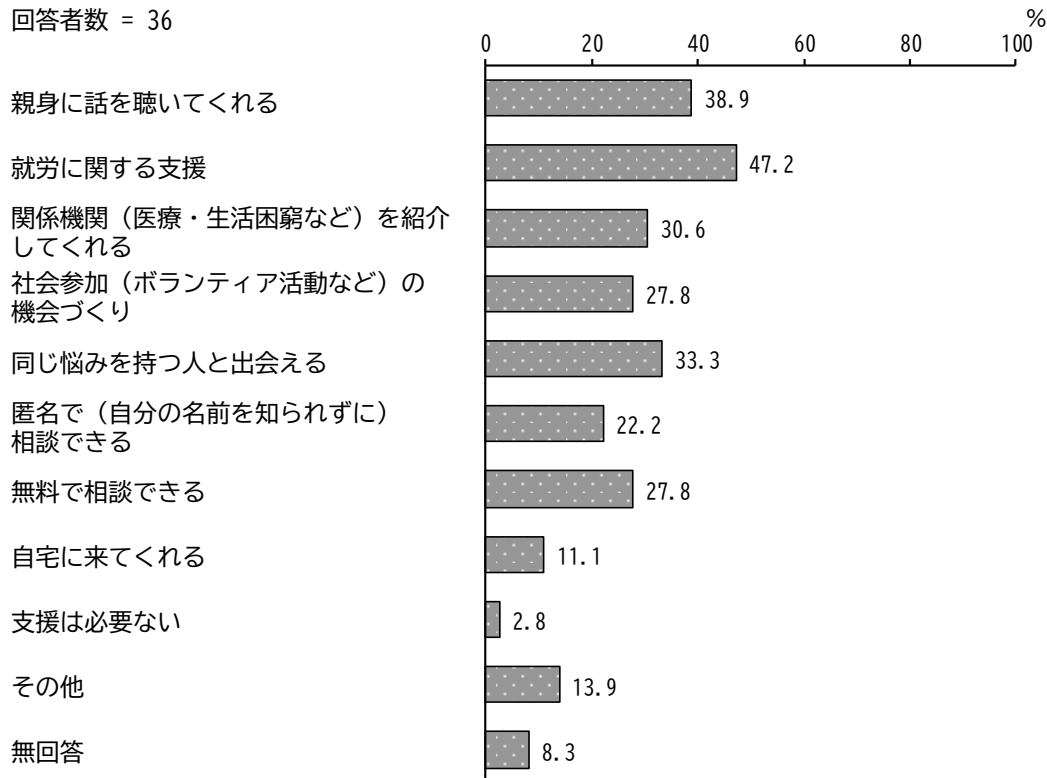
「5年未満」の割合が29.0%と最も高く、次いで「10年以上20年未満」の割合が22.6%となっています。



問 14-2 問 14 で「ひきこもりの状態にある人がいる」と回答した方にお尋ねします。
その方には、どのような支援が必要ですか。(〇はいくつでも)

「就労に関する支援」の割合が 47.2%と最も高く、次いで「親身に話を聴いてくれる」の割合が 38.9%、「同じ悩みを持つ人と出会える」の割合が 33.3%となっています。

回答者数 = 36

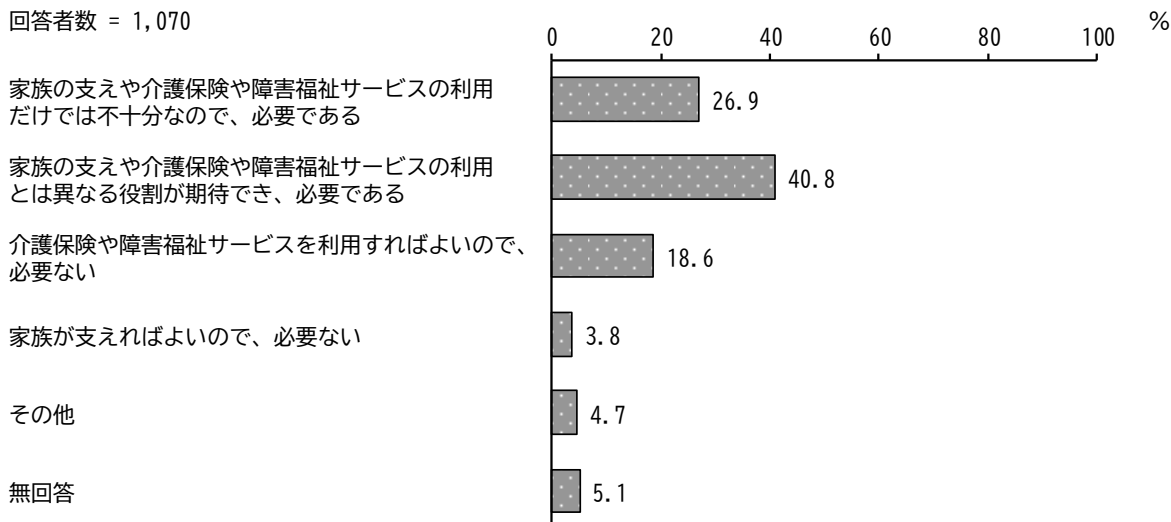


(4) 地域のつながりや地域活動への参加状況について

問 15 認知症や障がいのある人が生活するために、地域住民の協力は必要と考えるか。(〇はひとつ)

「家族の支えや介護保険や障害福祉サービスの利用とは異なる役割が期待でき、必要である」の割合が40.8%と最も高く、次いで「家族の支えや介護保険や障害福祉サービスの利用だけでは不十分なので、必要である」の割合が26.9%となっています。

回答者数 = 1,070



【年齢別】

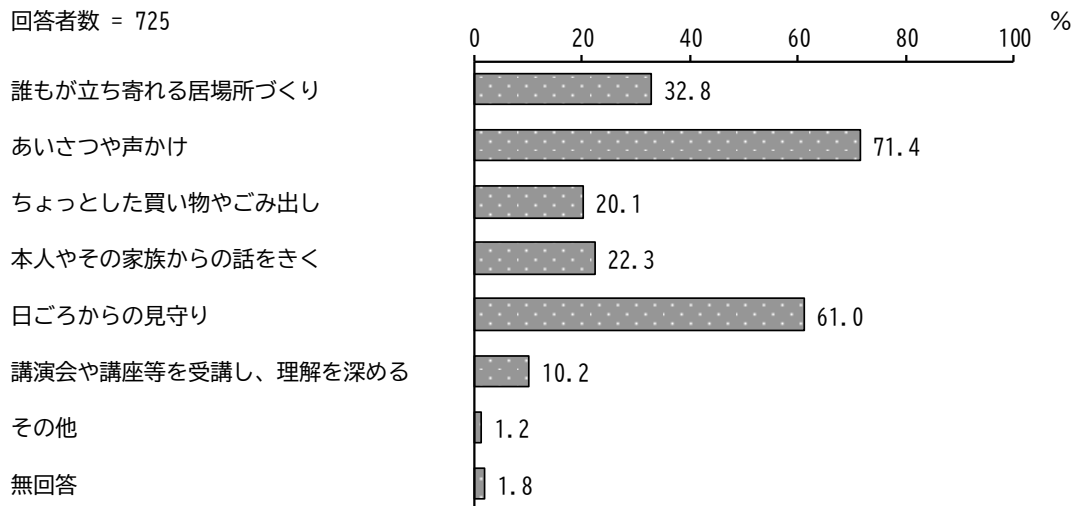
年齢別にみると、すべての年齢において、認知症や障がいのある人が生活するために地域住民の協力は必要と考える割合は高くなっています。また、40～59歳で「家族の支えや介護保険や障害福祉サービスの利用だけでは不十分なので、必要である」の割合が、他の年齢層に比べ高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	家族の支えや介護保険や障害福祉サービスの利用だけでは不十分なので、必要である	家族の支えや介護保険や障害福祉サービスの利用とは異なる役割が期待でき、必要である	介護保険や障害福祉サービスを利用すればよいので、必要ない	家族が支えればよいので、必要ない	その他	無回答
全体	1,070	26.9	40.8	18.6	3.8	4.7	5.1
18～19歳	10	20.0	70.0	10.0	—	—	—
20～29歳	56	19.6	55.4	19.6	1.8	—	3.6
30～39歳	101	17.8	52.5	15.8	3.0	8.9	2.0
40～49歳	174	28.7	43.1	19.0	1.7	6.9	0.6
50～59歳	185	30.8	47.6	17.3	0.5	2.7	1.1
60～69歳	180	25.0	43.9	18.3	1.1	7.2	4.4
70～79歳	218	28.0	29.8	21.1	8.7	2.3	10.1
80歳以上	142	28.9	27.5	18.3	8.5	4.2	12.7

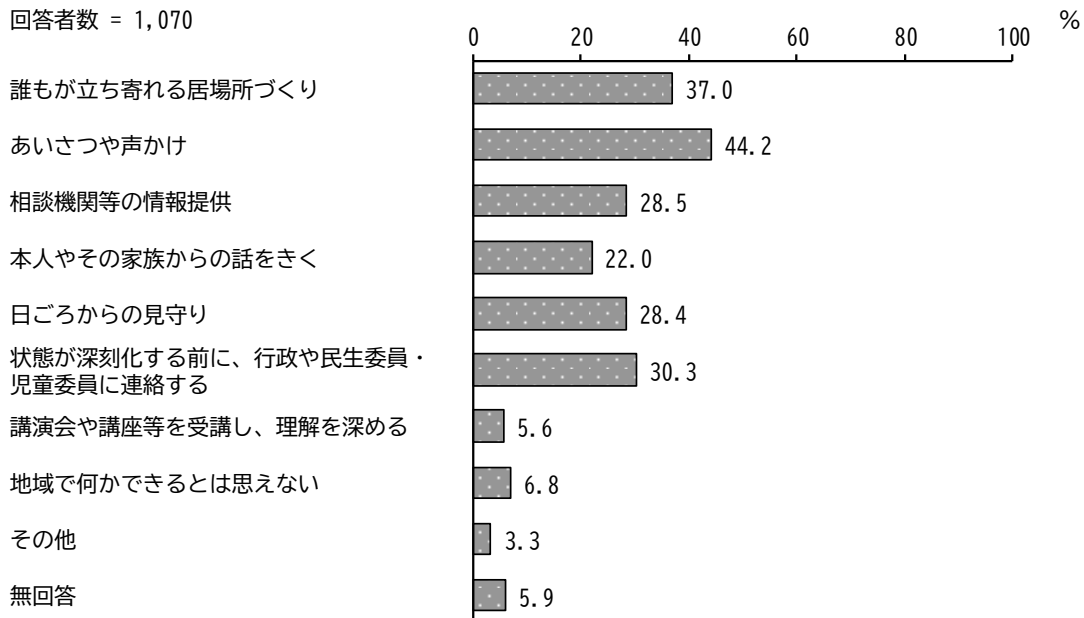
問 15-1 問 15 で「認知症や障がいのある人が生活するために地域住民の協力は必要」と回答した方にお尋ねします。
どのような協力ができると思いますか。(〇は主なもの3つまで)

「あいさつや声かけ」の割合が 71.4%と最も高く、次いで「日ごろからの見守り」の割合が 61.0%、「誰もが立ち寄れる居場所づくり」の割合が 32.8%となっています。



問 16 社会的孤立やひきこもりが社会問題となっていますが、地域として、これらの問題に対してどのようなことができると思いますか。(〇は主なもの3つまで)

「あいさつや声かけ」の割合が 44.2%と最も高く、次いで「誰もが立ち寄れる居場所づくり」の割合が 37.0%、「状態が深刻化する前に、行政や民生委員・児童委員に連絡する」の割合が 30.3%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、60～79歳で「あいさつや声かけ」の割合が、20～49歳で「状態が深刻化する前に、行政や民生委員・児童委員に連絡する」の割合が、他の年齢層に比べ高くなっています。

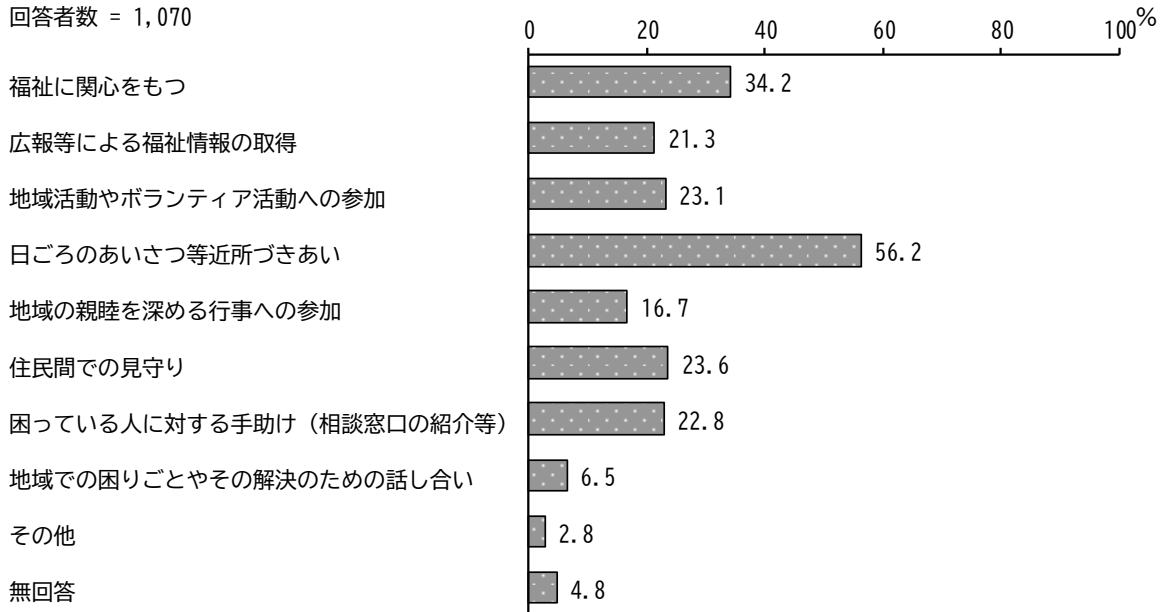
単位：%

区分	回答者数(件)	誰もが立ち寄れる居場所づくり	あいさつや声かけ	相談機関等の情報提供	本人やその家族からの話をきく	日ごろからの見守り	状態が深刻化する前に、行政や民生委員・児童委員に連絡する	講演会や講座等を受講し、理解を深める	地域で何かできるとは思えない	その他	無回答
全体	1,070	37.0	44.2	28.5	22.0	28.4	30.3	5.6	6.8	3.3	5.9
18～19歳	10	20.0	20.0	10.0	10.0	20.0	20.0	20.0	10.0	—	10.0
20～29歳	56	39.3	32.1	28.6	32.1	23.2	37.5	8.9	5.4	3.6	3.6
30～39歳	101	39.6	39.6	29.7	26.7	18.8	36.6	7.9	8.9	2.0	—
40～49歳	174	40.8	39.1	29.9	23.6	26.4	35.6	6.9	8.6	4.0	2.3
50～59歳	185	39.5	33.0	36.2	34.1	25.9	31.4	4.3	9.2	4.3	3.2
60～69歳	180	32.8	52.2	31.1	17.2	31.7	23.3	6.1	7.8	3.3	5.0
70～79歳	218	37.6	57.8	24.8	13.8	34.9	28.9	3.7	4.1	2.3	9.2
80歳以上	142	31.0	44.4	19.7	16.9	28.9	27.5	4.2	3.5	3.5	14.1

問17 今後、地域のつながりを高めるうえで、地域住民として、どのようなことができると考えますか。(〇は主なもの3つまで)

「日ごろのあいさつ等近所づきあい」の割合が56.2%と最も高く、次いで「福祉に関心をもつ」の割合が34.2%、「住民間での見守り」の割合が23.6%となっています。

回答者数 = 1,070



【年齢別】

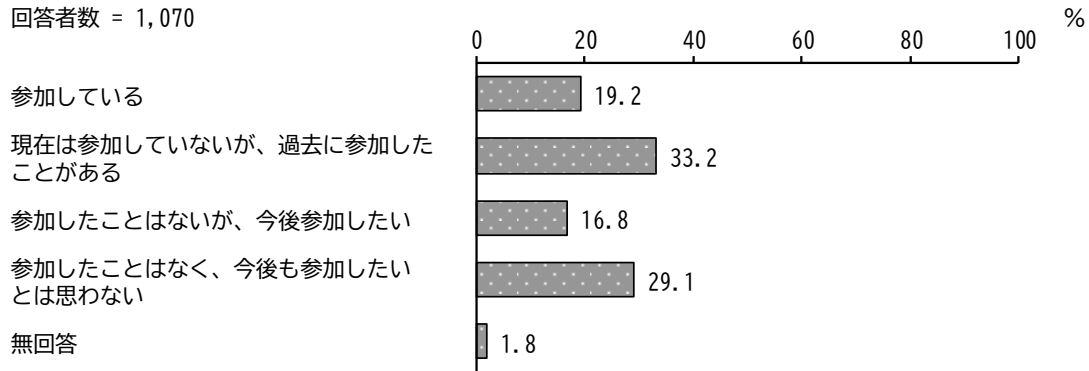
年齢別にみると、すべての年齢で「日ごろのあいさつ等近所づきあい」の割合が高くなっていますが、20～29歳で「福祉に関心をもつ」の割合が、50～59歳で「地域活動やボランティア活動への参加」「困っている人に対する手助け(相談窓口の紹介等)」の割合が、他の年齢と比べ高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	福祉に関心をもつ	広報等による福祉情報の取得	地域活動やボランティア活動への参加	日ごろのあいさつ等近所づきあい	地域の親睦を深める行事への参加	住民間での見守り	困っている人に対する手助け(相談窓口の紹介等)	地域での困りごとやその解決のための話し合い	その他	無回答
全体	1,070	34.2	21.3	23.1	56.2	16.7	23.6	22.8	6.5	2.8	4.8
18～19歳	10	30.0	10.0	10.0	50.0	—	10.0	10.0	—	10.0	10.0
20～29歳	56	42.9	16.1	23.2	53.6	19.6	21.4	19.6	3.6	1.8	3.6
30～39歳	101	29.7	22.8	28.7	56.4	23.8	18.8	16.8	5.9	3.0	1.0
40～49歳	174	31.6	18.4	23.6	55.2	20.1	26.4	28.2	7.5	2.9	4.0
50～59歳	185	41.1	19.5	30.3	51.9	11.9	23.2	30.8	5.9	3.2	3.2
60～69歳	180	36.7	25.0	27.2	49.4	14.4	25.6	23.9	3.9	3.3	5.0
70～79歳	218	30.3	23.4	17.4	63.3	16.5	22.9	20.2	9.2	2.3	5.5
80歳以上	142	30.3	21.1	12.7	63.4	17.6	23.9	14.8	7.7	2.1	9.2

問 18 あなたは、自治会活動などの地域活動に参加していますか。(○は1つだけ)

「現在は参加していないが、過去に参加したことがある」の割合が33.2%と最も高く、次いで「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」の割合が29.1%、「参加している」の割合が19.2%となっています。



【性別】

性別でみると、男性で「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」の割合が、女性で「現在は参加していないが、過去に参加したことがある」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	参加している	現在は参加していないが、過去に参加したことがある	参加したことはなく、今後参加したい	参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない	無回答
全 体	1,070	19.2	33.2	16.8	29.1	1.8
男性	457	17.3	28.0	18.6	33.9	2.2
女性	599	20.5	37.4	15.4	25.2	1.5
その他	7	-	14.3	28.6	57.1	-

【年齢別】

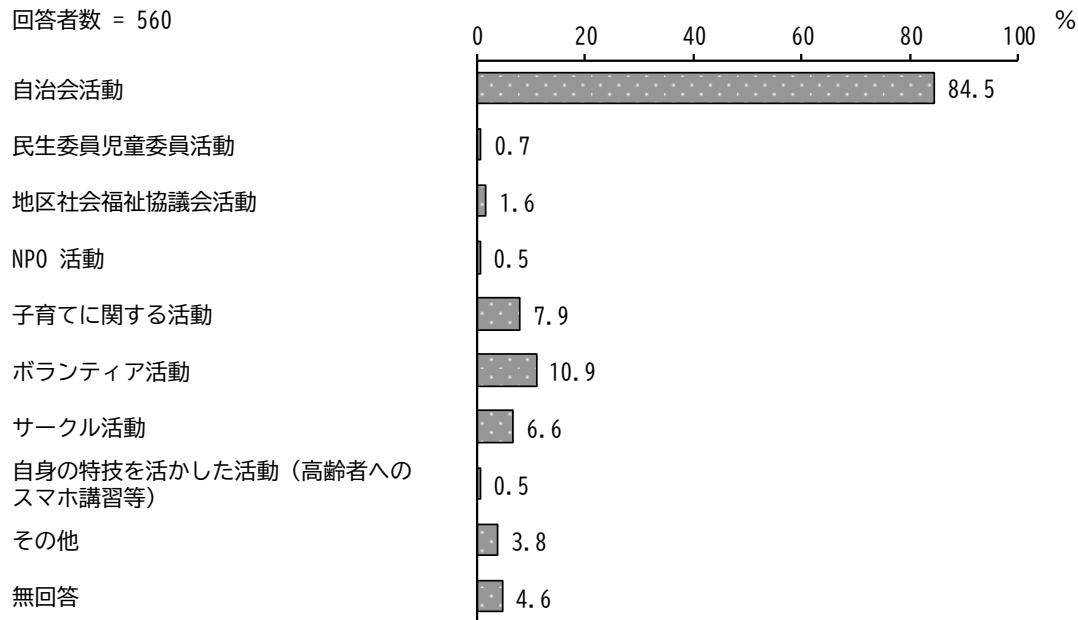
年齢別にみると、18～49歳で「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」の割合が、50歳以上で「現在は参加していないが、過去に参加したことがある」の割合が高くなっています。一方で、18～39歳で「参加したことはないが、今後参加したい」の割合が、他の年齢層に比べ高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	参加している	現在は参加していないが、 過去に参加したことがある	参加したことはないが、 今後参加したい	参加したことはなく、 今後も参加したいとは思わない	無回答
全 体	1,070	19.2	33.2	16.8	29.1	1.8
18～19 歳	10	—	—	40.0	60.0	—
20～29 歳	56	3.6	16.1	19.6	58.9	1.8
30～39 歳	101	5.9	7.9	34.7	51.5	—
40～49 歳	174	18.4	28.2	18.4	35.1	—
50～59 歳	185	20.5	35.1	19.5	24.9	—
60～69 歳	180	16.1	43.3	17.2	22.8	0.6
70～79 歳	218	27.1	37.6	10.6	21.6	3.2
80 歳以上	142	26.1	44.4	5.6	16.9	7.0

問 18-1 問 18 で地域活動に「1. 参加している」または「2. 現在は参加していないが、過去に参加したことがある」と回答した方にお尋ねします。
 どのような活動内容ですか。(〇はいくつでも)

「自治会活動」の割合が 84.5%と最も高く、次いで「ボランティア活動」の割合が 10.9%となっています。



【年齢別】

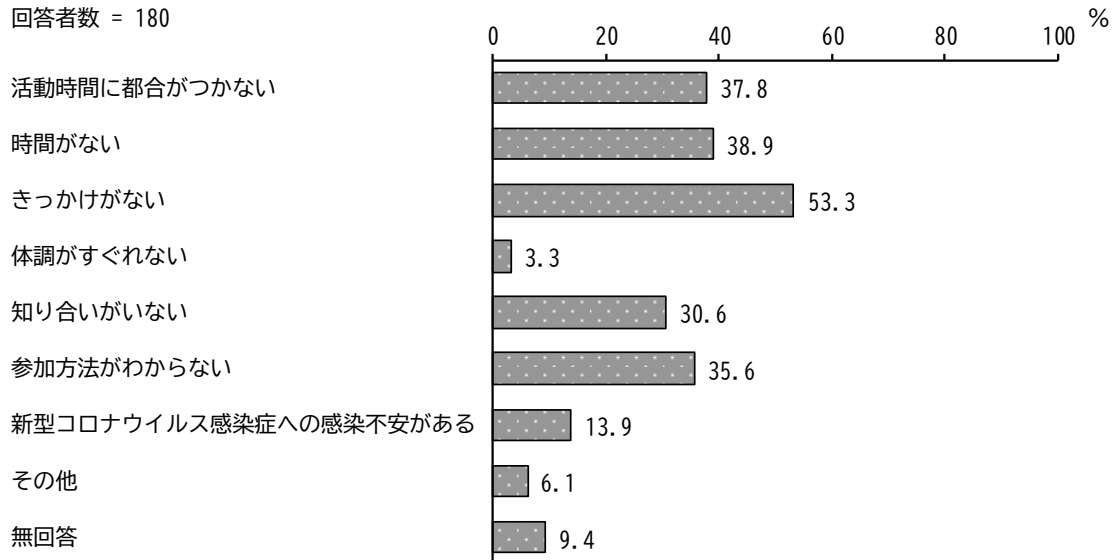
年齢別にみると、全ての年齢において「自治会活動」の割合が高くなっていますが、40～49歳で「子育てに関する活動」の割合が、20～29歳、80歳以上で「ボランティア活動」の割合が、他の年齢と比べ高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	自治会活動	民生委員児童委員活動	地区社会福祉協議会活動	NPO 活動	子育てに関する活動	ボランティア活動	サークル活動	自身の特技を活かした活動 (高齢者へのスマホ講習等)	その他	無回答
全体	560	84.5	0.7	1.6	0.5	7.9	10.9	6.6	0.5	3.8	4.6
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29歳	11	54.5	—	—	—	—	36.4	—	—	—	9.1
30～39歳	14	92.9	—	—	—	14.3	—	14.3	—	—	—
40～49歳	81	82.7	—	—	—	28.4	9.9	6.2	—	2.5	1.2
50～59歳	103	89.3	—	1.0	1.9	10.7	6.8	1.0	—	6.8	2.9
60～69歳	107	90.7	—	—	0.9	6.5	3.7	4.7	—	1.9	4.7
70～79歳	141	86.5	1.4	0.7	—	0.7	12.8	9.2	1.4	3.5	2.8
80歳以上	100	73.0	2.0	7.0	—	—	20.0	11.0	1.0	5.0	12.0

問 18-2 問 18 で「地域活動に参加したことはないが、今後参加したい」と回答した方にお尋ねします。現在、参加していない理由は何ですか。（〇はいくつでも）

「きっかけがない」の割合が 53.3%と最も高く、次いで「時間がない」の割合が 38.9%、「活動時間に都合が見つからない」の割合が 37.8%となっています。



【年齢別】

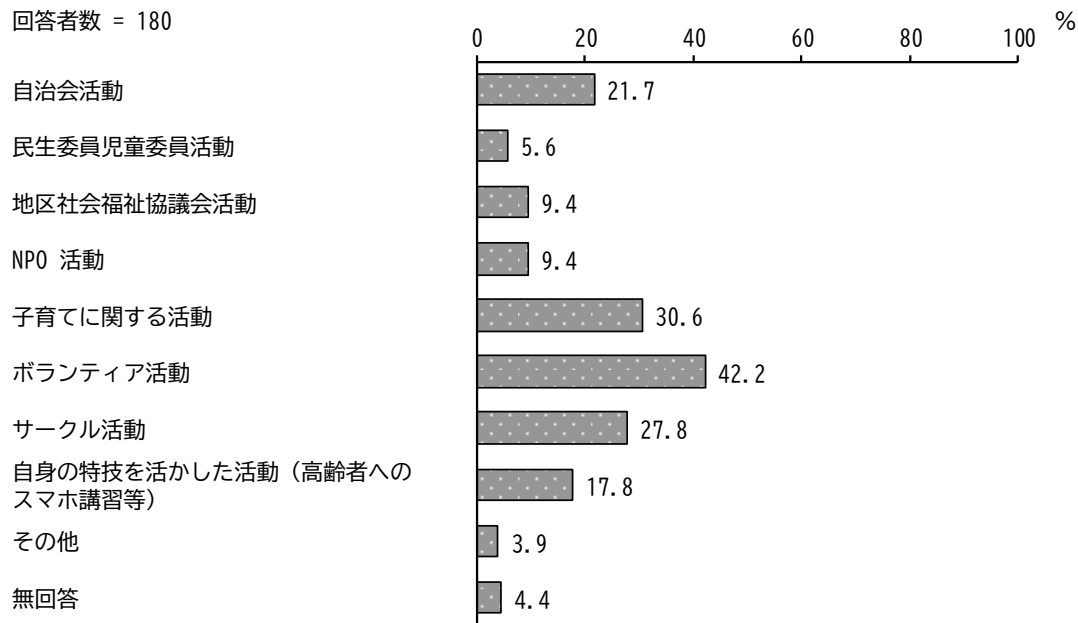
年齢別にみると、30～39 歳で「参加方法がわからない」の割合が、50～59 歳で「活動時間に都合が見つからない」の割合が、80 歳以上で「新型コロナウイルス感染症への感染不安がある」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	活動時間に 都合が見つ からない	時間 がない	き っ か げ が な い	体 調 が す ぐ れ な い	知 り 合 い が い な い	参 加 方 法 が わ か ら な い	新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス 感 染 症 へ の 感 染 不 安 が あ る	そ の 他	無 回 答
全 体	180	37.8	38.9	53.3	3.3	30.6	35.6	13.9	6.1	9.4
18～19 歳	4	75.0	75.0	75.0	—	25.0	75.0	25.0	—	—
20～29 歳	11	54.5	63.6	72.7	—	45.5	27.3	18.2	9.1	—
30～39 歳	35	37.1	45.7	42.9	—	37.1	45.7	8.6	—	11.4
40～49 歳	32	34.4	34.4	56.3	3.1	25.0	40.6	6.3	15.6	12.5
50～59 歳	36	52.8	41.7	50.0	2.8	22.2	19.4	2.8	8.3	5.6
60～69 歳	31	35.5	29.0	64.5	6.5	41.9	35.5	22.6	—	12.9
70～79 歳	23	21.7	34.8	47.8	4.3	26.1	39.1	26.1	4.3	4.3
80 歳以上	8	—	12.5	37.5	12.5	12.5	25.0	37.5	12.5	25.0

問 18-3 問 18 で「地域活動に参加したことはないが、今後参加したい」と回答した方にお尋ねします。どのような活動に参加したいですか。(〇はいくつでも)

「ボランティア活動」の割合が 42.2%と最も高く、次いで「子育てに関する活動」の割合が 30.6%、「サークル活動」の割合が 27.8%となっています。



【性別】

性別で見ると、男性で「ボランティア活動」の割合が、女性で「子育てに関する活動」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	自治会活動	民生委員児童委員活動	地区社会福祉協議会活動	NPO活動	子育てに関する活動	ボランティア活動	サークル活動	自身の特技を活かした活動 (高齢者へのスマホ講習等)	その他	無回答
全体	180	21.7	5.6	9.4	9.4	30.6	42.2	27.8	17.8	3.9	4.4
男性	85	30.6	3.5	8.2	4.7	16.5	44.7	20.0	15.3	5.9	4.7
女性	92	14.1	7.6	10.9	14.1	44.6	40.2	34.8	19.6	2.2	4.3
その他	2	-	-	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-

【年齢別】

年齢別にみると、20～29歳で「自治会活動」の割合が、30～39歳で「子育てに関する活動」の割合が、80歳以上で「サークル活動」の割合が、他の年齢に比べ高くなっています。

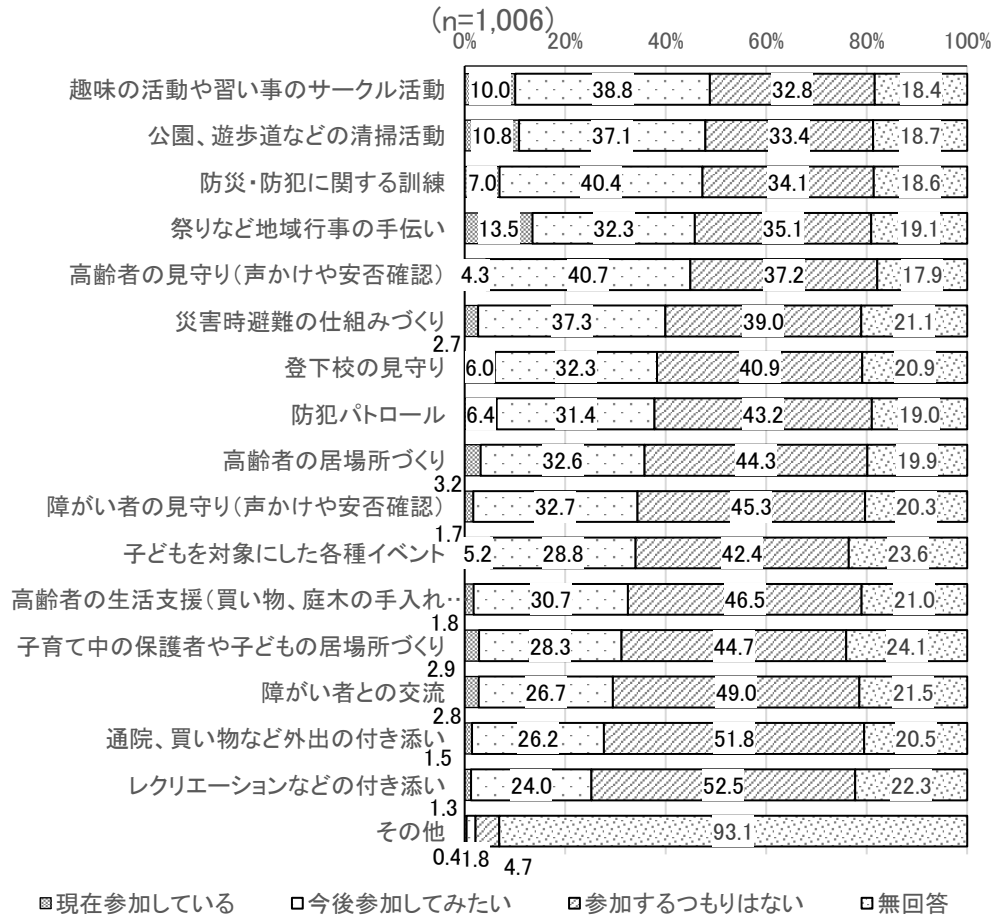
単位：％

区分	回答者数(件)	自治会活動	民生委員児童委員活動	地区社会福祉協議会活動	NPO活動	子育てに関する活動	ボランティア活動	サークル活動	自身の特技を活かした活動 (高齢者へのスマホ講習等)	その他	無回答
全 体	180	21.7	5.6	9.4	9.4	30.6	42.2	27.8	17.8	3.9	4.4
18～19歳	4	—	—	—	—	—	50.0	25.0	25.0	—	—
20～29歳	11	54.5	18.2	—	9.1	45.5	36.4	9.1	27.3	—	—
30～39歳	35	11.4	5.7	11.4	5.7	71.4	37.1	37.1	28.6	—	—
40～49歳	32	34.4	15.6	6.3	9.4	43.8	43.8	21.9	12.5	6.3	—
50～59歳	36	25.0	2.8	5.6	13.9	19.4	50.0	19.4	19.4	2.8	5.6
60～69歳	31	12.9	—	12.9	16.1	12.9	48.4	29.0	12.9	6.5	3.2
70～79歳	23	17.4	—	17.4	4.3	—	39.1	34.8	13.0	—	13.0
80歳以上	8	12.5	—	12.5	—	—	12.5	50.0	—	25.0	25.0

<参考>平成 29 年度調査

「あなたは地域の活動に参加していますか、今後参加してみたいと思いますか（単一回答）」

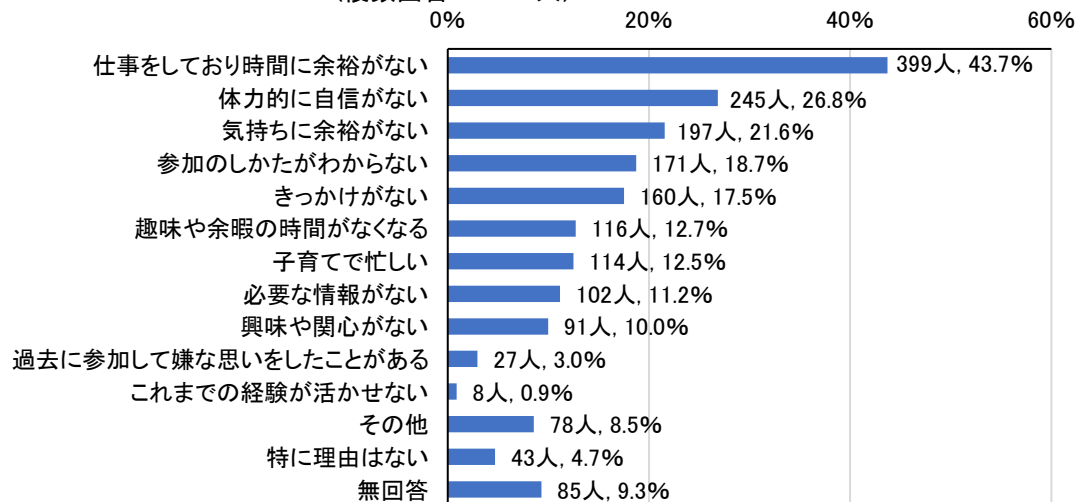
地域の活動への参加について



「現在地域活動に参加していない、または参加しない理由は何ですか（複数回答）」

地域活動に参加していない、または参加しない理由

(複数回答 n=913人)



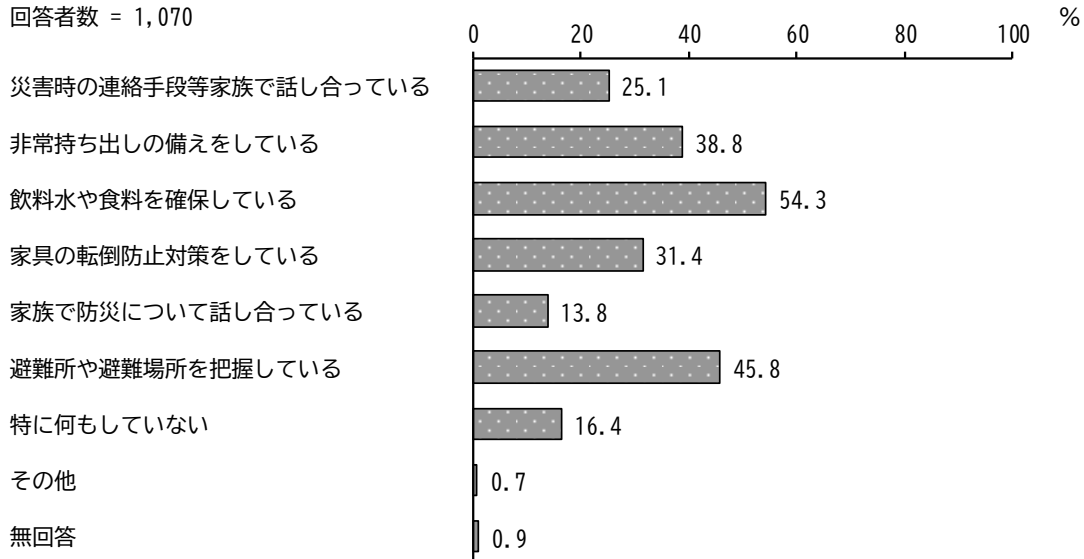
平成 29 年度調査結果からも、何らかの機会や適切な情報があれば、「参加できるかもしれない」と考える人がいることがうかがえます。

(5) 災害について

問 19 災害時の備えについて教えてください。(〇はいくつでも)

「飲料水や食料を確保している」の割合が 54.3%と最も高く、次いで「避難所や避難場所を把握している」の割合が 45.8%、「非常持ち出しの備えをしている」の割合が 38.8%となっています。

回答者数 = 1,070



【地区別】

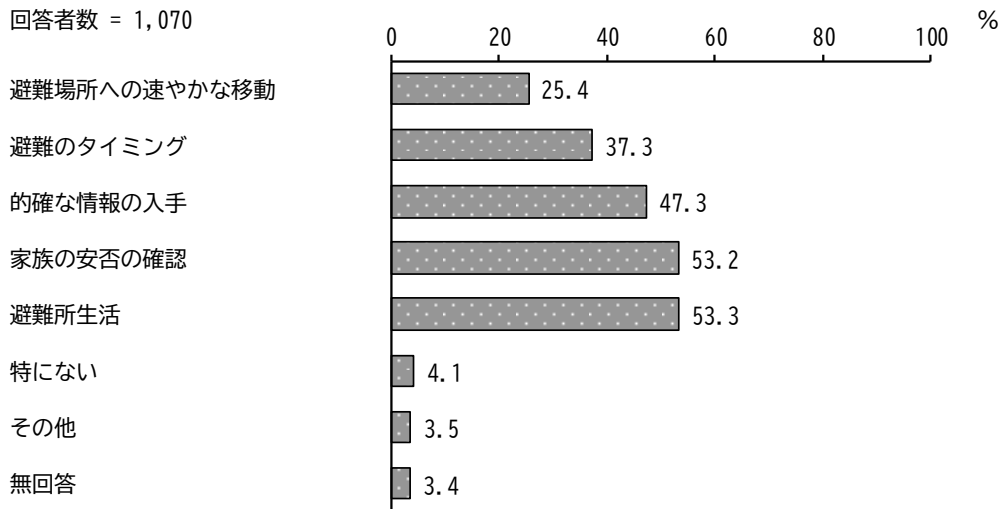
地区別にみると、すべての地区で「飲料水や食料を確保している」の割合が高くなっていますが、中央地区で「避難所や避難場所を把握している」の割合が、上草柳地区で「非常持ち出しの備えをしている」の割合が、他の地区に比べ高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	災害時の連絡手段等 家族で話し合っている	非常持ち出しの 備えをしている	飲料水や食料を 確保している	家具の転倒防止 対策をしている	家族で防災について 話し合っている	避難所や避難場所を 把握している	特になにもして いない	その他	無回答
全体	1,070	25.1	38.8	54.3	31.4	13.8	45.8	16.4	0.7	0.9
下鶴間・つきみ野地区	211	26.5	39.3	55.5	34.6	15.2	43.6	13.3	0.5	1.4
中央林間地区	141	19.1	40.4	52.5	31.9	10.6	39.7	18.4	0.7	-
南林間地区	103	27.2	40.8	59.2	38.8	16.5	53.4	14.6	-	1.0
鶴間地区	94	24.5	34.0	55.3	33.0	10.6	47.9	19.1	1.1	1.1
深見大和地区	116	26.7	37.1	56.9	29.3	13.8	50.9	16.4	0.9	-
上草柳地区	79	29.1	43.0	60.8	29.1	19.0	44.3	13.9	-	2.5
中央地区	73	21.9	39.7	67.1	28.8	13.7	58.9	11.0	-	-
桜丘地区	57	28.1	40.4	45.6	22.8	15.8	42.1	24.6	1.8	1.8
和田地区	51	31.4	39.2	51.0	21.6	15.7	43.1	17.6	-	2.0
福田北地区	51	19.6	37.3	43.1	33.3	11.8	37.3	15.7	2.0	-
渋谷西地区	90	24.4	34.4	42.2	30.0	11.1	41.1	20.0	1.1	1.1

問 20 災害時の避難について不安に感じることは何ですか。(〇は主なもの3つまで)

「避難所生活」の割合が 53.3%と最も高く、次いで「家族の安否の確認」の割合が 53.2%、「的確な情報の入手」の割合が 47.3%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、80歳以上で「避難場所への速やかな移動」の割合が、40～49歳で「家族の安否の確認」の割合が、20～29歳で「避難所生活」の割合が他の年齢に比べ、高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	避難場所への速やかな移動	避難のタイミング	的確な情報の入手	家族の安否の確認	避難所生活	特にない	その他	無回答
全体	1,070	25.4	37.3	47.3	53.2	53.3	4.1	3.5	3.4
18～19歳	10	10.0	30.0	60.0	70.0	30.0	10.0	—	—
20～29歳	56	35.7	25.0	51.8	60.7	64.3	3.6	3.6	1.8
30～39歳	101	21.8	40.6	38.6	61.4	64.4	2.0	4.0	2.0
40～49歳	174	18.4	37.9	47.1	72.4	56.9	0.6	5.2	1.7
50～59歳	185	18.4	33.0	47.0	62.2	56.2	3.8	5.9	2.7
60～69歳	180	19.4	40.6	56.1	47.2	52.8	4.4	2.8	3.9
70～79歳	218	24.8	39.4	48.6	46.3	48.6	7.3	1.4	2.3
80歳以上	142	50.7	37.3	38.7	26.1	43.7	4.2	2.1	9.2

【クロス集計】（ひきこもりの状態にある人の有無×災害時の避難について不安）

ひきこもりの状態にある人がいる世帯で「避難所生活」の割合が最も高く、次いで「家族の安否の確認」「的確な情報の入手」の割合が高くなっています。

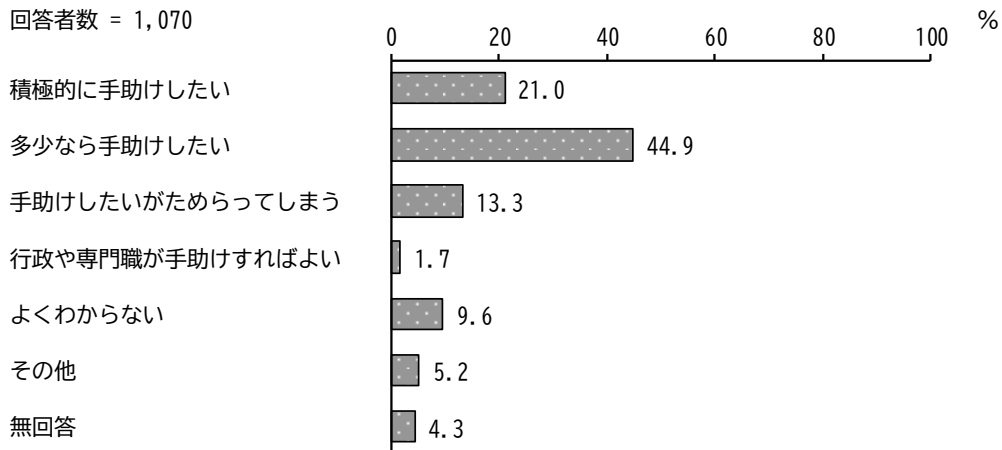
単位：％

区分	回答者数（件）	避難場所への速やかな移動	避難のタイミング	的確な情報の入手	家族の安否の確認	避難所生活	特にない	その他	無回答
全 体	1,070	25.4	37.3	47.3	53.2	53.3	4.1	3.5	3.4
ひきこもりの人がいる	36	8.3	33.3	38.9	55.6	63.9	5.6	8.3	2.8
ひきこもりの人はいない	1,014	25.8	37.8	47.7	53.6	53.2	4.0	3.3	3.0

問 21 あなたの近所に高齢者や障がいのある人がいる場合、あなたは避難する際や災害時にその人の手助けをしますか。

(○は1つだけ、いない場合はいると仮定して回答してください)

「多少なら手助けしたい」の割合が44.9%と最も高く、次いで「積極的に手助けしたい」の割合が21.0%、「手助けしたいがためらってしまう」の割合が13.3%となっています。



【年齢別】

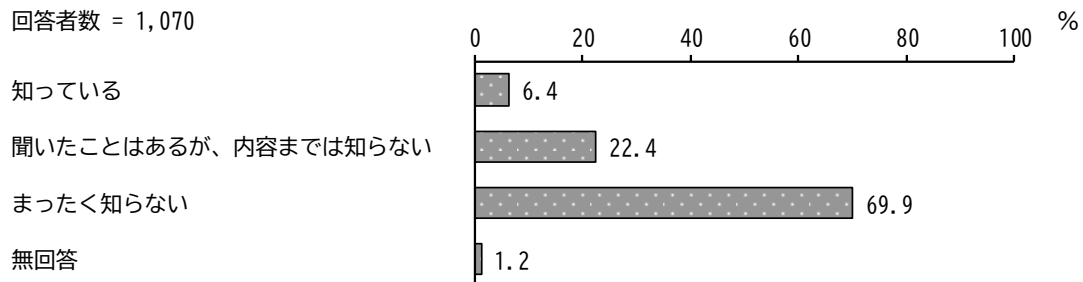
年齢別にみると、すべての年齢で「多少なら手助けしたい」の割合が高くなっていますが、30～39歳で「積極的に手助けしたい」の割合が、他の年齢と比べ高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	積極的に手助けしたい	多少なら手助けしたい	手助けしたいがためらってしまう	行政や専門職が手助けすればよい	よくわからない	その他	無回答
全 体	1,070	21.0	44.9	13.3	1.7	9.6	5.2	4.3
18～19歳	10	20.0	40.0	10.0	10.0	20.0	—	—
20～29歳	56	25.0	53.6	8.9	1.8	10.7	—	—
30～39歳	101	32.7	35.6	17.8	2.0	6.9	5.0	—
40～49歳	174	21.8	43.7	19.0	0.6	7.5	6.3	1.1
50～59歳	185	23.8	48.6	15.7	1.1	9.2	1.6	—
60～69歳	180	23.9	48.9	8.9	—	13.3	2.8	2.2
70～79歳	218	16.1	47.2	12.8	3.7	8.3	5.0	6.9
80歳以上	142	11.3	35.2	8.5	2.1	11.3	14.1	17.6

問 22 大和市では、地震などの災害発生時に、家族等の援助が十分に得られず、助けを必要とする避難行動要支援者（障がいのある人、高齢者などで、災害時に何らかの支援が必要な人）の名簿を整備をし、災害発生時に支援が得られる仕組みづくりに取り組んでいます。あなたはこの制度を知っていますか。（○は1つだけ）

「まったく知らない」の割合が69.9%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容までは知らない」の割合が22.4%となっています。



【クロス集計】（同居している要支援者の状態×避難行動要支援者制度の認知度）

同居している要支援者の状態別でみると、すべての区分において、避難行動要支援者制度について「まったく知らない」の割合が高く、特に外国籍の人がいる世帯で割合が高くなっています。一方、障害福祉サービスを受けている人がいる世帯では、「知っている」の割合が他の区分に比べ、高くなっています。

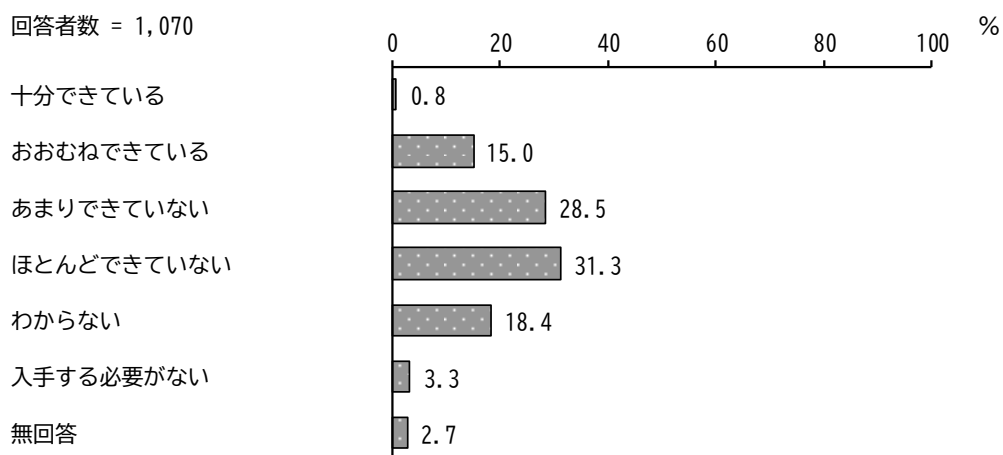
単位：%

区分	回答者数 (件)	知っている	聞いたことはあるが、内容までは知らない	まったく知らない	無回答
全 体	225	7.1	24.9	66.2	1.8
6歳未満	34	—	11.8	88.2	—
外国籍	3	—	—	100.0	—
介護保険サービスを受けている	81	11.1	25.9	60.5	2.5
障害福祉サービスを受けている	41	17.1	26.8	53.7	2.4
介護保険や障害福祉サービス等公的サービスは受けていない	36	2.8	27.8	69.4	—
その他	31	—	19.4	80.6	—

(6) 福祉施策、福祉サービスについて

問 23 あなたは、自分にとって必要な福祉サービスの情報をどの程度入手できていますか。(○は1つだけ)

「ほとんどできていない」の割合が31.3%と最も高く、次いで「あまりできていない」の割合が28.5%、「わからない」の割合が18.4%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、18～59歳で「ほとんどできていない」の割合が、60歳以上で「あまりできていない」の割合が高くなっています。一方で、80歳以上では「おおむねできている」の割合が、他の年齢に比べ高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	十分できている	おおむねできている	あまりできていない	ほとんどできていない	わからない	入手する必要がある	無回答
全 体	1,070	0.8	15.0	28.5	31.3	18.4	3.3	2.7
18～19 歳	10	—	—	10.0	60.0	20.0	10.0	—
20～29 歳	56	—	10.7	19.6	46.4	17.9	5.4	—
30～39 歳	101	—	17.8	19.8	30.7	25.7	5.0	1.0
40～49 歳	174	1.7	8.6	28.2	31.0	26.4	2.9	1.1
50～59 歳	185	1.1	11.4	28.6	33.0	17.3	5.4	3.2
60～69 歳	180	—	11.1	33.9	30.0	21.1	2.8	1.1
70～79 歳	218	0.9	19.3	33.0	31.7	10.1	1.4	3.7
80 歳以上	142	1.4	25.4	26.8	23.2	14.1	2.1	7.0

【クロス集計】（同居している要支援者の状態×福祉サービスの情報の入手状況）

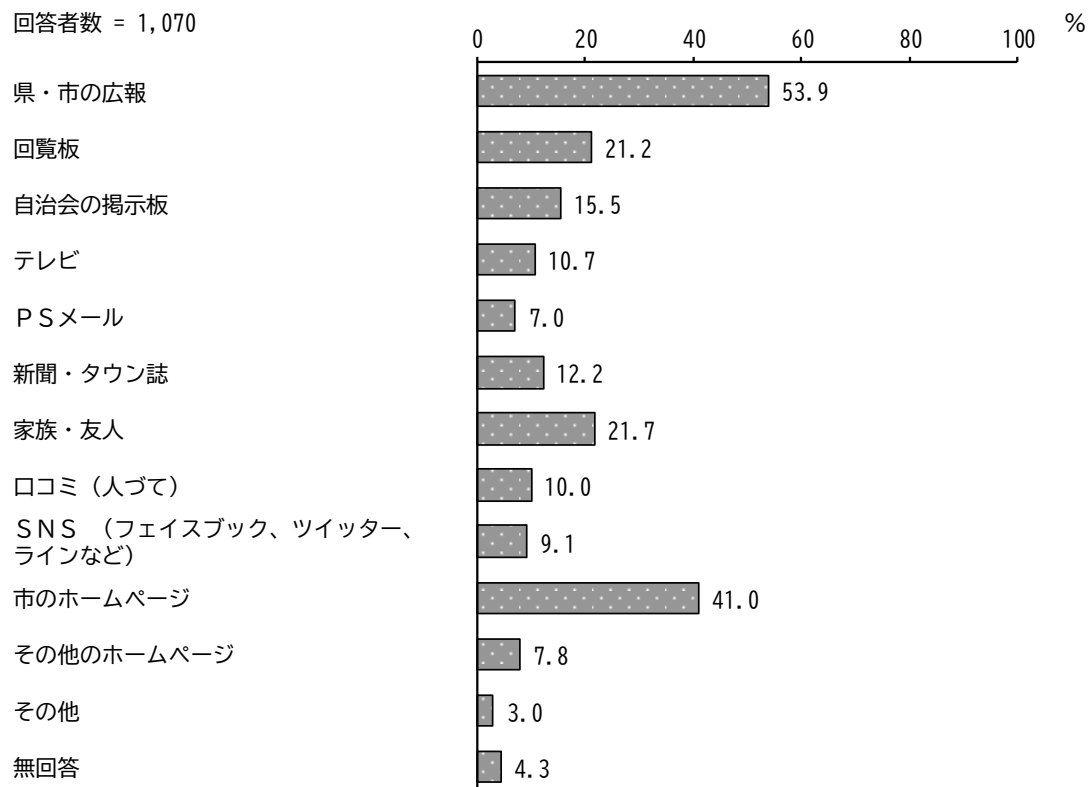
同居している要支援者の状態別で見ると、外国籍の人がいる世帯、介護保険や障害福祉サービス等公的サービスは受けていない人がいる世帯で「ほとんどできていない」の割合が高くなっています。一方、障害福祉サービスを受けている人がいる世帯で「おおむねできている」の割合が、他の区分に比べ高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	十分できている	おおむねできている	あまりできていない	ほとんどできていない	わからない	入手する必要がない	無回答
全 体	225	0.4	20.9	24.0	29.8	20.9	0.9	3.1
6歳未満	34	—	11.8	26.5	29.4	32.4	—	—
外国籍	3	—	—	—	66.7	—	—	33.3
介護保険サービスを受けている	81	—	32.1	24.7	25.9	13.6	1.2	2.5
障害福祉サービスを受けている	41	—	36.6	29.3	9.8	19.5	—	4.9
介護保険や障害福祉サービス等 公的サービスは受けていない	36	2.8	8.3	33.3	38.9	13.9	2.8	—
その他	31	—	3.2	16.1	38.7	41.9	—	—

問 24 あなたは、福祉サービスに関する情報が必要な場合、どこから入手していますか。(〇はいくつでも)

「県・市の広報」の割合が 53.9%と最も高く、次いで「市のホームページ」の割合が 41.0%、「家族・友人」の割合が 21.7%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、18～59歳で「市のホームページ」の割合が、60歳以上で「県・市の広報」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	県・市の広報	回覧板	自治会の掲示板	テレビ	PSメール	新聞・タウン誌	家族・友人	口コミ(人づて)	SNS(フェイスブック、ツイッター、ラインなど)	市のホームページ	その他のホームページ	その他	無回答
全 体	1,070	53.9	21.2	15.5	10.7	7.0	12.2	21.7	10.0	9.1	41.0	7.8	3.0	4.3
18～19歳	10	—	—	—	—	—	—	30.0	10.0	50.0	50.0	—	—	10.0
20～29歳	56	33.9	10.7	5.4	8.9	5.4	3.6	14.3	12.5	21.4	42.9	14.3	5.4	1.8
30～39歳	101	38.6	5.9	6.9	5.0	3.0	6.9	20.8	5.9	23.8	66.3	14.9	2.0	3.0
40～49歳	174	48.3	16.7	6.9	5.2	14.9	6.3	14.4	12.6	9.8	54.0	10.3	4.0	3.4
50～59歳	185	51.9	14.6	13.5	9.2	10.8	8.1	25.9	10.3	9.2	59.5	13.0	1.1	2.2
60～69歳	180	60.0	22.2	15.6	11.7	6.7	14.4	20.0	9.4	5.6	45.0	6.1	2.2	2.8
70～79歳	218	69.3	32.1	27.5	14.2	3.7	21.1	20.6	6.9	3.7	17.4	2.3	2.8	5.0
80歳以上	142	54.9	32.4	21.1	18.3	2.1	16.2	32.4	14.1	2.8	14.1	1.4	5.6	10.6

【クロス集計】（同居している要支援者の状態×福祉サービスの情報の入手先）

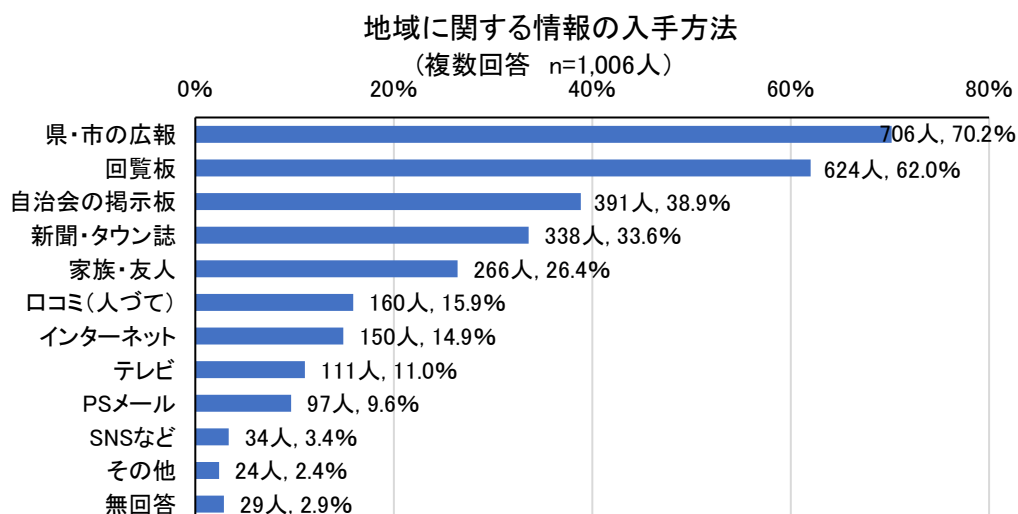
同居している要支援者の状態別でみると、介護保険サービスを受けている人がいる世帯で「県・市の広報」の割合が、障害福祉サービスを受けている人がいる世帯で「回覧板」の割合が、介護保険や障害福祉サービス等公的サービスは受けていない人がいる世帯で「自治会の掲示板」の割合が、他の区分に比べ高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	県・市の広報	回覧板	自治会の掲示板	テレビ	PSメール	新聞・タウン誌	家族・友人	口コミ（人づて）	SNS（フェイスブック、ツイッター、ラインなど）	市のホームページ	その他のホームページ	その他	無回答
全体	225	43.1	16.0	11.6	8.0	8.4	9.8	22.7	12.9	9.3	41.8	7.6	4.9	6.7
6歳未満	34	41.2	8.8	8.8	2.9	5.9	11.8	11.8	14.7	17.6	61.8	2.9	5.9	2.9
外国籍	3	—	—	—	—	—	—	—	33.3	33.3	66.7	—	—	—
介護保険サービスを受けている	81	49.4	16.0	9.9	8.6	4.9	11.1	23.5	11.1	7.4	37.0	11.1	8.6	4.9
障害福祉サービスを受けている	41	39.0	24.4	7.3	12.2	4.9	4.9	17.1	19.5	4.9	46.3	4.9	12.2	4.9
介護保険や障害福祉サービス等公的サービスは受けていない	36	38.9	16.7	19.4	5.6	16.7	13.9	19.4	16.7	8.3	50.0	11.1	—	8.3
その他	31	41.9	16.1	9.7	9.7	12.9	9.7	29.0	9.7	12.9	45.2	9.7	3.2	6.5

<参考>平成 29 年度調査

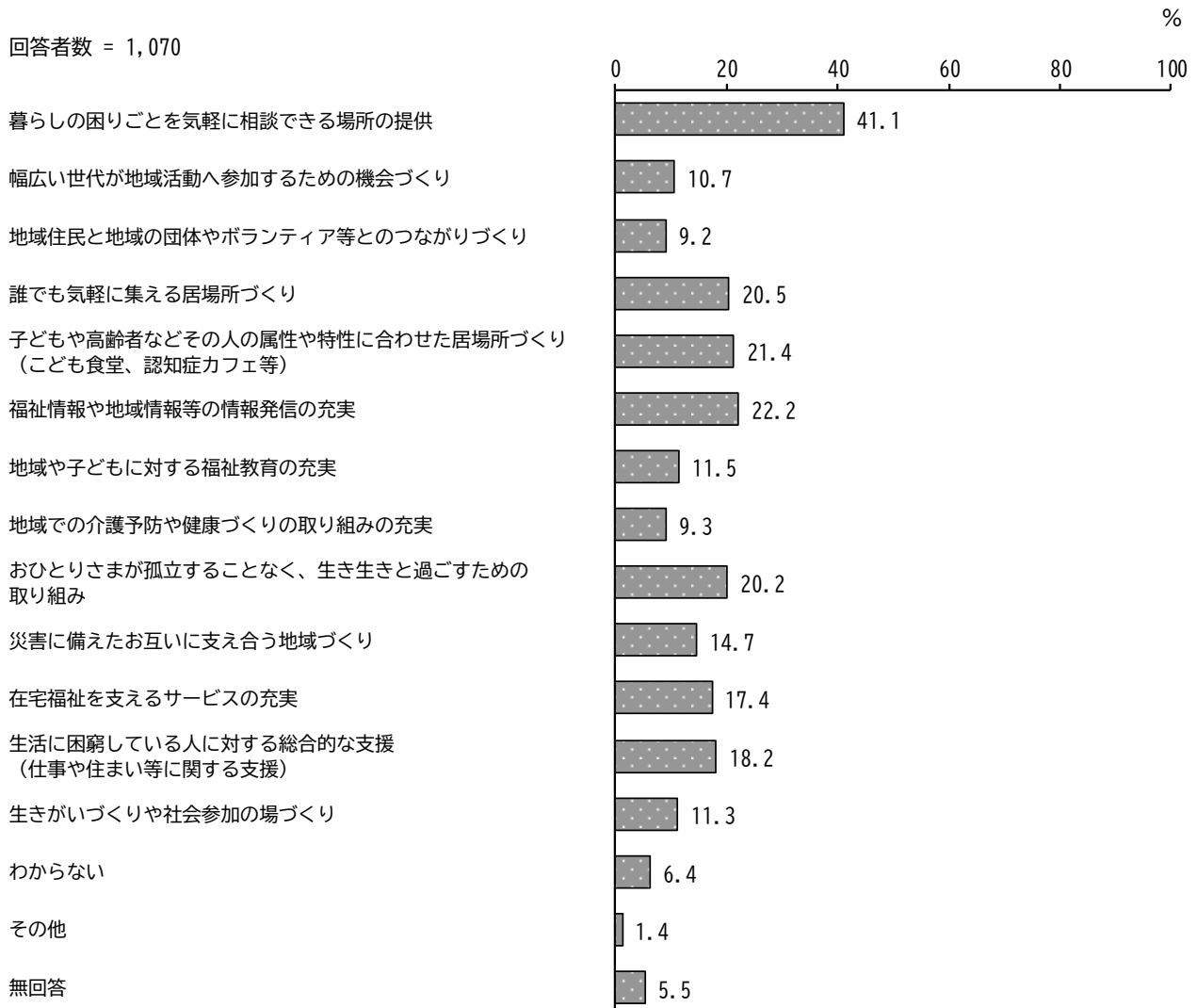
「地域に関する情報はどのように入手されていますか（複数回答）」



平成 29 年度調査時では、広報や回覧板等紙媒体の割合が高くなっています。

問 25 一人ひとりが健康で心豊かな暮らしを送るために、今後どのような福祉的な取り組みが必要と考えますか。(〇は主なもの3つまで)

「暮らしの困りごとを気軽に相談できる場所の提供」の割合が 41.1%と最も高く、次いで「福祉情報や地域情報等の情報発信の充実」の割合が 22.2%、「子どもや高齢者などその人の属性や特性に合わせた居場所づくり(こども食堂、認知症カフェ等)」の割合が 21.4%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、30～39歳で「地域や子どもに対する福祉教育の充実」の割合が、40～49歳で「子どもや高齢者などその人の属性や特性に合わせた居場所づくり（こども食堂、認知症カフェ等）」の割合が、80歳以上で「おひとりさまが孤立することなく、生き生きと過ごすための取り組み」の割合が、他の年齢に比べ高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	暮らしの困りごとを気軽に相談できる場所の提供	幅広い世代が地域活動へ参加するための機会づくり	地域住民と地域の団体やボランティア等とのつながりづくり	誰でも気軽に集える居場所づくり	子どもや高齢者などその人の属性や特性に合わせた居場所づくり (こども食堂、認知症カフェ等)	福祉情報や地域情報等の情報発信の充実	地域や子どもに対する福祉教育の充実	地域での介護予防や健康づくりの取り組みの充実	おひとりさまが孤立することなく、生き生きと過ごすための取り組み	災害に備えたお互いに支え合う地域づくり	在宅福祉を支えるサービスの充実	生活に困窮している人に対する総合的な支援 (仕事や住まい等に関する支援)	生きがいづくりや社会参加の場づくり	わからない	その他	無回答
全体	1,070	41.1	10.7	9.2	20.5	21.4	22.2	11.5	9.3	20.2	14.7	17.4	18.2	11.3	6.4	1.4	5.5
18～19歳	10	20.0	10.0	—	—	—	—	10.0	—	—	10.0	—	—	10.0	20.0	—	30.0
20～29歳	56	32.1	19.6	3.6	30.4	25.0	14.3	32.1	1.8	21.4	17.9	12.5	23.2	16.1	1.8	3.6	1.8
30～39歳	101	25.7	14.9	6.9	13.9	28.7	15.8	33.7	6.9	11.9	23.8	12.9	23.8	12.9	9.9	3.0	2.0
40～49歳	174	40.8	11.5	12.6	17.8	33.9	23.6	17.8	7.5	17.2	13.8	17.8	20.7	16.7	4.0	1.7	2.3
50～59歳	185	43.8	9.2	8.1	17.8	20.0	24.9	9.7	8.6	21.6	17.3	18.4	19.5	11.4	7.6	2.2	2.2
60～69歳	180	47.8	10.0	8.9	21.1	18.3	23.9	4.4	9.4	20.6	8.9	23.9	19.4	12.2	6.7	0.6	6.1
70～79歳	218	48.2	9.6	7.3	23.9	18.3	26.1	4.1	10.1	23.4	10.6	17.4	17.9	7.3	5.0	0.9	6.4
80歳以上	142	34.5	7.0	12.7	23.9	11.3	19.0	2.1	16.2	23.2	19.0	12.7	8.5	7.0	7.7	—	14.1

【クロス集計】（ひきこもりの状態にある人の有無×今後必要と考える福祉的な取組）

ひきこもりの状態にある人がいる世帯で「生活に困窮している人に対する総合的な支援（仕事や住まい等に関する支援）」の割合が最も高く、次いで「暮らしの困りごとを気軽に相談できる場所の提供」「子どもや高齢者などその人の属性や特性に合わせた居場所づくり（こども食堂、認知症カフェ等）」の割合が高くなっています。

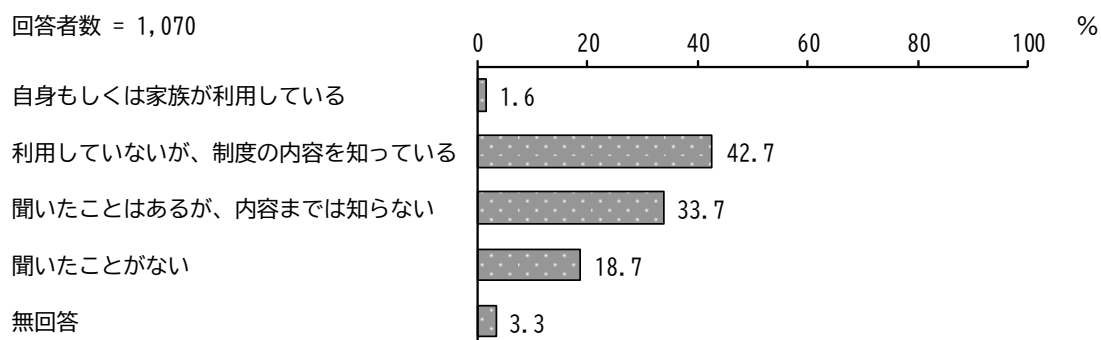
単位：%

区分	回答者数（件）	暮らしの困りごとを気軽に相談できる場所の提供	幅広い世代が地域活動へ参加するための機会づくり	地域住民と地域の団体やボランティア等とのつながりづくり	誰でも気軽に集える居場所づくり	子どもや高齢者などその人の属性や特性に合わせた居場所づくり （こども食堂、認知症カフェ等）	福祉情報や地域情報等の情報発信の充実	地域や子どもに対する福祉教育の充実	地域での介護予防や健康づくりの取り組みの充実	おひとりさまが孤立することなく、生き生きと過ごすための取り組み	災害に備えたお互いに支え合う地域づくり	在宅福祉を支えるサービスの充実	生活に困窮している人に対する総合的な支援（仕事や住まい等に関する支援）	生きがいづくりや社会参加の場づくり	わからない	その他	無回答
全 体	1,070	41.1	10.7	9.2	20.5	21.4	22.2	11.5	9.3	20.2	14.7	17.4	18.2	11.3	6.4	1.4	5.5
ひきこもりの人がいる	36	41.7	11.1	5.6	5.6	33.3	19.4	8.3	2.8	27.8	—	25.0	44.4	5.6	11.1	2.8	2.8
ひきこもりの人はいない	1,014	41.3	10.8	9.2	21.3	21.3	22.5	11.7	9.6	20.0	15.4	17.3	17.5	11.3	5.9	1.4	5.1

(7) 成年後見制度について

問 26 あなたは「成年後見制度」について知っていますか。(〇は1つだけ)

「利用していないが、制度の内容を知っている」の割合が42.7%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容までは知らない」の割合が33.7%、「聞いたことがない」の割合が18.7%となっています。



【年齢別】

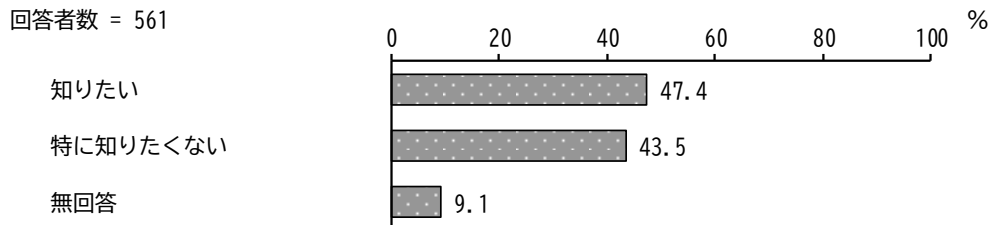
年齢別にみると、年齢が低くなるほど「聞いたことがない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	自身もしくは家族が利用している	利用していないが、制度の内容を知っている	聞いたことはあるが、内容までは知らない	聞いたことがない	無回答
全 体	1,070	1.6	42.7	33.7	18.7	3.3
18～19 歳	10	—	—	10.0	90.0	—
20～29 歳	56	1.8	35.7	23.2	39.3	—
30～39 歳	101	2.0	35.6	31.7	29.7	1.0
40～49 歳	174	1.1	42.5	36.2	19.5	0.6
50～59 歳	185	1.1	42.7	34.1	21.1	1.1
60～69 歳	180	2.8	46.7	36.7	12.2	1.7
70～79 歳	218	—	44.5	38.1	12.8	4.6
80 歳以上	142	3.5	45.8	27.5	11.3	12.0

問 26-1 問 26 で成年後見制度について「3. 聞いたことはあるが、内容までは知らない」「4. 聞いたことがない」と回答した方にお尋ねします。
成年後見制度の内容について知りたいと思いますか。(○は1つだけ)

「知りたい」の割合が47.4%、「特に知りたくない」の割合が43.5%となっています。



【クロス集計】(同居している要支援者の状態×成年後見制度の認知意向)

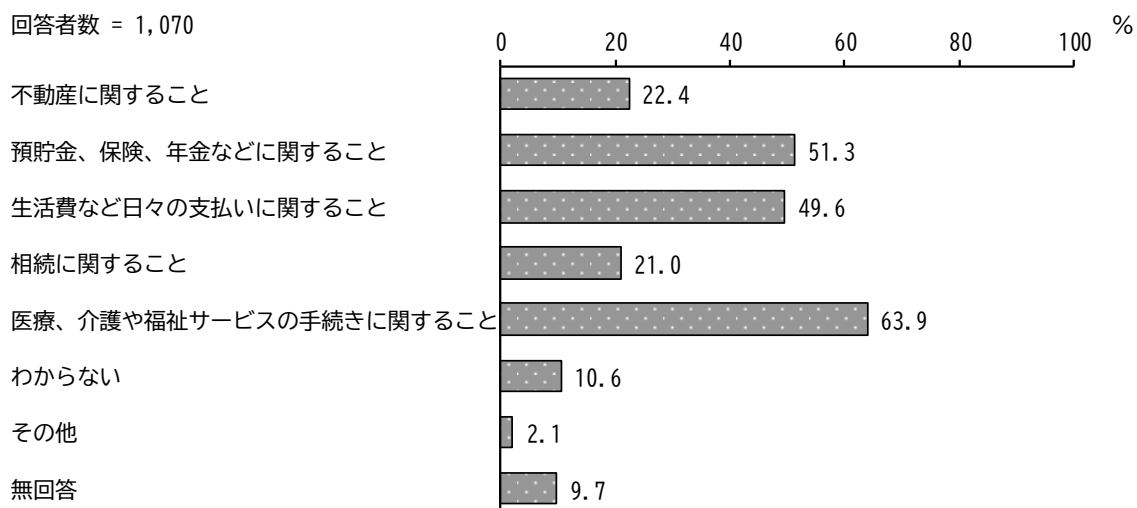
すべての区分において、成年後見制度の内容について「知りたい」の割合が高く、特に障害福祉サービスを受けている人がいる世帯で割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	知りたい	特に知りたくない	無回答
全 体	123	52.0	37.4	10.6
6歳未満	20	60.0	40.0	—
外国籍	3	66.7	33.3	—
介護保険サービスを受けている	39	56.4	33.3	10.3
障害福祉サービスを受けている	14	85.7	14.3	—
介護保険や障害福祉サービス等公的サービスは受けていない	24	41.7	33.3	25.0
その他	18	50.0	44.4	5.6

問 27 あなたが将来、認知症、知的障がい、精神上的の障がいなどで判断能力が低下し、成年後見制度を利用することになった場合、支援してほしいことは何ですか。
(〇はいくつでも)

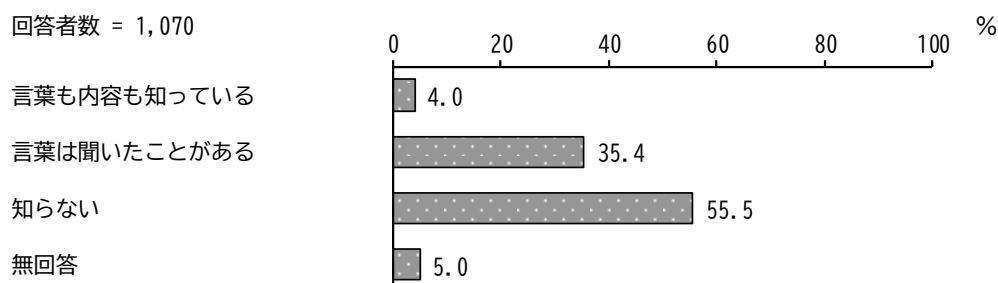
「医療、介護や福祉サービスの手続きに関する事」の割合が 63.9%と最も高く、次いで「預貯金、保険、年金などに関する事」の割合が 51.3%、「生活費など日々の支払いに関する事」の割合が 49.6%となっています。



(8) 再犯防止について

問 28 再犯の防止等の推進に関する法律（再犯防止推進法）について知っていますか。
（○は1つだけ）

「知らない」の割合が 55.5%と最も高く、次いで「言葉は聞いたことがある」の割合が 35.4%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、すべての年齢で「知らない」の割合が高くなっています。70～79歳で「言葉は聞いたことがある」の割合が、他の年齢に比べ高くなっています。

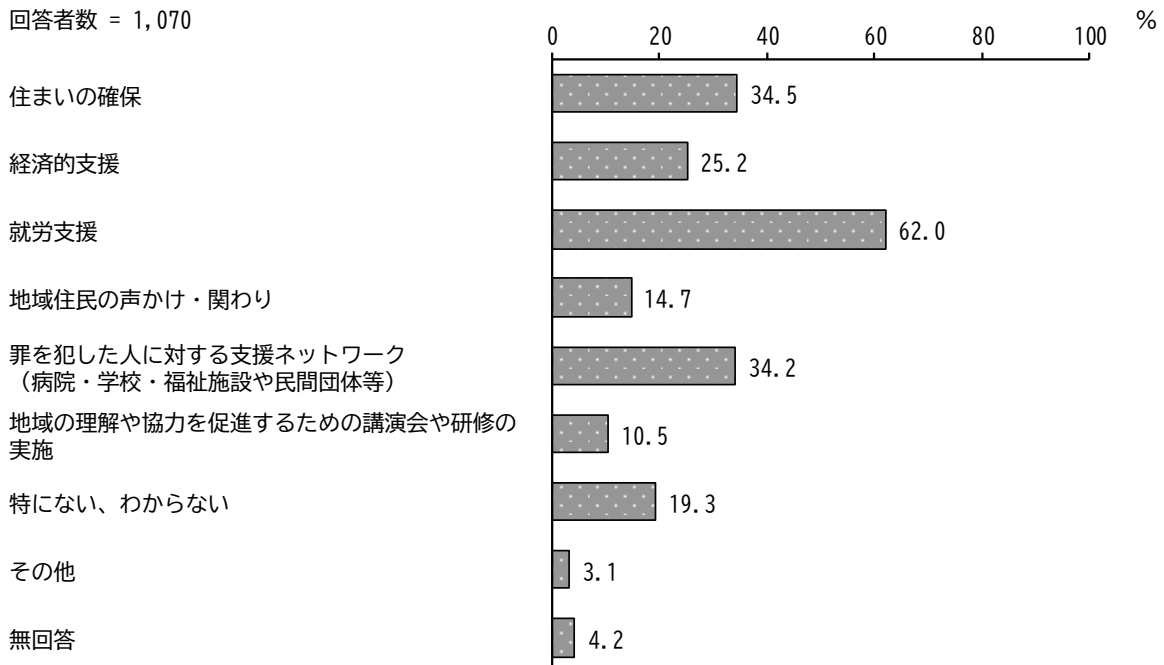
単位：%

区分	回答者数(件)	言葉も内容も知っている	言葉は聞いたことがある	知らない	無回答
全 体	1,070	4.0	35.4	55.5	5.0
18～19 歳	10	—	20.0	80.0	—
20～29 歳	56	5.4	21.4	73.2	—
30～39 歳	101	4.0	38.6	54.5	3.0
40～49 歳	174	2.9	29.3	67.2	0.6
50～59 歳	185	4.3	33.0	61.1	1.6
60～69 歳	180	2.8	38.9	55.6	2.8
70～79 歳	218	4.6	44.0	44.5	6.9
80 歳以上	142	4.9	33.8	43.0	18.3

問 29 罪を犯した人が地域に戻る場合、その人に対してどのような再犯防止の支援が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「就労支援」の割合が 62.0%と最も高く、次いで「住まいの確保」の割合が 34.5%、「罪を犯した人に対する支援ネットワーク（病院・学校・福祉施設や民間団体等）」の割合が 34.2%となっています。

回答者数 = 1,070



【年齢別】

年齢別にみると、すべての年齢で「就労支援」の割合が高くなっていますが、18～20歳で「地域の理解や協力を促進するための講演会や研修の実施」の割合が、70～79歳で「住まいの確保」の割合が、他の年齢に比べ高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	住まいの確保	経済的支援	就労支援	地域住民の声かけ・関わり	支援ネットワーク (病院・学校・福祉施設や民間団体等)	地域の理解や協力を促進するための講演会や研修の実施	特にない、わからない	その他	無回答
全体	1,070	34.5	25.2	62.0	14.7	34.2	10.5	19.3	3.1	4.2
18～19歳	10	20.0	20.0	50.0	—	20.0	40.0	10.0	10.0	20.0
20～29歳	56	28.6	14.3	62.5	8.9	39.3	8.9	12.5	12.5	—
30～39歳	101	32.7	17.8	68.3	11.9	43.6	6.9	11.9	7.9	1.0
40～49歳	174	33.9	21.8	71.3	12.1	42.5	14.4	14.9	1.7	1.1
50～59歳	185	34.6	16.2	64.9	14.1	36.8	14.6	20.5	3.2	1.1
60～69歳	180	29.4	29.4	60.6	16.7	37.8	9.4	22.8	2.2	1.1
70～79歳	218	45.0	36.7	61.5	17.4	25.2	10.1	21.6	0.9	7.3
80歳以上	142	30.3	28.2	46.5	16.9	23.2	3.5	23.2	1.4	13.4

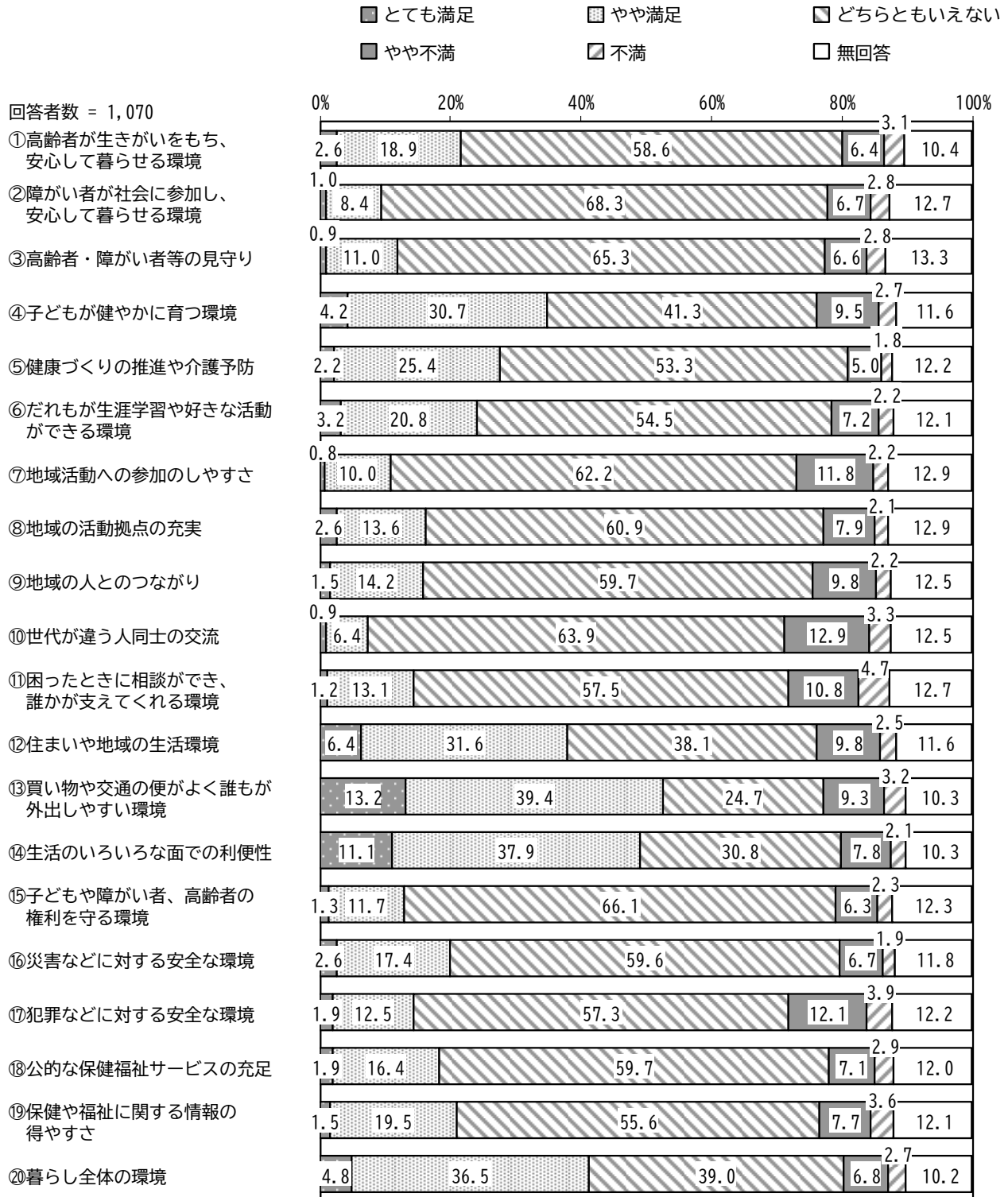
(9) 暮らしに関する環境について

問30 現在お住まいの地域での暮らしに関する環境についてどのように感じていますか。「現在の状況」と「以前と比べた状況」についてそれぞれお答えください。

【現在の状況】

「とても満足」と「やや満足」を合わせた満足割合は、『⑬買い物や交通の便がよく誰もが外出しやすい環境』が52.6%と最も高く、次いで『⑭生活のいろいろな面での利便性』が49.0%となっています。

『⑳暮らし全体の環境』の満足割合は、41.3%となっています。



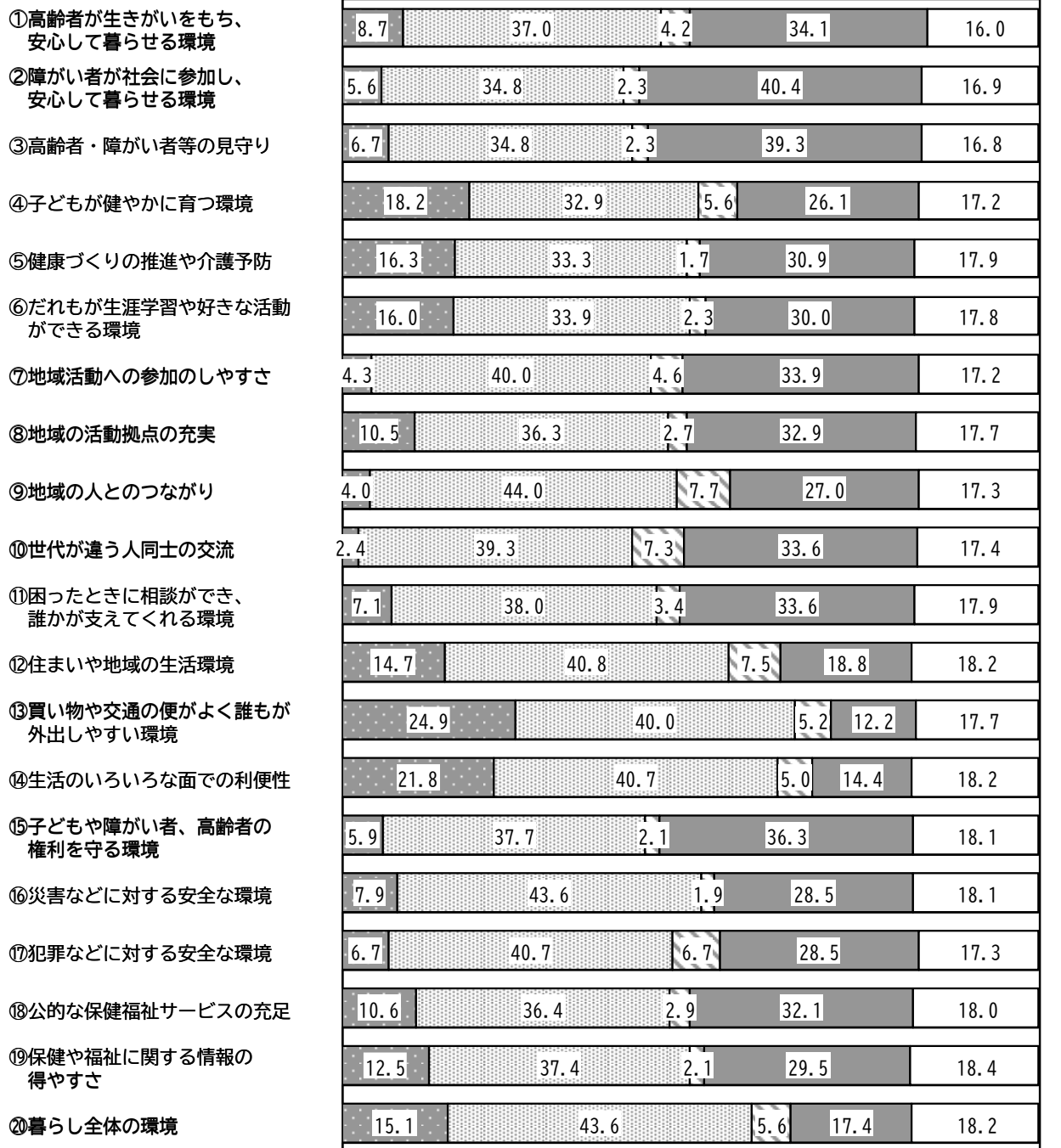
【以前と比べた状況】※「以前」とは過去5年程度を想定しています。

「よくなった」割合は、『⑬買い物や交通の便がよく誰もが外出しやすい環境』が24.9%と最も高く、次いで『⑭生活のいろいろな面での利便性』が21.8%となっています。

『⑳暮らし全体の環境』の「よくなった」割合は、15.1%となっています。

■ よくなった □ 変わらない ▨ 悪くなった ■ わからない □ 無回答

回答者数 = 1,070



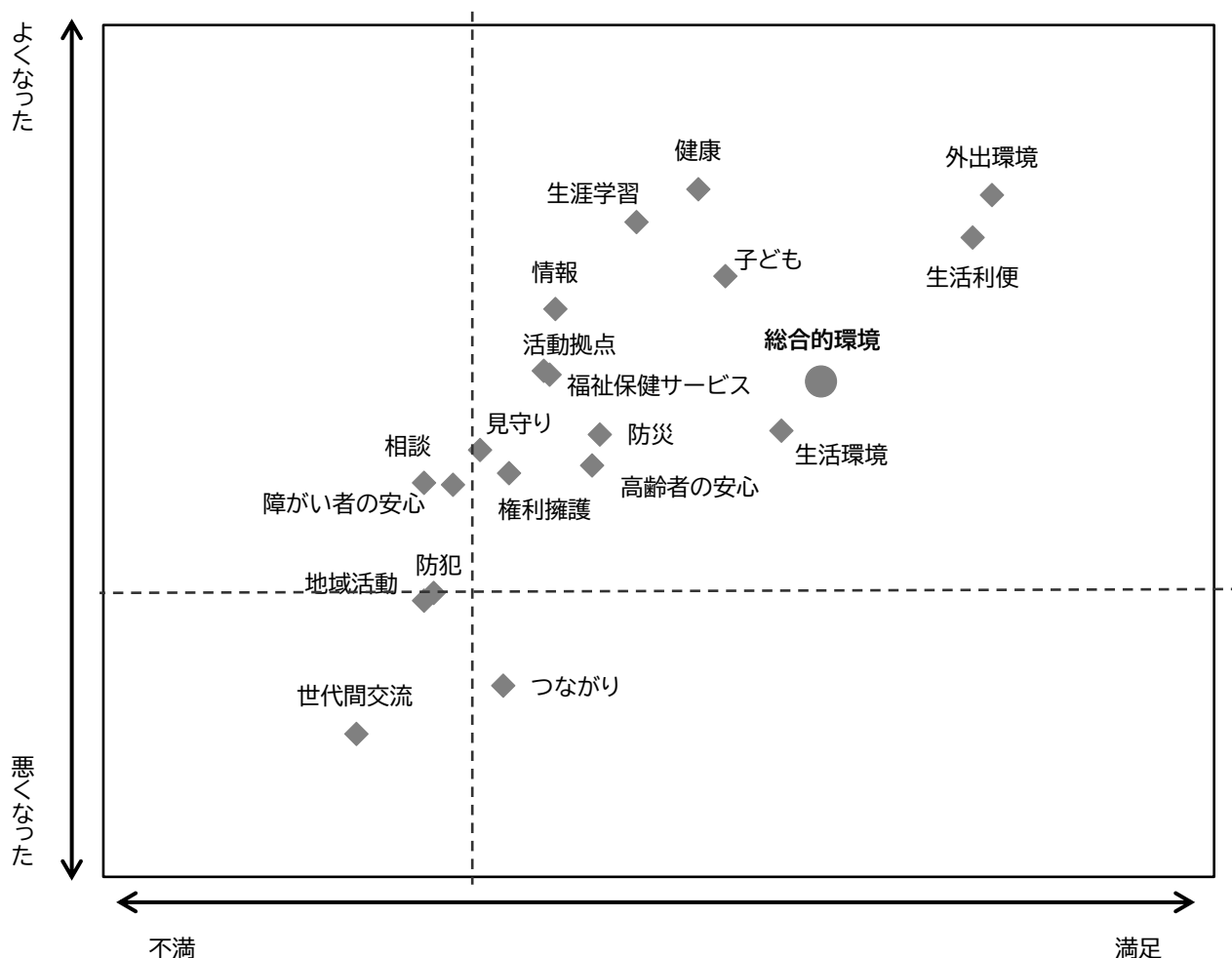
【地域での暮らしに関する環境の満足度と以前と比べた変化】

アンケート調査時における地域での暮らしに関する満足度について、以前（概ね5年前）と比べた変化を下記のグラフに示します。

『⑳暮らし全体の環境（総合的環境）』は満足度も高く、以前よりもよくなったと評価されています。

「総合的環境」より、満足度も高く、以前と比べてよくなったと評価されているのは『⑬買い物や交通の便がよく誰もが外出しやすい環境』『⑭生活のいろいろな面での利便性』となっています。また、『⑤健康づくりの推進や介護予防』『⑥だれもが生涯学習や好きな活動ができる環境』は、総合的環境に比べると満足度は低いものの、以前と比べてよくなったと評価されています。

一方で、『⑩世代が違う人同士の交流』については、不満でかつ以前より悪くなったと評価されています。また、『⑨地域の人とのつながり』についても満足度が低く、以前より悪くなったと評価されています。



【地域での暮らしに関する環境の満足度の経年変化】

「とても満足」と「やや満足」を合わせた満足の割合は、平成 29 年度調査と比べ、『⑳暮らし全体の環境』は、5.1 ポイント増加しています。

また、『④子どもが健やかに育つ環境』『⑫住まいや地域の生活環境』『⑭生活のいろいろな面での利便性』が特に増加しています。

一方で、『⑦地域活動への参加のしやすさ』『⑰犯罪などに対する安全な環境』『⑱公的な保健福祉サービスの充足』が特に減少しています。

	「とても満足」 + 「やや満足」 (%)		
	令和 4 年度	平成 29 年度	変化
①高齢者が生きがいをもち、安心して暮らせる環境	21.5	21.5	→
②障がい者が社会に参加し、安心して暮らせる環境	9.4	11.4	↓
③高齢者・障がい者等の見守り	11.9	13.5	↓
④子どもが健やかに育つ環境	34.9	28.2	↑
⑤健康づくりの推進や介護予防	27.6	28.2	↓
⑥だれもが生涯学習や好きな活動ができる環境	24.0	25.7	↓
⑦地域活動への参加のしやすさ	10.8	15.9	↓
⑧地域の活動拠点の充実	16.2	17.6	↓
⑨地域の人とのつながり	15.7	19.0	↓
⑩世代が違う人同士の交流	7.3	9.8	↓
⑪困ったときに相談ができ、誰かが支えてくれる環境	14.3	15.4	↓
⑫住まいや地域の生活環境	38.0	34.4	↑
⑬買い物や交通の便がよく誰もが外出しやすい環境	52.6	51.8	↑
⑭生活のいろいろな面での利便性	49.0	45.9	↑
⑮子どもや障がい者、高齢者の権利を守る環境	13.0	14.2	↓
⑯災害などに対する安全な環境	20.0	18.4	↑
⑰犯罪などに対する安全な環境	14.4	19.2	↓
⑱公的な保健福祉サービスの充足	18.3	23.4	↓
⑲保健や福祉に関する情報の得やすさ	21.0	25.6	↓
⑳暮らし全体の環境	41.3	36.2	↑

【以前（概ね5年前）と比べて「よくなった」と回答した割合の経年変化】

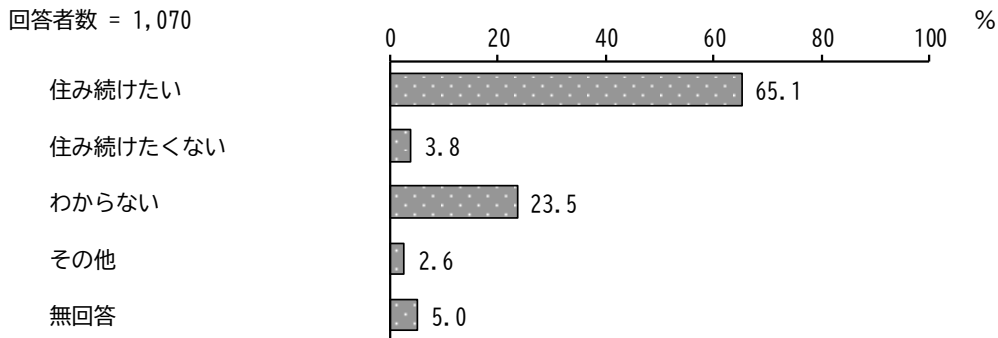
「よくなった」と回答した割合は、平成 29 年度調査と比べ、『⑳暮らし全体の環境』は、6.0 ポイント増加しています。

また、『④子どもが健やかに育つ環境』『⑬買い物や交通の便がよく誰もが外出しやすい環境』『⑯災害などに対する安全な環境』が特に増加しています。

	「よくなった」 (%)		
	令和 4 年度	平成 29 年度	変化
①高齢者が生きがいをもち、安心して暮らせる環境	45.7	43.9	↑
②障がい者が社会に参加し、安心して暮らせる環境	40.4	38.8	↑
③高齢者・障がい者等の見守り	41.5	39.6	↑
④子どもが健やかに育つ環境	51.1	45.4	↑
⑤健康づくりの推進や介護予防	49.6	47.6	↑
⑥だれもが生涯学習や好きな活動ができる環境	49.9	47.0	↑
⑦地域活動への参加のしやすさ	44.3	43.3	↑
⑧地域の活動拠点の充実	46.8	43.2	↑
⑨地域の人とのつながり	48.0	46.5	↑
⑩世代が違う人同士の交流	41.7	41.3	↑
⑪困ったときに相談ができ、誰かが支えてくれる環境	45.1	43.8	↑
⑫住まいや地域の生活環境	55.5	53.1	↑
⑬買い物や交通の便がよく誰もが外出しやすい環境	64.9	58.9	↑
⑭生活のいろいろな面での利便性	62.5	58.3	↑
⑮子どもや障がい者、高齢者の権利を守る環境	43.6	41.0	↑
⑯災害などに対する安全な環境	51.5	46.9	↑
⑰犯罪などに対する安全な環境	47.4	45.4	↑
⑱公的な保健福祉サービスの充足	47.0	46.7	↑
⑲保健や福祉に関する情報の得やすさ	49.9	50.0	↓
⑳暮らし全体の環境	58.7	52.7	↑

問 31 あなたは、大和市に住み続けたいと思いますか。(○は1つだけ)

「住み続けたい」の割合が 65.1%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 23.5%となっています。



【世帯の状況別】

世帯の状況別にみると、祖父母のいる世帯を除いたすべての世帯で「住み続けたい」の割合が高く、特に孫のいる世帯で割合が高くなっています。

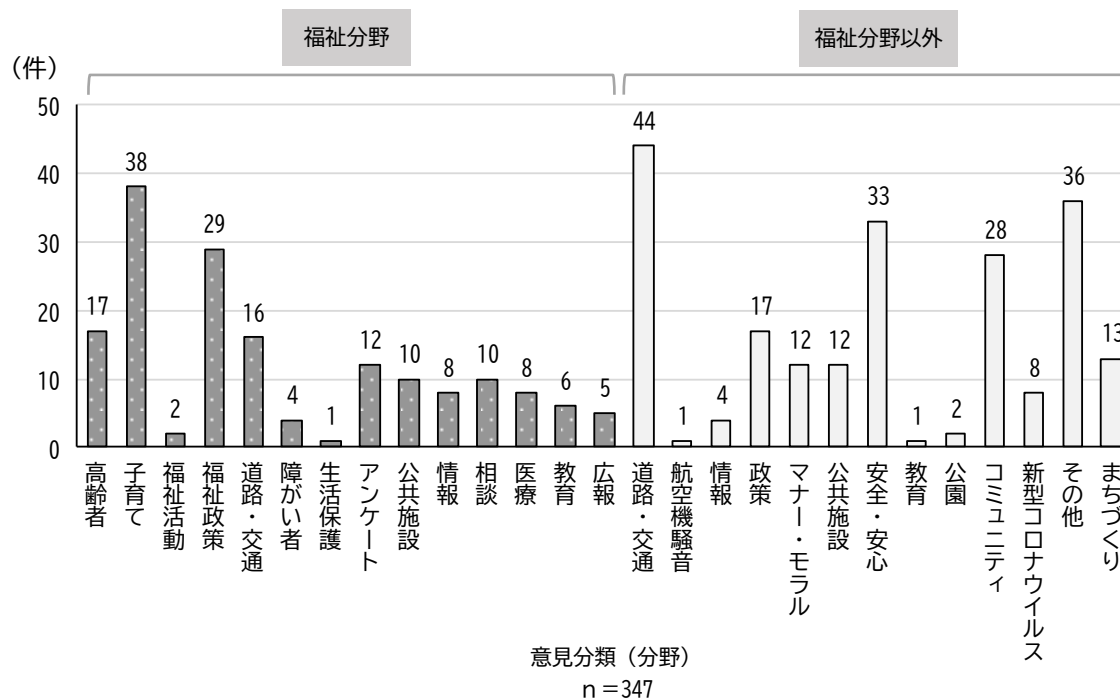
単位：%

区分	回答者数(件)	住み続けたい	住み続けたくない	わからない	その他	無回答
全 体	1,070	65.1	3.8	23.5	2.6	5.0
本人のみ(ひとり暮らし)	163	57.7	1.8	30.1	3.1	7.4
配偶者	707	68.2	4.0	22.1	2.3	3.5
子ども	477	68.8	4.4	21.2	2.5	3.1
兄弟姉妹	40	40.0	5.0	37.5	10.0	7.5
親	119	52.9	5.0	35.3	4.2	2.5
祖父母	3	33.3	—	66.7	—	—
孫	29	72.4	3.4	6.9	3.4	13.8
その他	19	63.2	—	10.5	5.3	21.1

問 32 住みよいまちづくりを進めていくためのご意見・ご提言などがありましたら、ご自由にご記入ください。

自由記述による意見は、347名から400件の意見がありました。

意見の分野をみると、福祉分野では、「子育て」「福祉政策」「高齢者」の順に多く、福祉以外では、「道路・交通」「安全・安心」「コミュニティ」の順となっています。



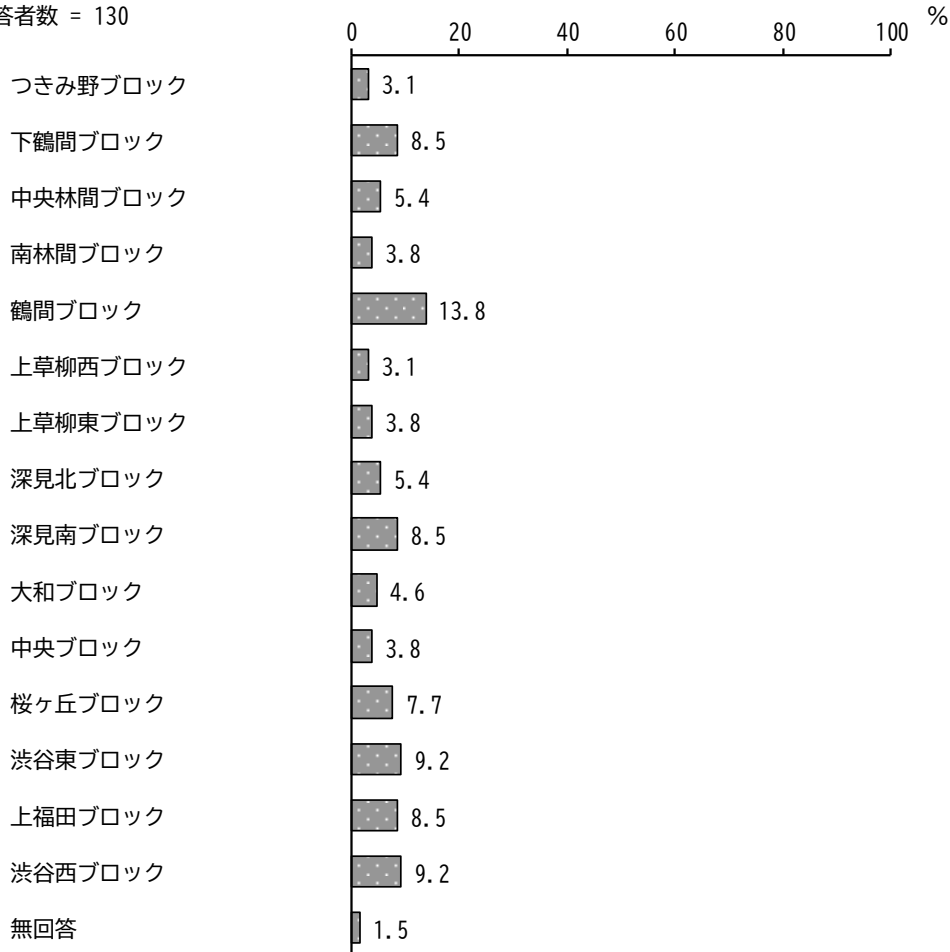
Ⅲ 調査結果（関係団体等）

1 自治会

①貴自治会の所属する地区について教えてください。（○は1つ）

「鶴間ブロック」の割合が13.8%と最も高くなっています。

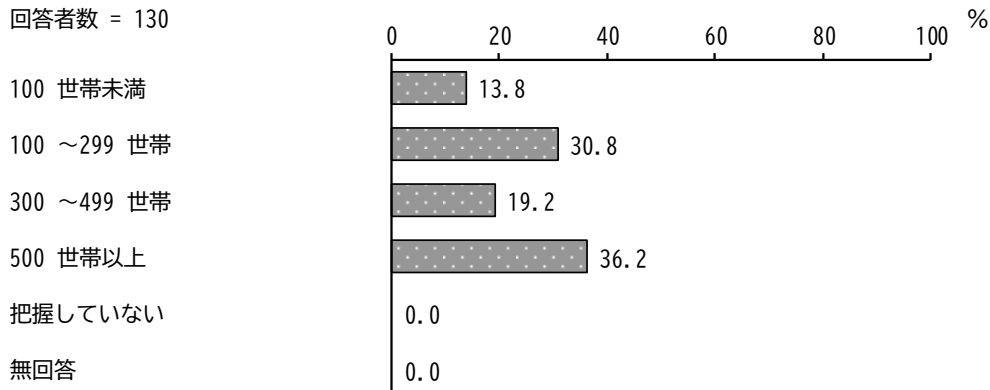
回答者数 = 130



②貴自治会の規模について教えてください。（○は1つ）

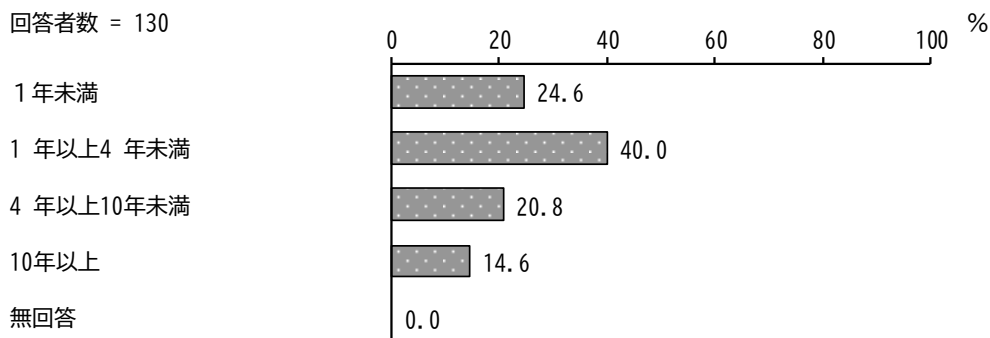
「500 世帯以上」の割合が36.2%と最も高く、次いで「100 ～299 世帯」の割合が30.8%、「300 ～499 世帯」の割合が19.2%となっています。

回答者数 = 130



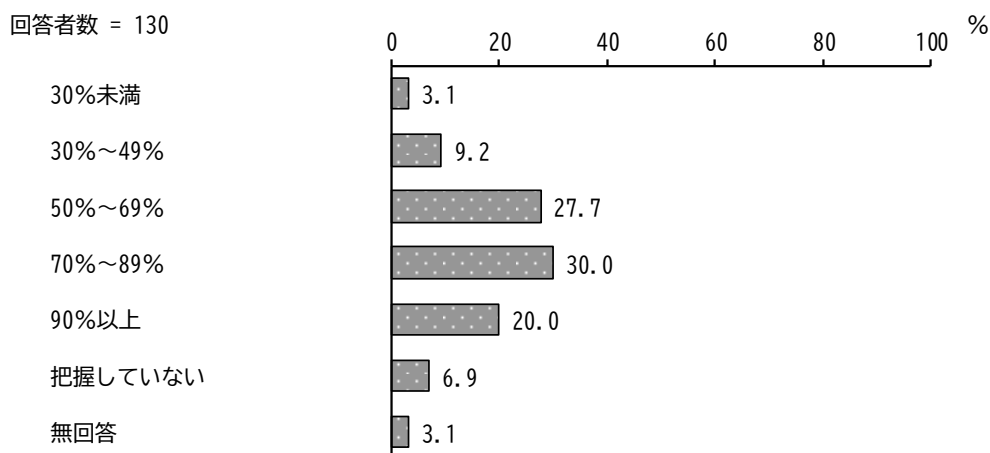
③貴自治会長の在任期間について教えてください。(〇は1つ)

「1年以上4年未満」の割合が40.0%と最も高く、次いで「1年未満」の割合が24.6%、「4年以上10年未満」の割合が20.8%となっています。



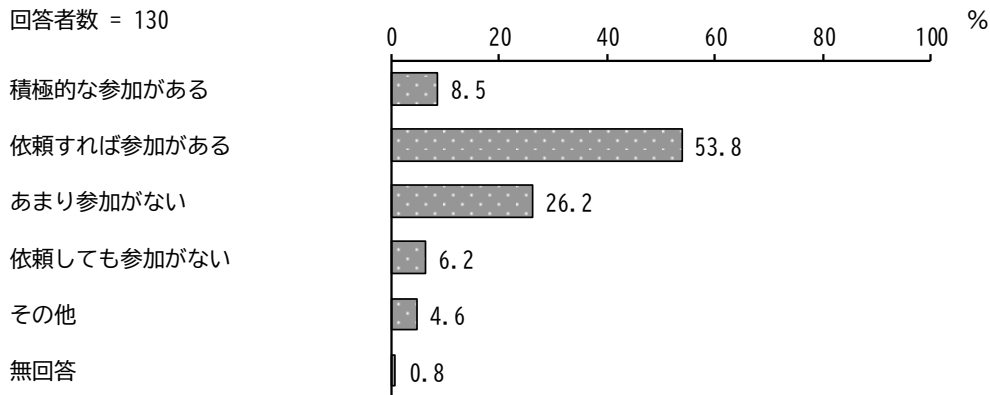
④貴自治会の加入率について教えてください。(〇は1つ)

「70%~89%」の割合が30.0%と最も高く、次いで「50%~69%」の割合が27.7%、「90%以上」の割合が20.0%となっています。



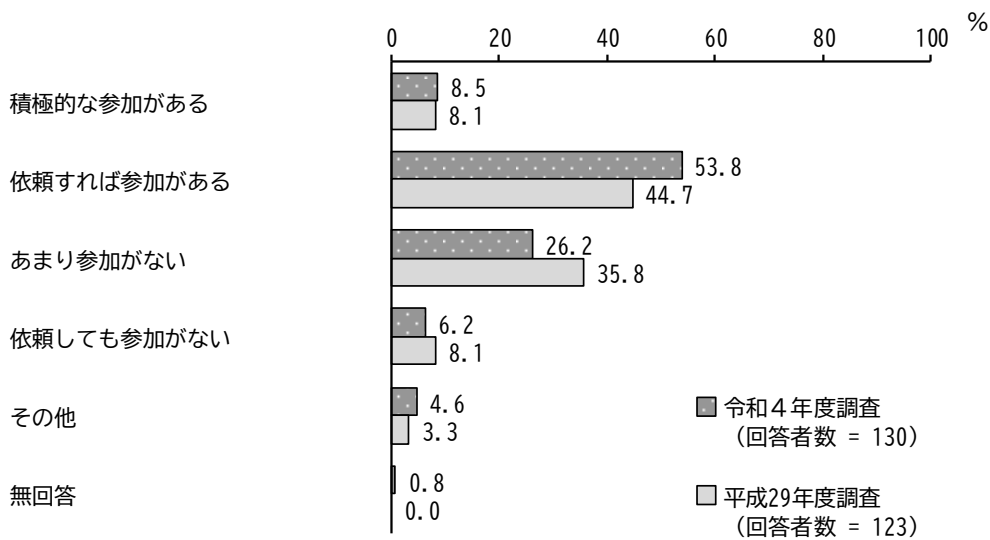
⑤貴自治会が行う地域活動への住民の参加状況について教えてください。(〇は1つ)

「依頼すれば参加がある」の割合が53.8%と最も高く、次いで「あまり参加がない」の割合が26.2%となっています。



【経年比較】

平成29年度調査と比較すると、「依頼すれば参加がある」の割合が増加しています。



【ブロック別】

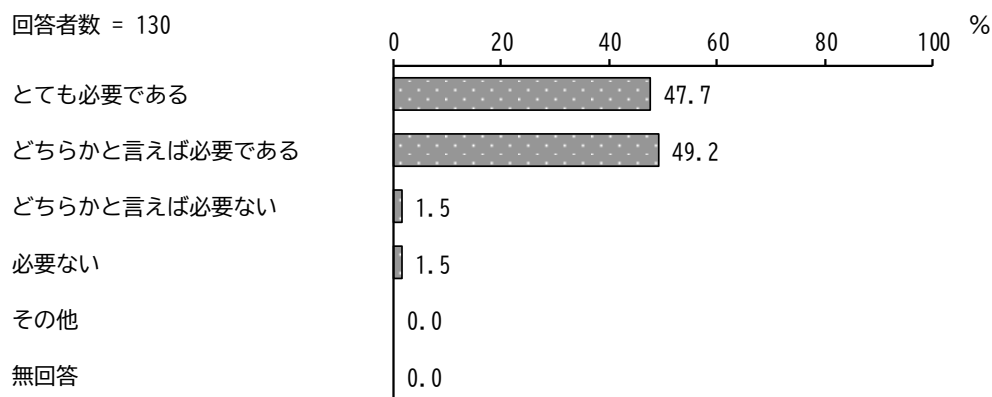
ブロック別にみると、「依頼すれば参加がある」の割合が全体的に高くなっていますが、「あまり参加がない」の割合が高いブロックもあります。

単位：％

区分	回答者数(件)	積極的な参加がある	依頼すれば参加がある	あまり参加がない	依頼しても参加がない	その他	無回答
全 体	130	8.5	53.8	26.2	6.2	4.6	0.8
つきみ野ブロック	4	—	75.0	25.0	—	—	—
下鶴間ブロック	11	18.2	45.5	27.3	—	9.1	—
中央林間ブロック	7	14.3	57.1	28.6	—	—	—
南林間ブロック	5	20.0	40.0	—	20.0	20.0	—
鶴間ブロック	18	5.6	50.0	33.3	5.6	5.6	—
上草柳西ブロック	4	25.0	50.0	—	25.0	—	—
上草柳東ブロック	5	20.0	20.0	60.0	—	—	—
深見北ブロック	7	14.3	42.9	28.6	14.3	—	—
深見南ブロック	11	18.2	45.5	36.4	—	—	—
大和ブロック	6	—	16.7	33.3	—	33.3	16.7
中央ブロック	5	—	60.0	20.0	—	20.0	—
桜ヶ丘ブロック	10	—	70.0	10.0	20.0	—	—
渋谷東ブロック	12	—	41.7	50.0	8.3	—	—
上福田ブロック	11	9.1	72.7	9.1	9.1	—	—
渋谷西ブロック	12	—	83.3	16.7	—	—	—

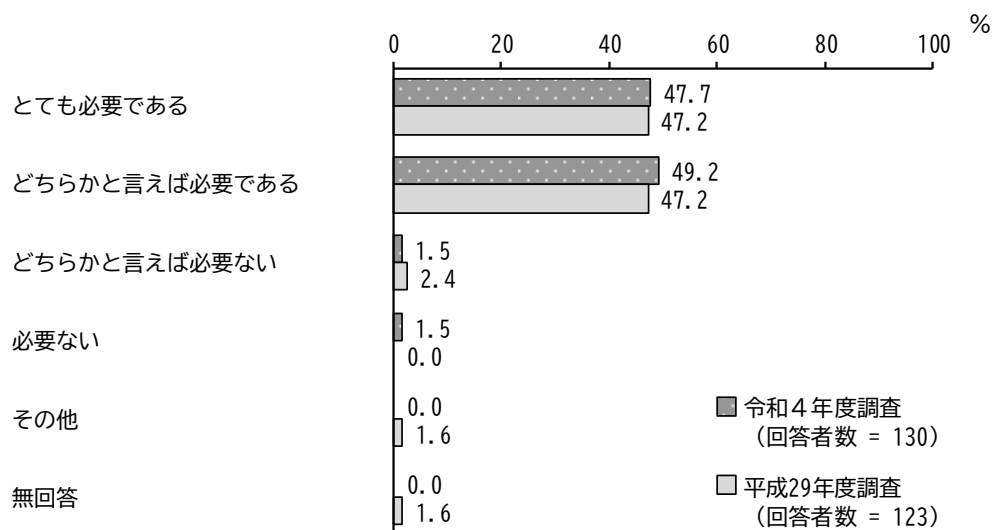
⑥地域内での住民同士のつながりの必要性を感じますか。(○は1つ)

「どちらかと言えば必要である」の割合が49.2%と最も高く、次いで「とても必要である」の割合が47.7%となっています。



【経年比較】

平成29年度調査と比較すると、大きな変化は見られません。



【ブロック別】

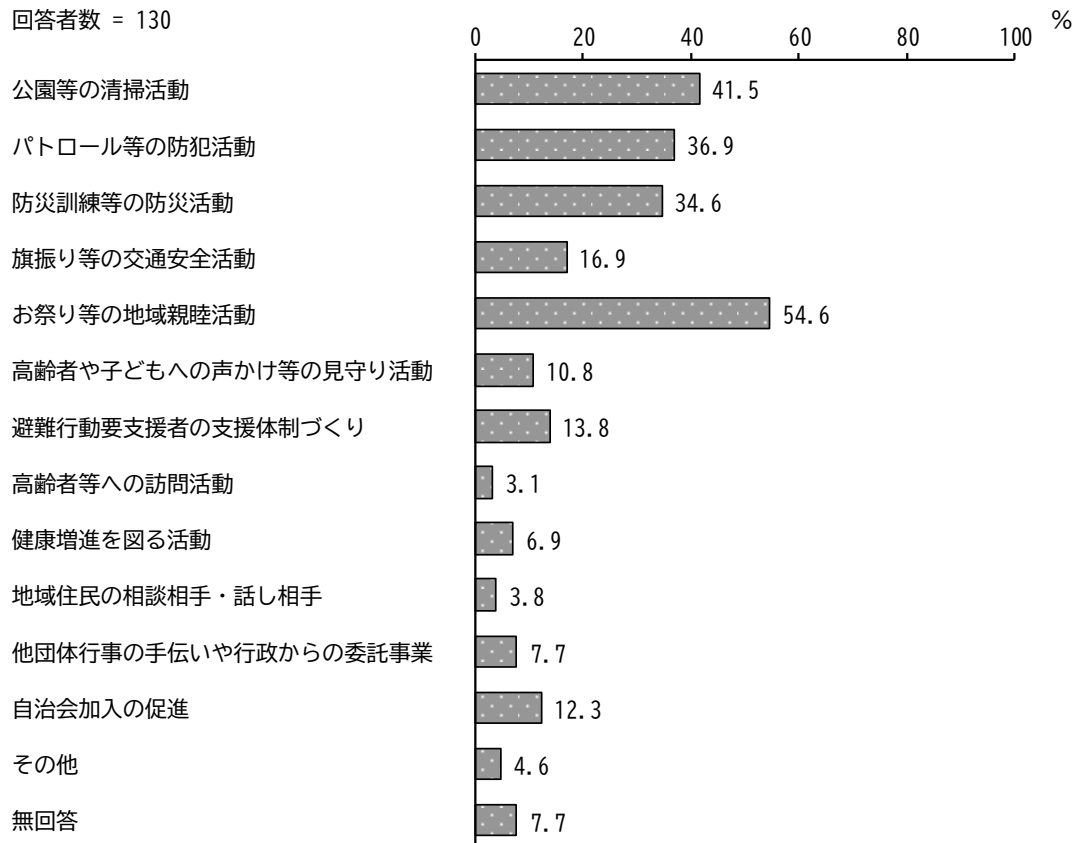
ブロック別にみると、すべてのブロックにおいて、地域内での住民同士のつながりの必要性を感じている割合が、高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	とても必要である	どちらかと言えば必要である	どちらかと言えば必要ない	必要ない	その他	無回答
全 体	130	47.7	49.2	1.5	1.5	—	—
つきみ野ブロック	4	50.0	50.0	—	—	—	—
下鶴間ブロック	11	36.4	63.6	—	—	—	—
中央林間ブロック	7	85.7	14.3	—	—	—	—
南林間ブロック	5	40.0	60.0	—	—	—	—
鶴間ブロック	18	61.1	33.3	—	5.6	—	—
上草柳西ブロック	4	100.0	—	—	—	—	—
上草柳東ブロック	5	20.0	80.0	—	—	—	—
深見北ブロック	7	14.3	85.7	—	—	—	—
深見南ブロック	11	54.5	36.4	9.1	—	—	—
大和ブロック	6	50.0	33.3	16.7	—	—	—
中央ブロック	5	40.0	60.0	—	—	—	—
桜ヶ丘ブロック	10	40.0	50.0	—	10.0	—	—
渋谷東ブロック	12	41.7	58.3	—	—	—	—
上福田ブロック	11	72.7	27.3	—	—	—	—
渋谷西ブロック	12	25.0	75.0	—	—	—	—

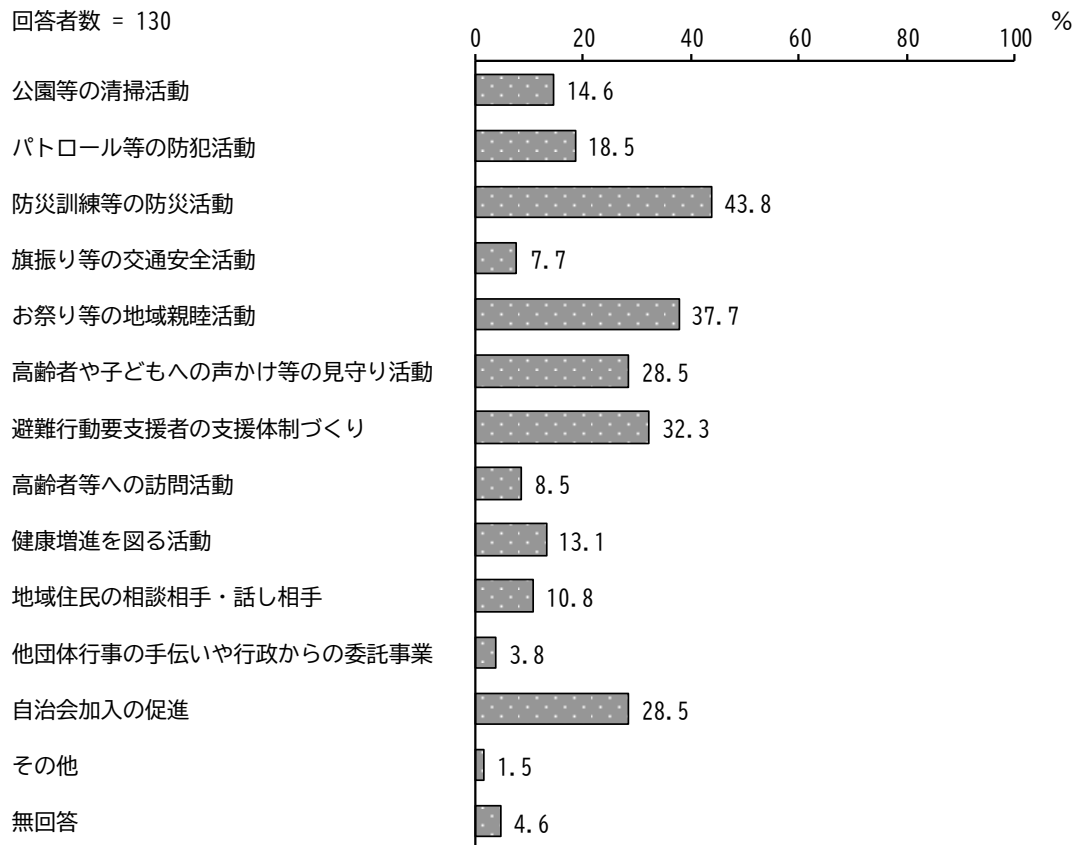
⑦現在、貴自治会が重点的に取り組んでいる活動について教えてください。
(〇は3つまで)

「お祭り等の地域親睦活動」の割合が54.6%と最も高く、次いで「公園等の清掃活動」の割合が41.5%、「パトロール等の防犯活動」の割合が36.9%となっています。



⑧今後、貴自治会が取り組んでいきたい活動について教えてください。
 (〇は3つまで)

「防災訓練等の防災活動」の割合が43.8%と最も高く、次いで「お祭り等の地域親睦活動」の割合が37.7%、「避難行動要支援者の支援体制づくり」の割合が32.3%となっています。



自治会活動や地域福祉計画についてご意見・ご提言がありましたら、教えてください。

自治会活動や地域福祉計画についての意見・提言

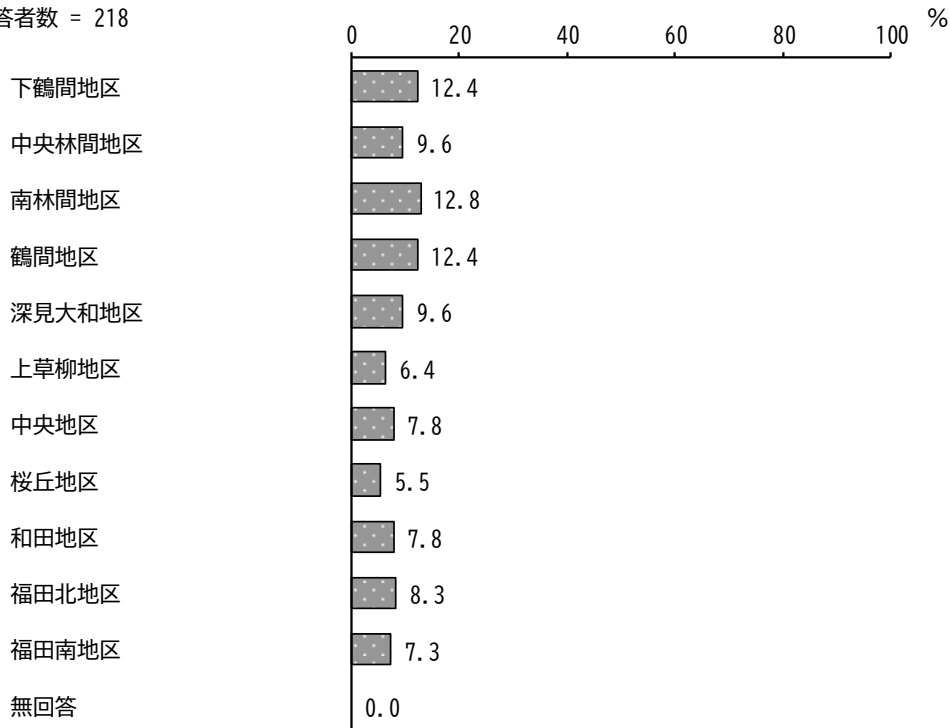
	件数	意見の内容
自治会が抱える課題	14件	自治会役員の高齢化、担い手の不足
	9件	自治会会員の不足
	3件	新型コロナウイルス感染症による活動制限
	3件	地域活動に対する住民意識の希薄化
	2件	個人情報保護によって活動が妨げられている
	1件	外国人が多く居住しているが交流がない
	1件	空き家の増加
自治会が必要と感ずること	6件	住民同士のつながり
	2件	情報発信のデジタル化
	2件	地域福祉の理解に向けた普及・啓発、教育
	1件	関係団体との連携
	1件	自治会組織内のコミュニケーションの充実
行政への意見・提言	3件	行政内の横断的な連携の強化
	3件	リサイクルステーションの運営方法の見直し
	2件	地域での活動拠点の必要性
	1件	行政、各関連団体のスリム化と統合
	1件	市からの自治会運営に対する支援
	1件	行政との話し合いの場の充実
	1件	高齢者が交流できる場の充実
	1件	ゴミ問題の解決
	1件	行政に意見しても、関心を示されない
	1件	女性の積極的な参加を促す環境づくり

2 民生委員・児童委員

①あなたの所属する地区について教えてください。(○は1つ)

「南林間地区」の割合が12.8%と最も高く、次いで「下鶴間地区」、「鶴間地区」の割合が12.4%となっています。

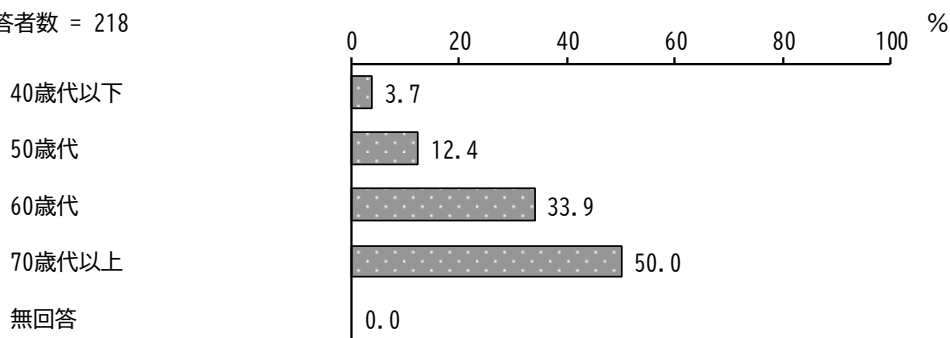
回答者数 = 218



②あなたの年齢について教えてください。(○は1つ)

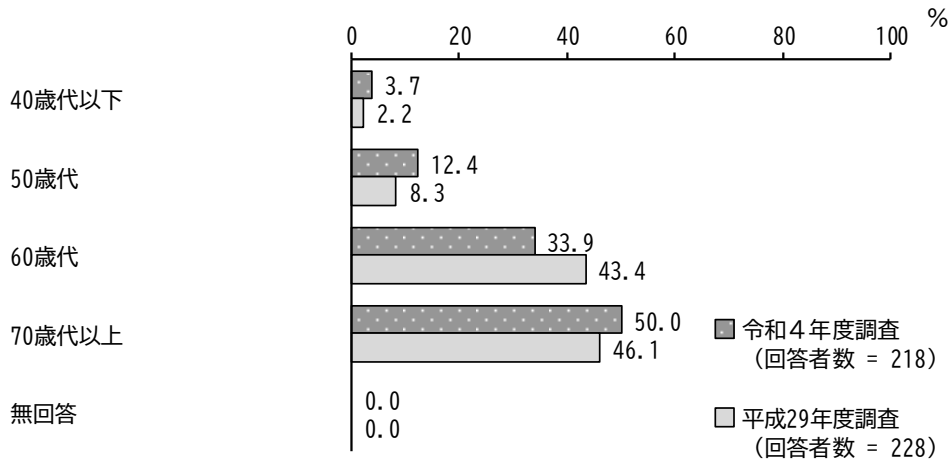
「70歳代以上」の割合が50.0%と最も高く、次いで「60歳代」の割合が33.9%、「50歳代」の割合が12.4%となっています。

回答者数 = 218



【経年比較】

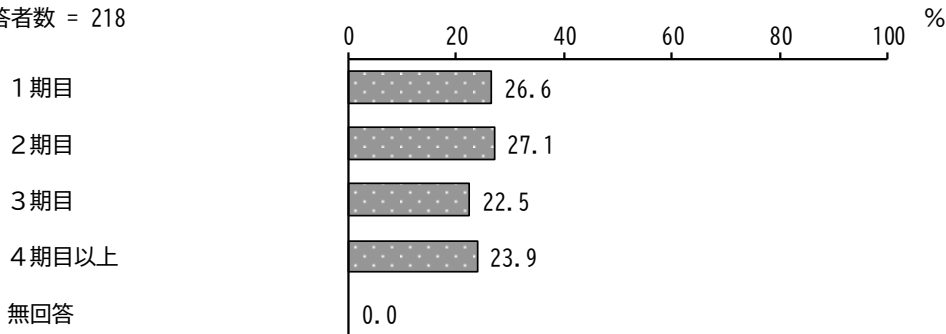
平成 29 年度調査と比較すると、「60 歳代」の割合が減少しています。



③ 民生委員としての経験年数について教えてください。(○は1つ)

「2 期目」の割合が 27.1%と最も高く、次いで「1 期目」の割合が 26.6%、「4 期目以上」の割合が 23.9%となっています。

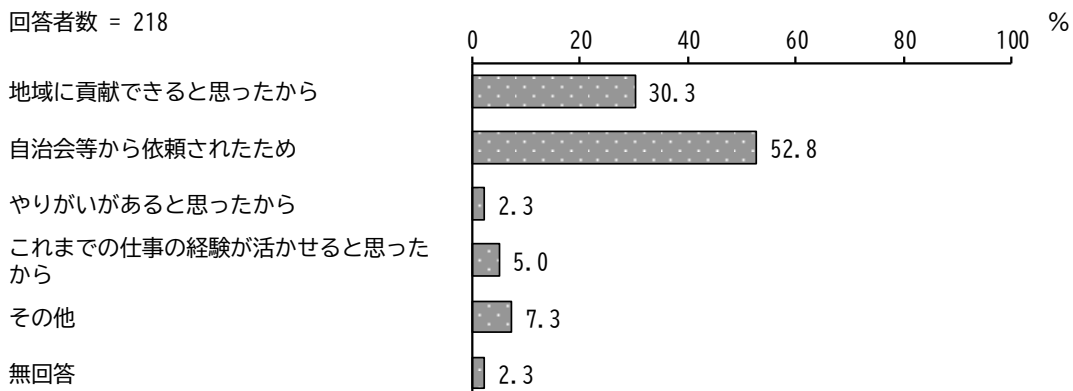
回答者数 = 218



④ 民生委員児童委員を引き受けた動機について教えてください。(○は1つ)

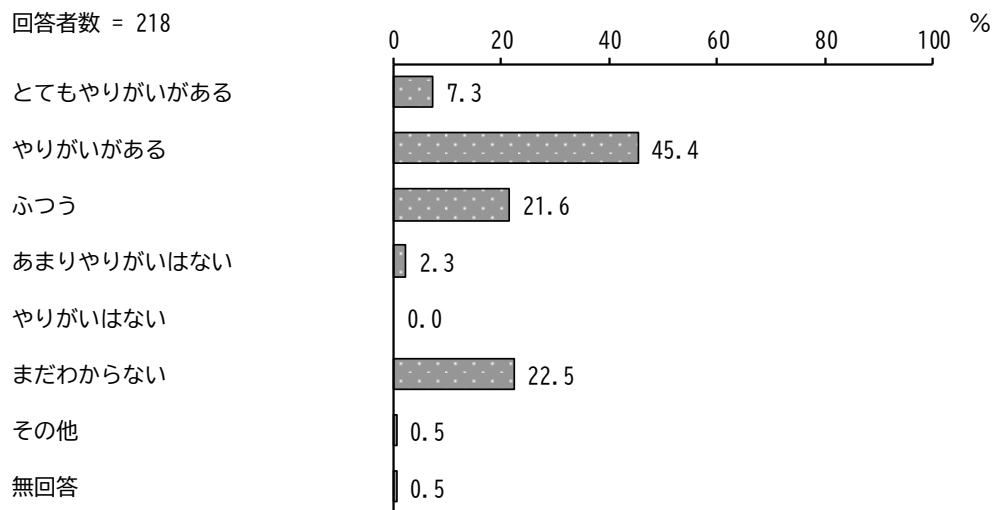
「自治会等から依頼されたため」の割合が 52.8%と最も高く、次いで「地域に貢献できと思ったから」の割合が 30.3%となっています。

回答者数 = 218



⑤民生委員のやりがいについて教えてください。(○は1つ)

「やりがいがある」の割合が45.4%と最も高く、次いで「まだわからない」の割合が22.5%、「ふつう」の割合が21.6%となっています。



【経験年数別】

経験年数別にみると、経験年数が長くなるほど、「とてもやりがいがある」「やりがいがある」の割合が高くなっています。

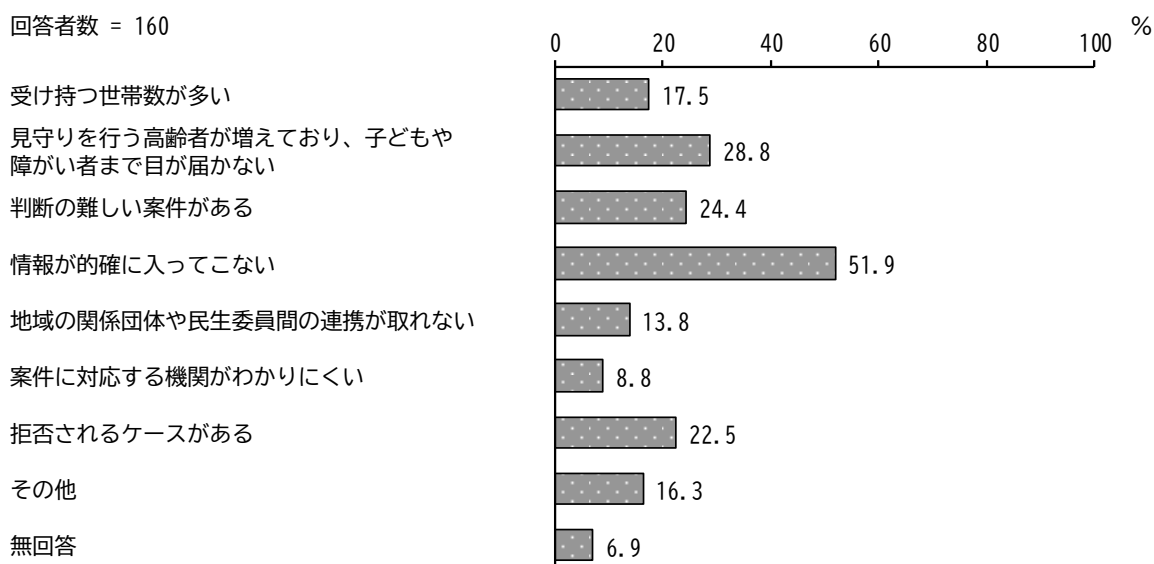
単位：%

区分	回答者数(件)	とてもやりがいがある	やりがいがある	ふつう	あまりやりがいはない	やりがいはない	まだわからない	その他	無回答
全体	218	7.3	45.4	21.6	2.3	—	22.5	0.5	0.5
1期目	58	1.7	22.4	1.7	—	—	72.4	—	1.7
2期目	59	5.1	50.8	28.8	5.1	—	10.2	—	—
3期目	49	6.1	59.2	30.6	2.0	—	2.0	—	—
4期目以上	52	17.3	51.9	26.9	1.9	—	—	1.9	—

※⑥から⑬までは2期目以上の民生委員・児童委員の皆さんにお尋ねしています

⑥民生委員児童委員活動を行う上で、負担に感じることや困っていることを教えてください。(〇はいくつでも)

「情報が的確に入っていない」の割合が51.9%と最も高く、次いで「見守りを行う高齢者が増えており、子どもや障がい者まで目が届かない」の割合が28.8%、「判断の難しい案件がある」の割合が24.4%となっています。



【経験年数別】

経験年数別にみると、すべての経験年数において、「情報が的確に入っていない」の割合が高くなっています。また、3期目で「拒否されるケースがある」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	受け持つ世帯数が多い	見守りを行う高齢者が増えており、子どもや障がい者まで目が届かない	判断の難しい案件がある	情報が的確に入っていない	地域の関係団体や民生委員間の連携が取れない	案件に対応する機関がわかりにくい	拒否されるケースがある	その他	無回答
全体	160	17.5	28.8	24.4	51.9	13.8	8.8	22.5	16.3	6.9
2期目	59	20.3	25.4	20.3	47.5	13.6	13.6	10.2	23.7	6.8
3期目	49	14.3	30.6	22.4	44.9	14.3	8.2	34.7	18.4	8.2
4期目以上	52	17.3	30.8	30.8	63.5	13.5	3.8	25.0	5.8	5.8

【地区別】

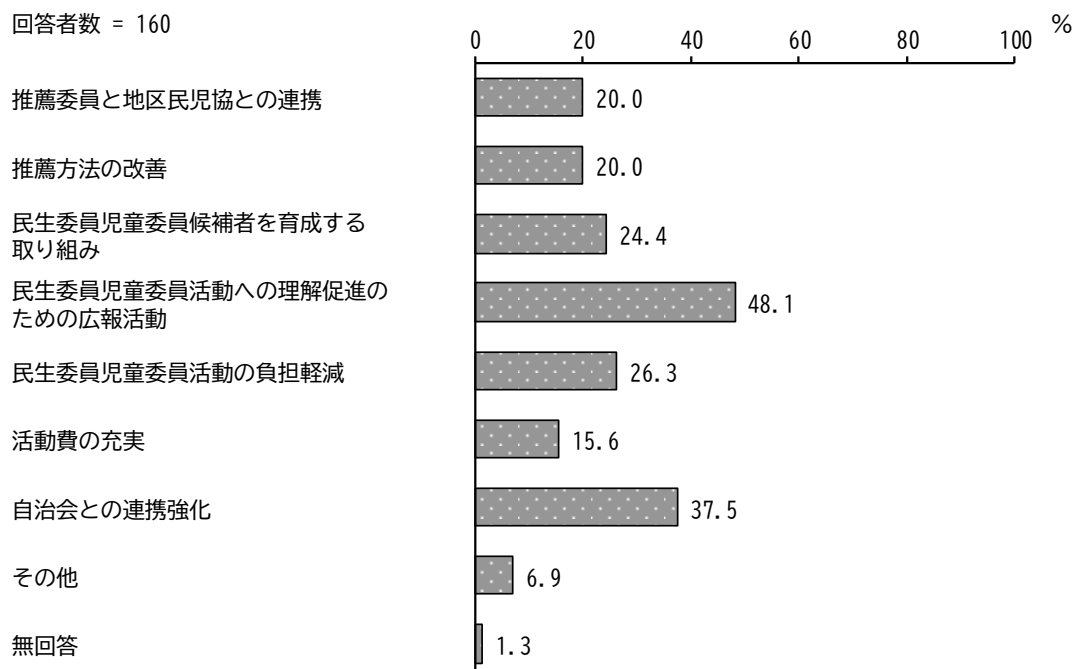
地区別にみると、ほぼすべての地区で、「情報が的確に入っていない」の割合が高くなっています。また、南林間地区で「拒否されるケースがある」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	受け持つ世帯数が多い	見守りを行う高齢者が増えており、子どもや障がい者まで目が届かない	判断の難しい案件がある	情報が的確に入っていない	地域の関係団体や民生委員間の連携が取れない	案件に対応する機関がわかりにくい	拒否されるケースがある	その他	無回答
全 体	160	17.5	28.8	24.4	51.9	13.8	8.8	22.5	16.3	6.9
下鶴間地区	19	26.3	26.3	21.1	57.9	10.5	10.5	15.8	15.8	10.5
中央林間地区	13	30.8	—	30.8	53.8	15.4	7.7	30.8	15.4	7.7
南林間地区	20	15.0	25.0	20.0	45.0	10.0	15.0	45.0	15.0	—
鶴間地区	23	17.4	34.8	43.5	60.9	17.4	8.7	26.1	17.4	4.3
深見大和地区	18	16.7	27.8	27.8	50.0	5.6	11.1	22.2	11.1	11.1
上草柳地区	11	9.1	9.1	18.2	63.6	45.5	—	—	—	9.1
中央地区	14	21.4	35.7	21.4	57.1	—	7.1	28.6	14.3	—
桜丘地区	8	25.0	62.5	—	50.0	12.5	—	25.0	25.0	—
和田地区	9	—	33.3	11.1	66.7	22.2	11.1	—	11.1	11.1
福田北地区	15	13.3	60.0	33.3	33.3	—	6.7	13.3	33.3	6.7
福田南地区	10	10.0	—	10.0	30.0	30.0	10.0	20.0	20.0	20.0

⑦民生委員・児童委員の欠員を解消するためには、何が必要と考えますか。

「民生委員児童委員活動への理解促進のための広報活動」の割合が48.1%と最も高く、次いで「自治会との連携強化」の割合が37.5%、「民生委員児童委員活動の負担軽減」の割合が26.3%となっています。

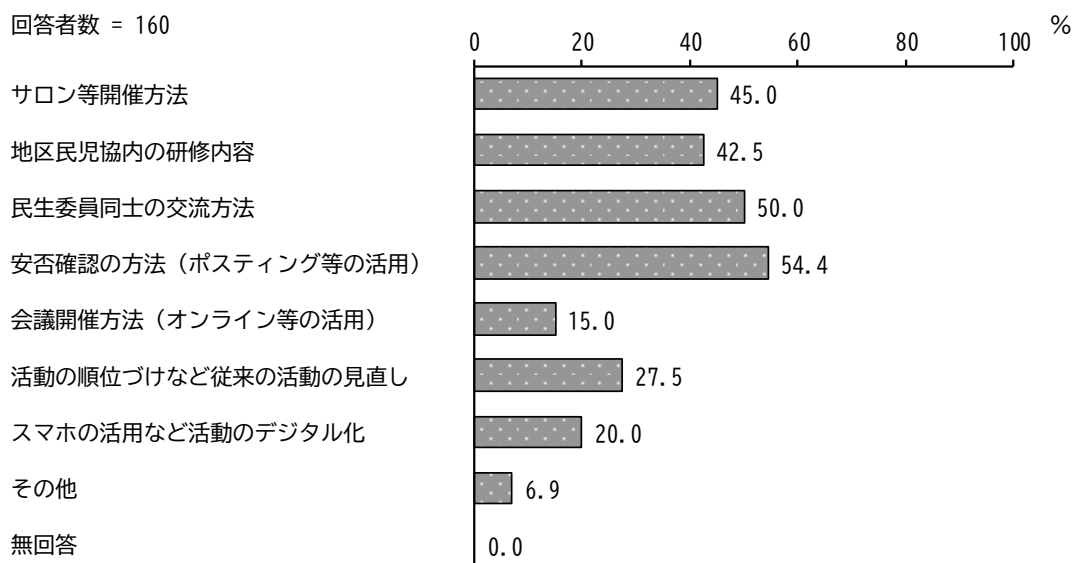


⑩新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、民生委員児童委員活動にどのような影響をうけましたか。

意見の内容	件数
個別訪問ができない・控えた	53件
地域での活動の中止または自粛	52件
子どもや高齢者等さまざまな交流の場や機会の減少	15件
対面での活動の自粛	13件
民生委員同士の交流機会の減少	6件
気軽に情報交換ができる場の減少	2件
マスク越しの会話ため相手の状況把握に苦慮した	2件

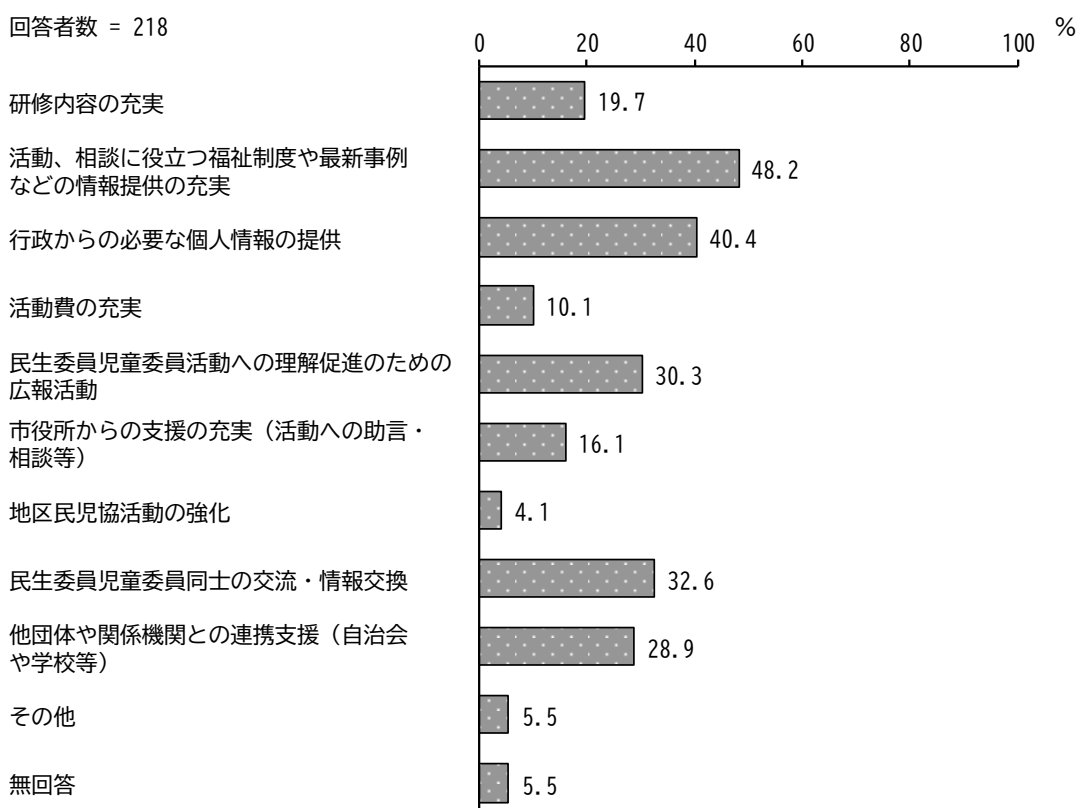
⑬ 民生委員児童委員活動において、今後どのような工夫が必要と考えますか。
(〇はいくつでも)

「安否確認の方法（ポスティング等の活用）」の割合が 54.4%と最も高く、次いで「民生委員同士の交流方法」の割合が 50.0%、「サロン等開催方法」の割合が 45.0%となっています。



⑭ 民生委員児童委員の活動をしやすいするためには、何が必要であると考えますか。
(〇は3つまで)

「活動、相談に役立つ福祉制度や最新事例などの情報提供の充実」の割合が 48.2%と最も高く、次いで「行政からの必要な個人情報の提供」の割合が 40.4%、「民生委員児童委員同士の交流・情報交換」の割合が 32.6%となっています。



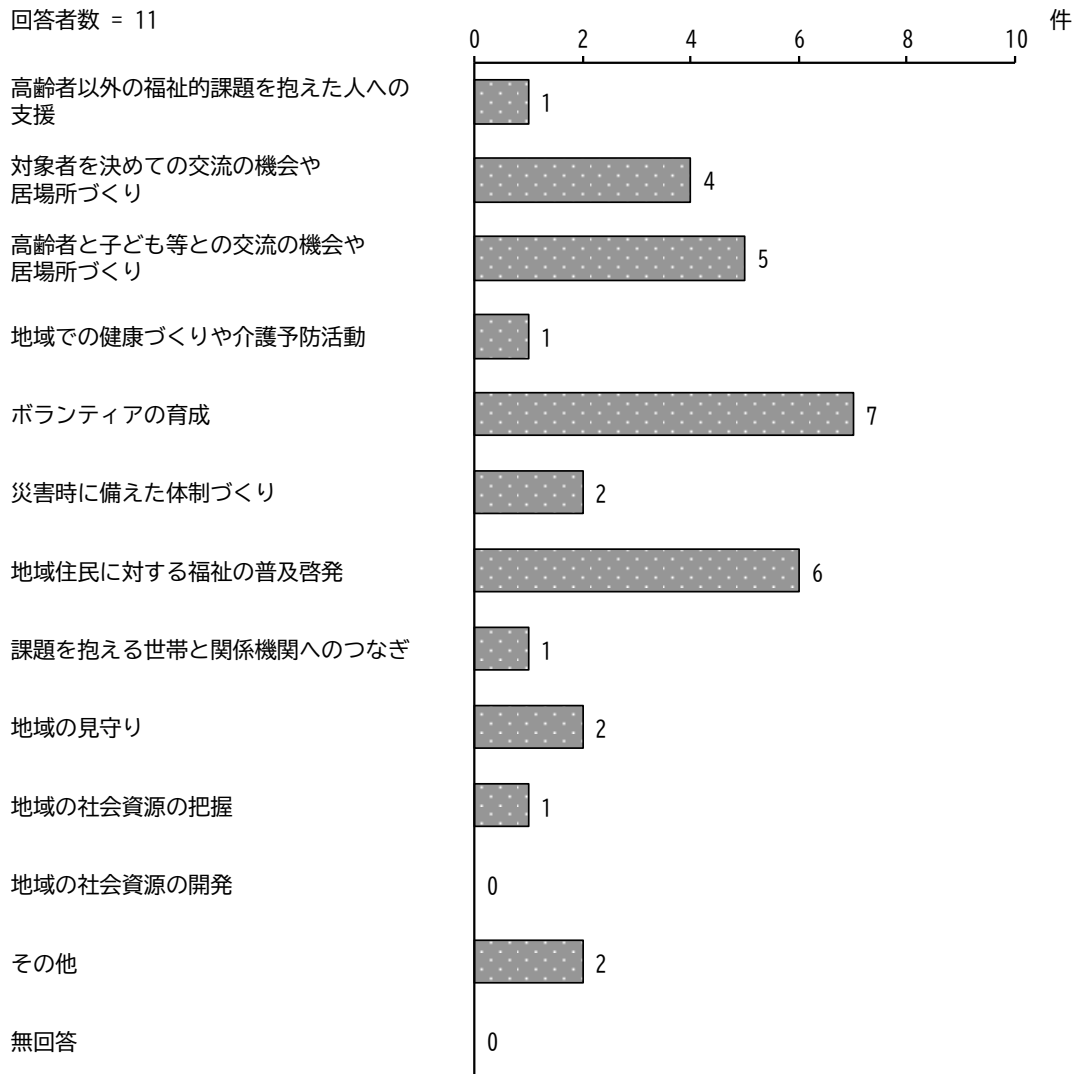
民生委員活動や地域福祉計画についての意見・提言

主な意見	件数
関係機関との連携が必要	9件
行政の対応の改善	8件
訪問・見守り活動の大切さ	7件
民生委員の担い手が必要	6件
情報提供・広報の充実	6件
民生委員の活動の周知、理解が必要	6件
やりがいを感じる	6件
行政との連携不足	6件
民生委員の活動範囲の見直し	5件
個人情報の取り扱いの難しさ	5件
民生委員活動の見直し	5件
活動に負担感・無力感・重荷を感じている	2件
居場所、交流の場が必要	2件
地域が新たな課題を抱えている	2件
その他	15件

3 地区社会福祉協議会

①現在、貴地区社協が「ふれあいネットワーク事業」以外に重点的に取り組んでいる活動について教えてください。(〇は3つまで)

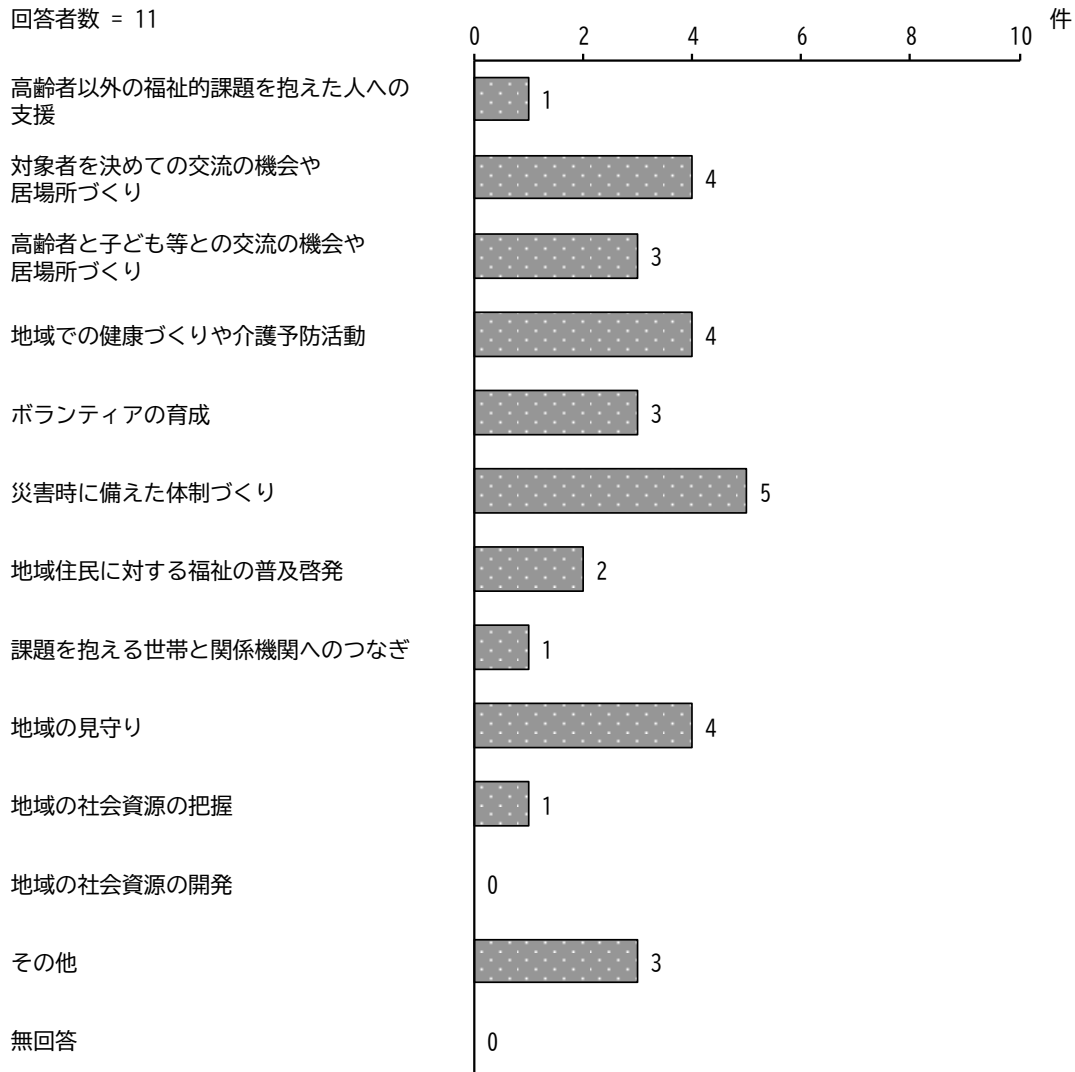
「ボランティアの育成」が7件となっています。「地域住民に対する福祉の普及啓発」が6件、「高齢者と子ども等との交流の機会や居場所づくり」が5件となっています。



②今後、貴地区社協が「ふれあいネットワーク事業」以外に取り組みたい活動について教えてください。(〇は3つまで)

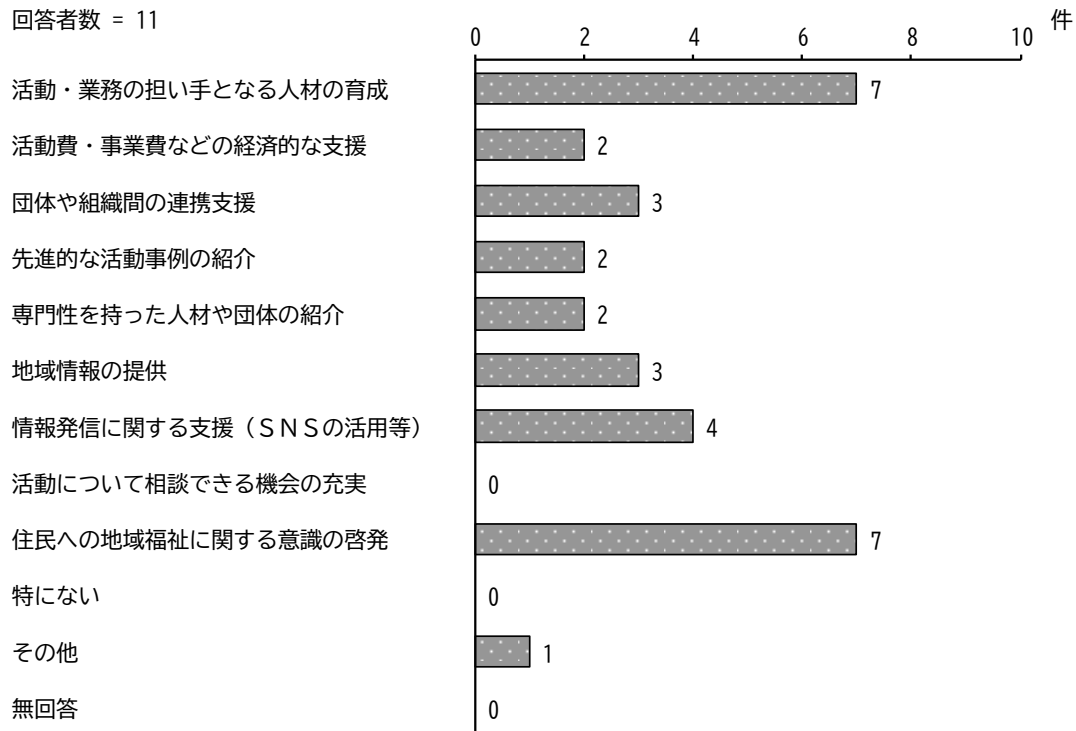
「災害時に備えた体制づくり」が5件となっています。「対象者を決めての交流の機会や居場所づくり」、「地域での健康づくりや介護予防活動」、「地域の見守り」が4件となっています。

回答者数 = 11



⑨貴地区社協が地域の課題を解決するために、どのような支援が必要ですか。
(〇は3つまで)

「活動・業務の担い手となる人材の育成」、「住民への地域福祉に関する意識の啓発」が7件と
なっています。「情報発信に関する支援（SNSの活用等）」が4件となっています。



地区社協活動や地域福祉計画についての意見・提言

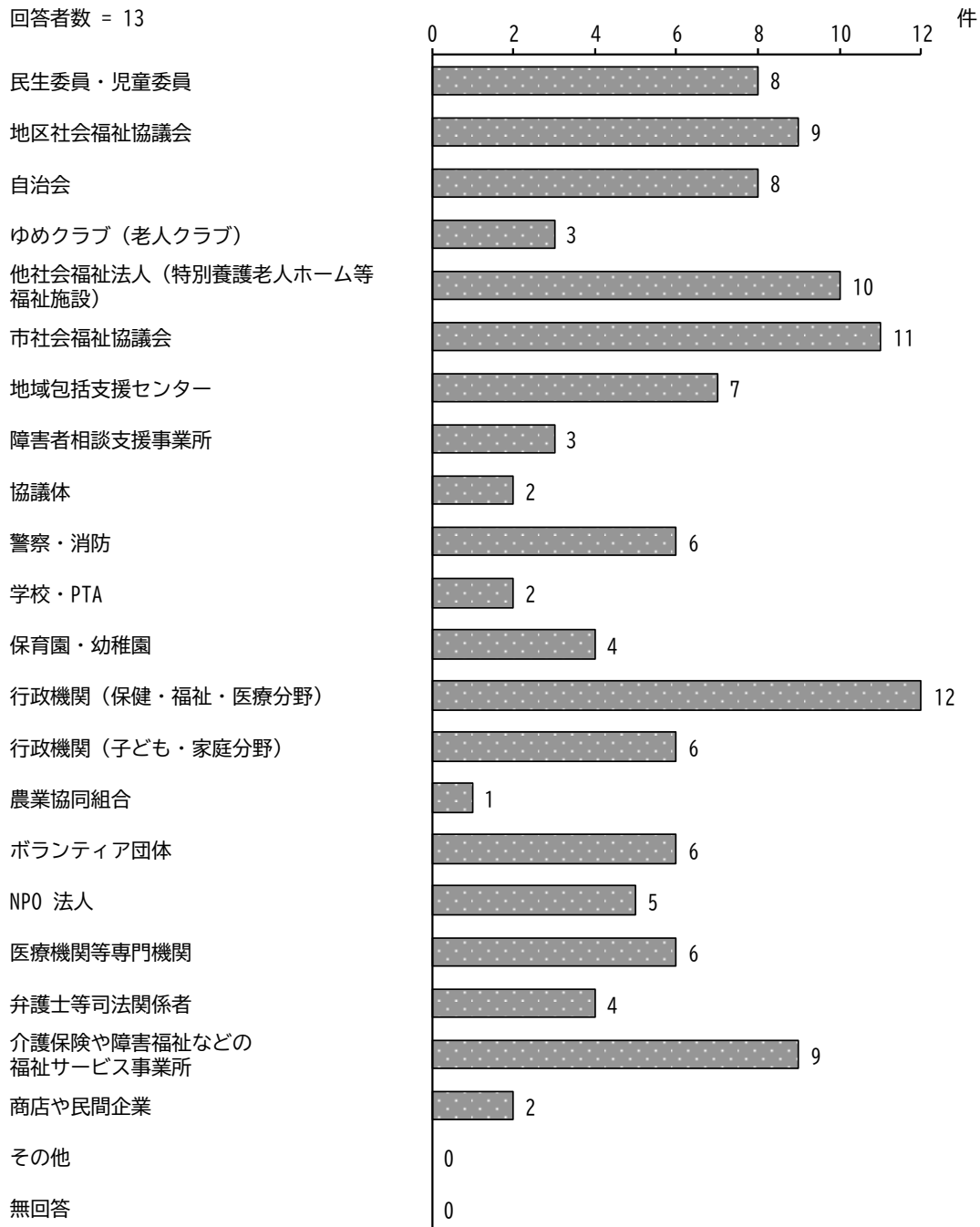
- ・協議体の計画推進
- ・協議体設立に続いて地区団体との連携の強化
- ・「買い物支援」等のサービスを持続するために行政からの指導・支援
- ・行政の目標に対する達成率の周知

4 市内社会福祉法人

①貴法人と連携が深い相手を教えてください。(〇はいくつでも)

「行政機関（保健・福祉・医療分野）」が12件となっています。「市社会福祉協議会」が11件、「他社会福祉法人（特別養護老人ホーム等福祉施設）」が10件となっています。

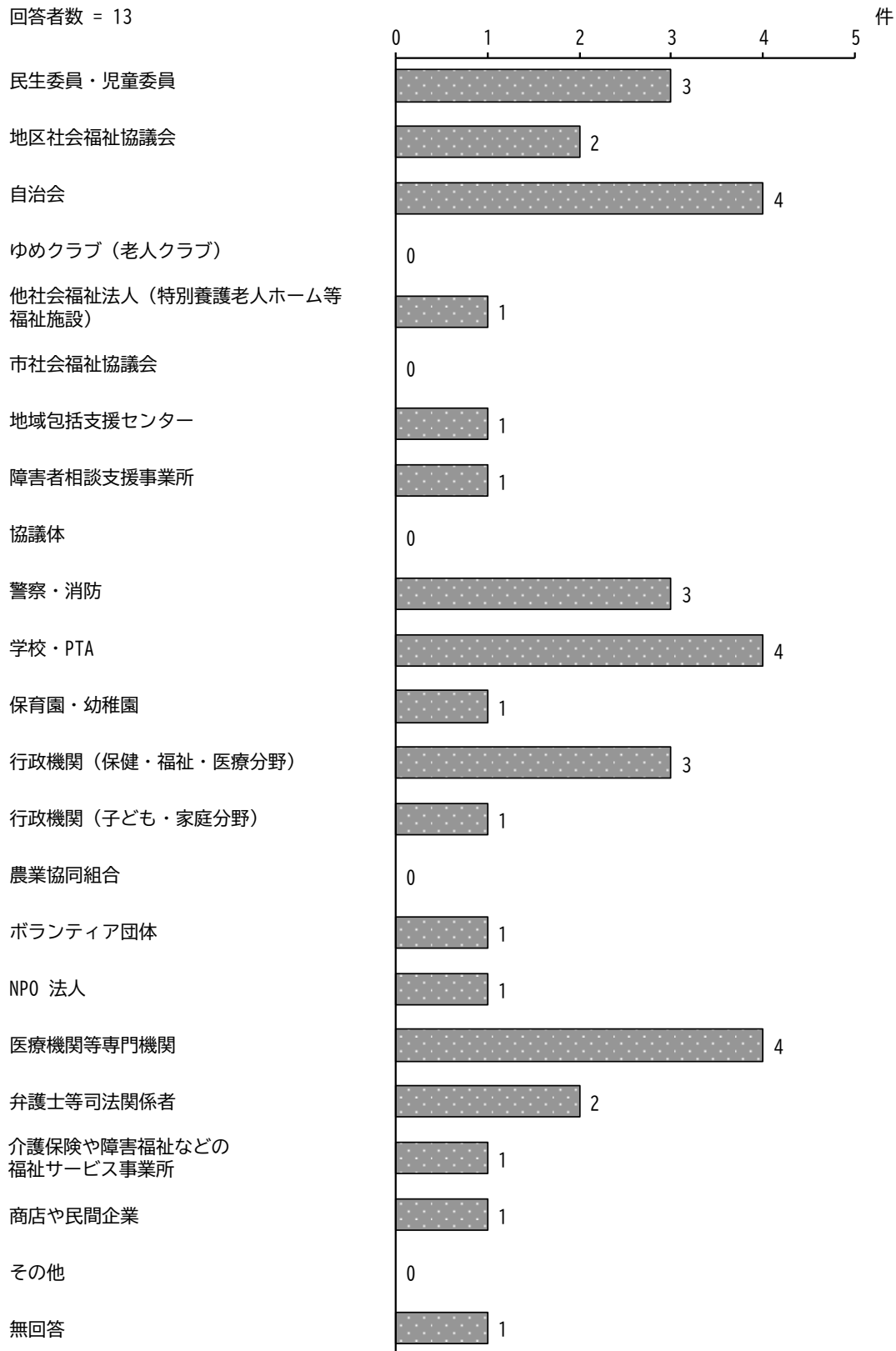
回答者数 = 13



②今後、貴法人が連携を深めたい相手を教えてください。(〇は3つまで)

「自治会」、「学校・PTA」、「医療機関等専門機関」が4件となっています。

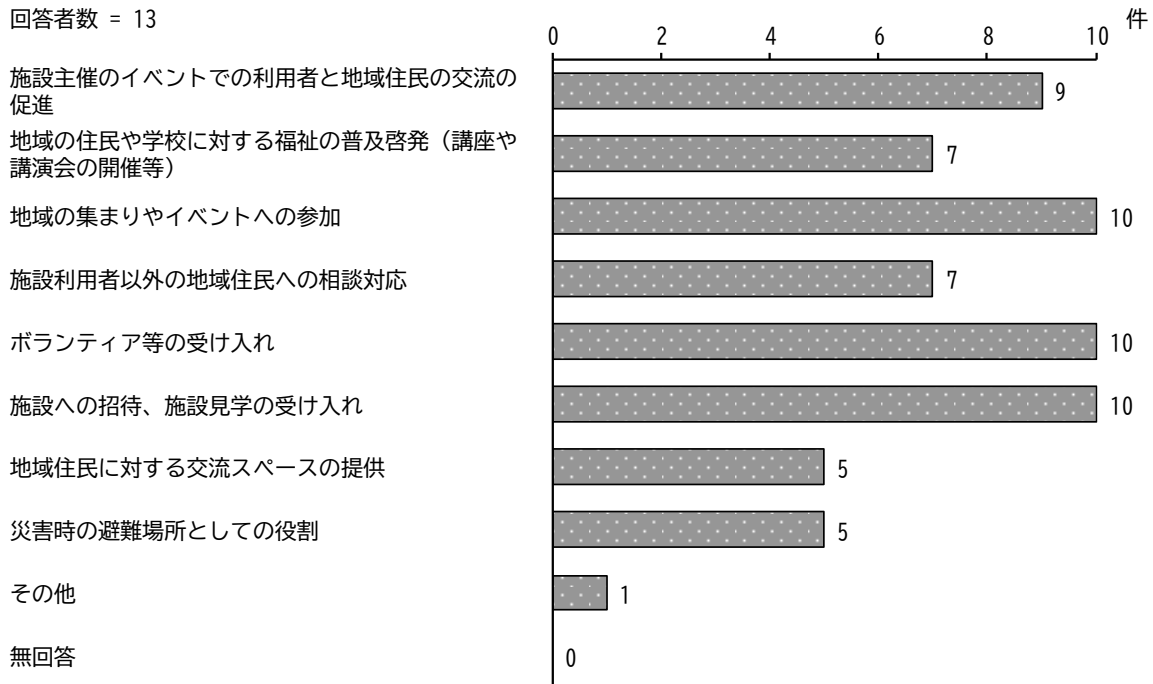
回答者数 = 13



③貴法人が行っている地域との交流や、公益的な取り組みについて教えてください。
(〇はいくつでも)

「地域の集まりやイベントへの参加」、「ボランティア等の受け入れ」、「施設への招待、施設見学の受け入れ」が10件となっています。

回答者数 = 13

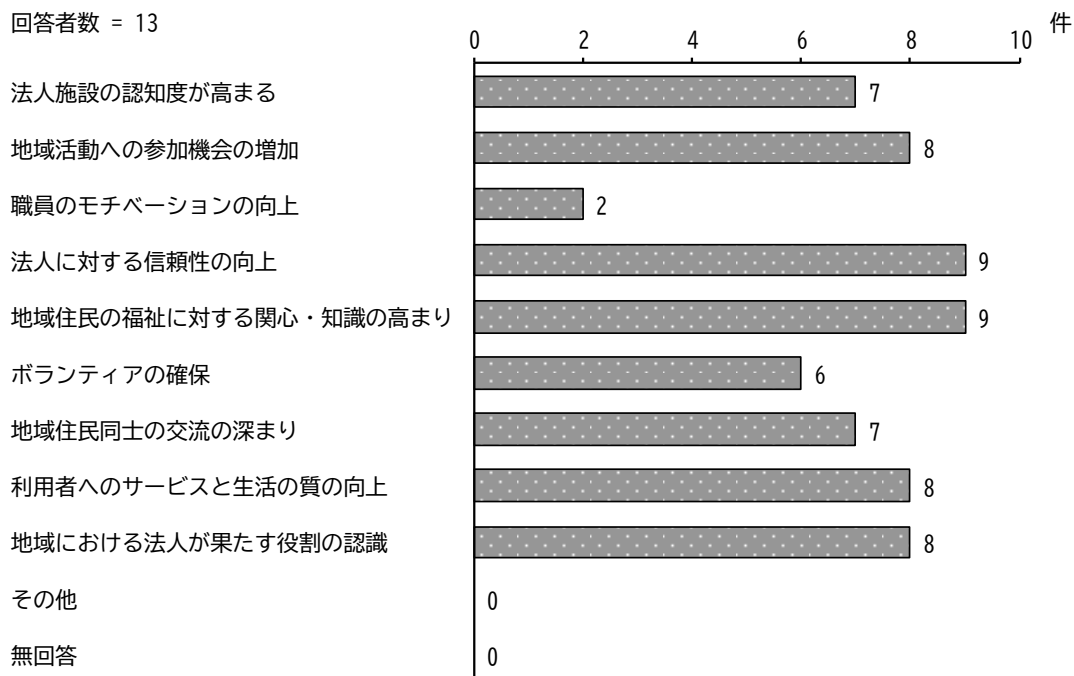


④貴法人が、地域との交流や公益的な取り組みで、今後特に進めたいものを教えてください。

分野別	意見の内容
高齢分野	災害時の避難場所（独居者等）や NPO 法人との連携
	よりどころ晃風宴、農園カフェぬくもりの再開、地域サロンに参加しての様々な情報共有
	大規模災害時の協力的体制づくり
	地域の交流等を積極的に行いたい
児童分野	他会場でのイベント参加や交流など施設外での活動
	災害時に支援してくれる機関との交流
障がい分野	マイクロバス無料貸し出し（運転手付き）、無料法律相談、社労士相談など
社会福祉協議会	生活困窮者やひとり親世帯等を対象にした食料品・日用品等の個別支援活動と住民理解の促進支援
	ポストコロナ・ウィズコロナを踏まえた新たな地区社協活動の展開

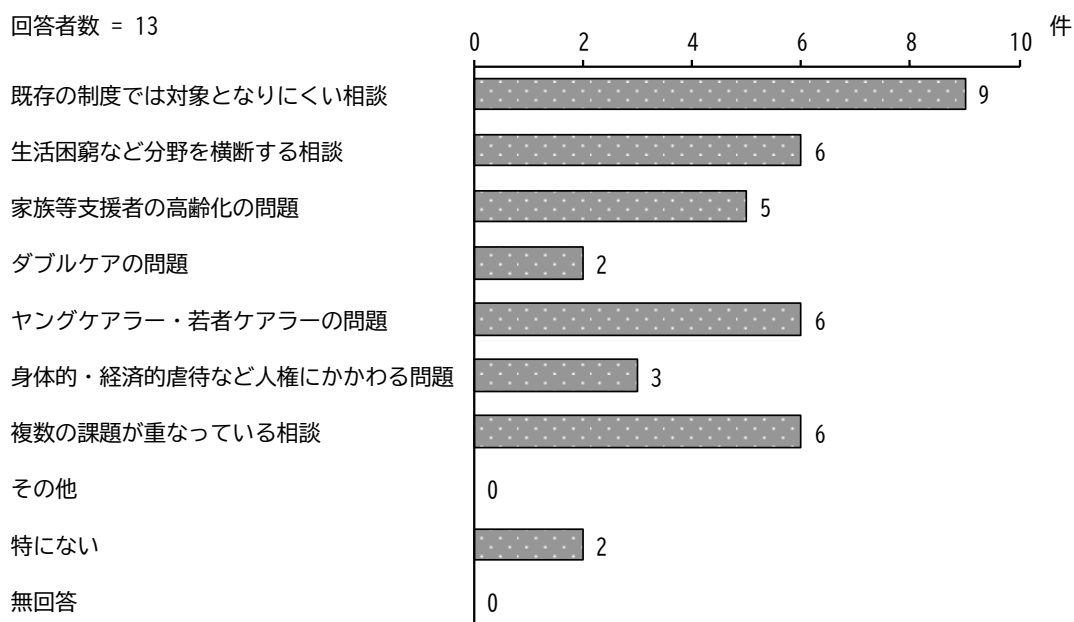
⑤貴法人が地域との交流を通して得る成果は何ですか。(〇はいくつでも)

「法人に対する信頼性の向上」、「地域住民の福祉に対する関心・知識の高まり」が9件となっています。「地域活動への参加機会の増加」、「利用者へのサービスと生活の質の向上」、「地域における法人が果たす役割の認識」が8件となっています。



⑥貴法人で対応が困難な相談はありますか。(〇はいくつでも)

「既存の制度では対象となりにくい相談」が9件、次いで「生活困窮など分野を横断する相談」、「ヤングケアラー・若者ケアラーの問題」、「複数の課題が重なっている相談」が6件となっています。



⑦貴法人で対応が困難な場合、どのような機関や会議体へつないでいますか。

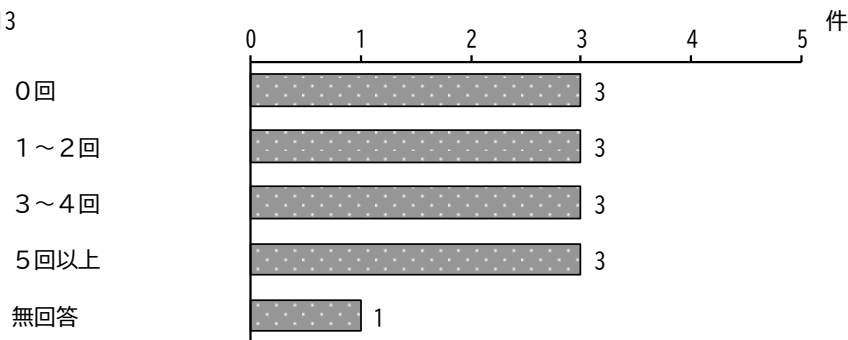
つないでいる機関や会議体

分野別	件数	意見の内容
高齢分野	6件	市、行政
	4件	地域包括支援センター
	1件	他の相談機関
	1件	医療機関
	1件	ケアマネジャー
	1件	こども食堂主催者
	1件	弁護士
児童分野	2件	市、行政
	1件	他の相談機関
障がい分野	2件	市、行政
	1件	他の相談機関

⑨貴法人では権利擁護や成年後見制度に関して直近3年間に内部研修や外部研修を実施していますか。(〇は1つ)

「0回」、「1～2回」、「3～4回」、「5回以上」が3件となっています。

回答者数 = 13



【分野別】

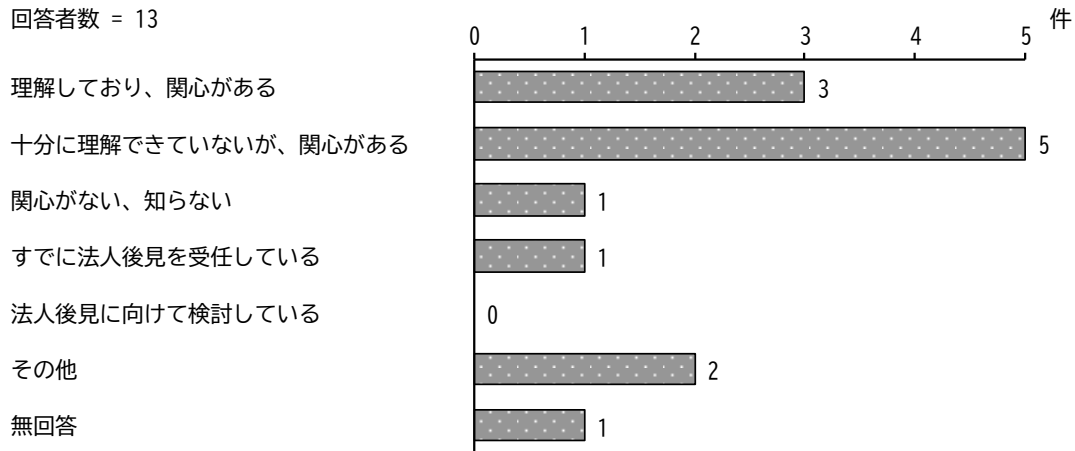
分野別にみると、高齢分野の3法人が5回以上研修を実施しています。

単位：件

区分	回答者数(件)	0回	1～2回	3～4回	5回以上	無回答
高齢分野	7	1	1	2	3	—
児童分野	4	2	—	1	—	1
障がい分野	2	—	2	—	—	—

⑩貴法人は法人後見事業についてどのように考えていますか。(〇は1つ)

「十分に理解できていないが、関心がある」が5件、「理解しており、関心がある」が3件となっています。



【分野別】

分野別にみると、高齢分野と障がい分野で法人後見事業について関心が高くなっています。

単位：件

区分	回答者数(件)	理解しており、関心がある	十分に理解できていないが、関心がある	関心がない、知らない	すでに法人後見を受任している	法人後見に向けて検討している	その他	無回答
高齢分野	7	2	3	—	1	—	1	—
児童分野	4	—	1	1	—	—	1	1
障がい分野	2	1	1	—	—	—	—	—

貴法人の活動や地域福祉計画についての意見・提言

- ・ 関係機関等との協力
- ・ コロナ禍においても関係機関との協力の維持
- ・ 協力体制の見直しを進める
- ・ 重層的支援体制整備事業への協力・協働

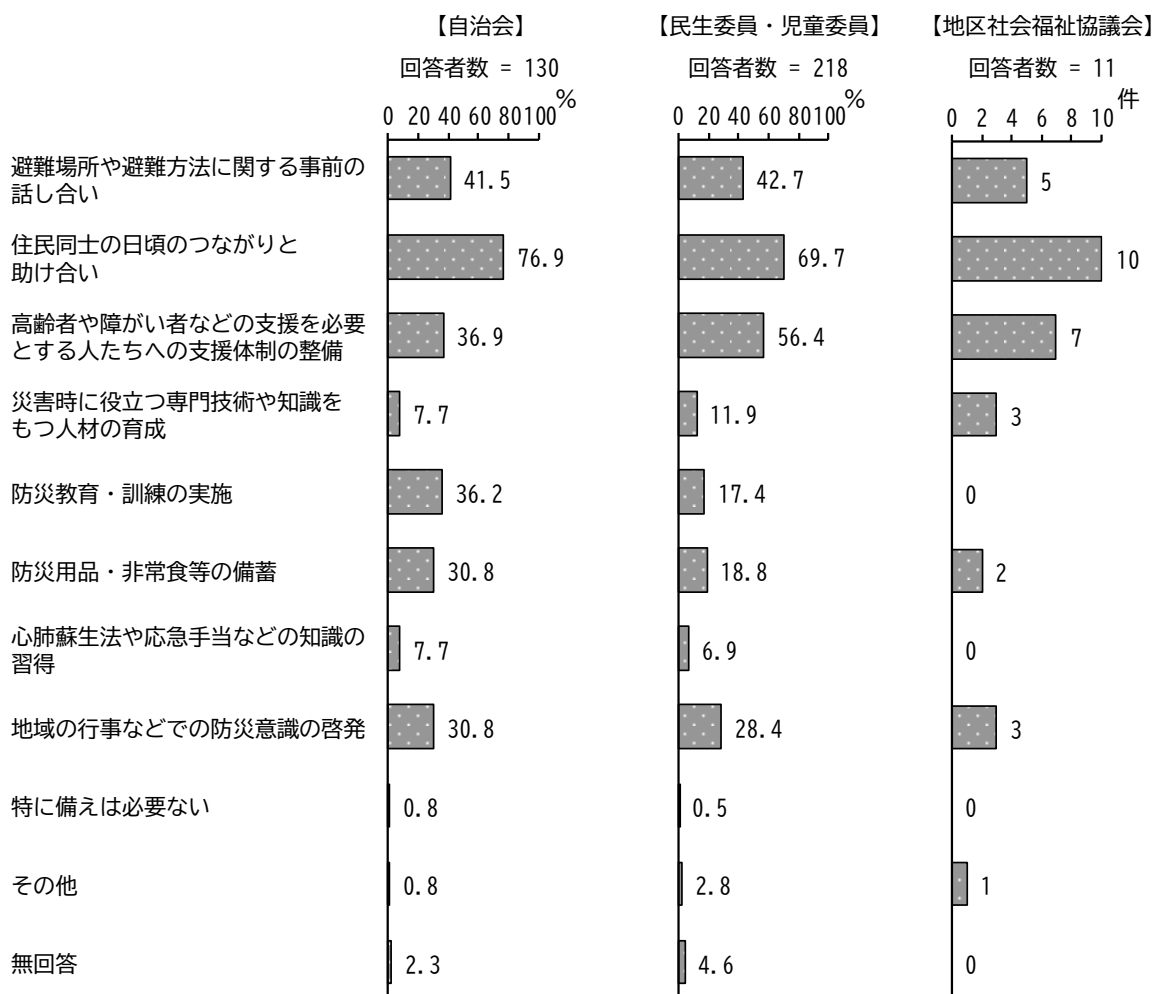
5 関係団体共通設問

今回の調査にあたり、関係団体共通設問を設けました。

大地震などの災害に備えて、地域でどのような備えが必要だと思いますか。
(○は3つまで)

【自治会】【民生委員・児童委員】【地区社会福祉協議会】

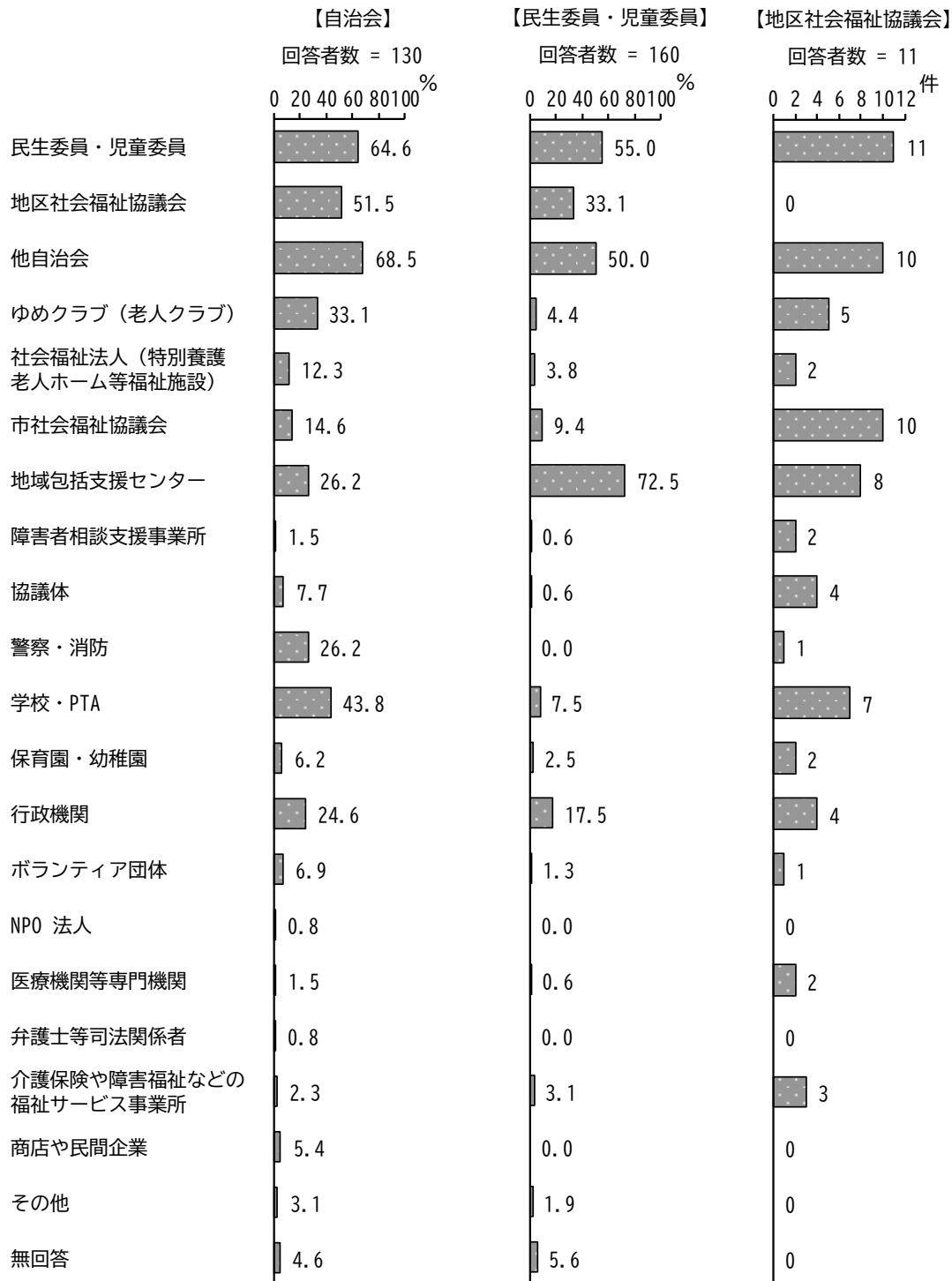
『自治会』『民生委員・児童委員』『地区社会福祉協議会』ともに、「住民同士の日頃のつながりと助け合い」が最も高くなっており、次いで「高齢者や障がい者などの支援を必要とする人たちへの支援体制の整備」が高くなっています。



貴団体と連携が深い相手を教えてください。(〇はいくつでも)

【自治会】【民生委員・児童委員】【地区社会福祉協議会】

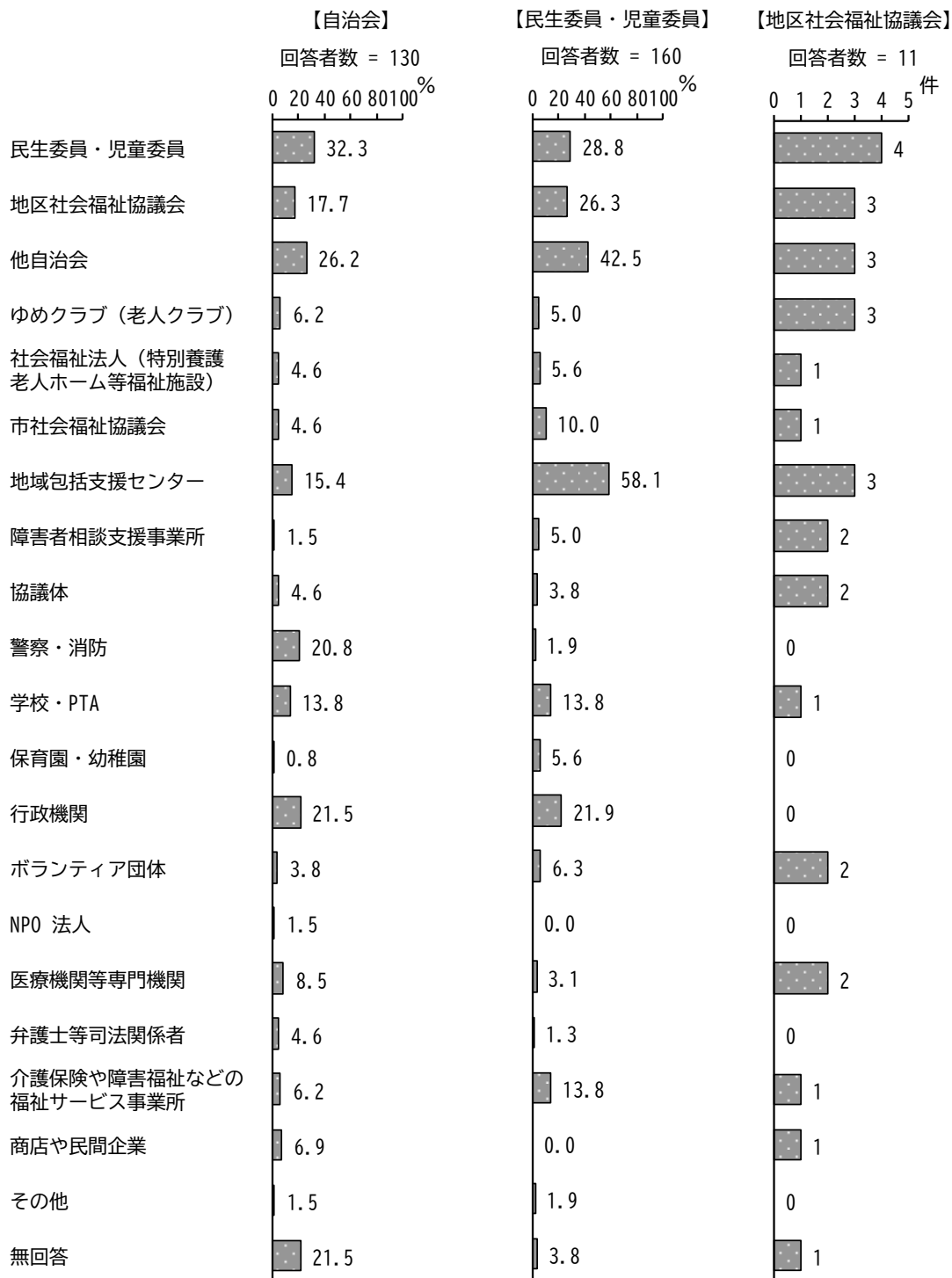
『自治会』『民生委員・児童委員』『地区社会福祉協議会』相互に高くなっています。また、「地域包括支援センター」や「学校・PTA」も高くなっています。



今後、貴団体が連携を深めたい相手を教えてください。(○は3つまで)

【自治会】【民生委員・児童委員】【地区社会福祉協議会】

『自治会』『民生委員・児童委員』『地区社会福祉協議会』相互に高くなっています。また、「医療機関等専門機関」「介護保険や障害福祉などの福祉サービス事業所」は、前問の連携が深い相手としての値に比べ、連携を深めたい相手としての値が高くなっています。



行政や他の団体等と連携を進めるにあたり、連携を妨げる要因があれば教えてください
【自治会】【民生委員・児童委員】【地区社会福祉協議会】

【自治会】

区分	件数	意見の内容
団体外部の要因	6件	連携する機会や場の不足
	4件	活動について自治会任せで行政が協力的でない
	3件	他団体との役割や活動範囲、組織規模等の違い
	2件	連携にあたっての会合等による業務負担の増加
	1件	各団体の参加にあたっての制約の多さ
	1件	地区社協と交流できる場がない
	1件	民生委員・児童委員の担当区域との相違
団体内部の要因	3件	役員の担い手の不足
	2件	会長の力量不足
	2件	自治会員の不足
	1件	会員の力量不足
	1件	会員の連携する意識が薄い
その他の意見	4件	新型コロナウイルス感染症による活動の自粛
	2件	自治会未加入の高齢者単身世帯の増加
	1件	地域情報の不足

【民生委員・児童委員】

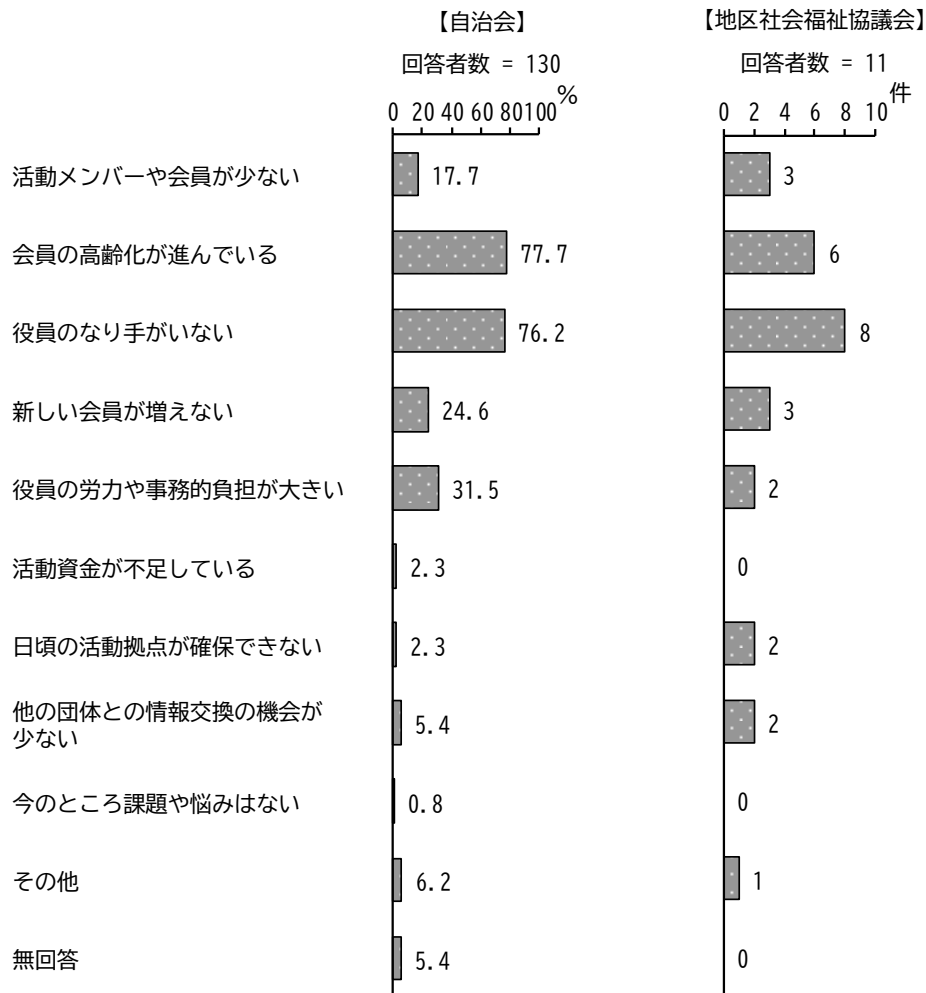
区分	件数	意見の内容
団体外部の要因	4件	自治会と連絡をとりづらい
	3件	社協等関係団体との価値観の違い
	3件	意見交換の機会不足
	3件	民生委員活動への理解不足
	2件	相談できる場の不足
	1件	社会福祉協議会との連携不足
	1件	他団体との連携不足
団体内部の要因	20件	個人情報保護による活動の制限
	4件	関係諸機関や団体を知るための研修機会の不足
	2件	支援者に対する活動が十分でない
	1件	活動に対する助言者の不足
	1件	民生委員としての経験不足
2件	新型コロナウイルス感染症による活動の自粛	

【地区社会福祉協議会】

- ・自治会、地区民児協との連携を深めたいが、同じ目標を共有できない
- ・医療機関、障がい者団体、商店会等との連携を行いたい、機会がない
- ・自治会とのスタンスの違い。ほとんどの自治会は、防災・防犯のみ重点を置いている。

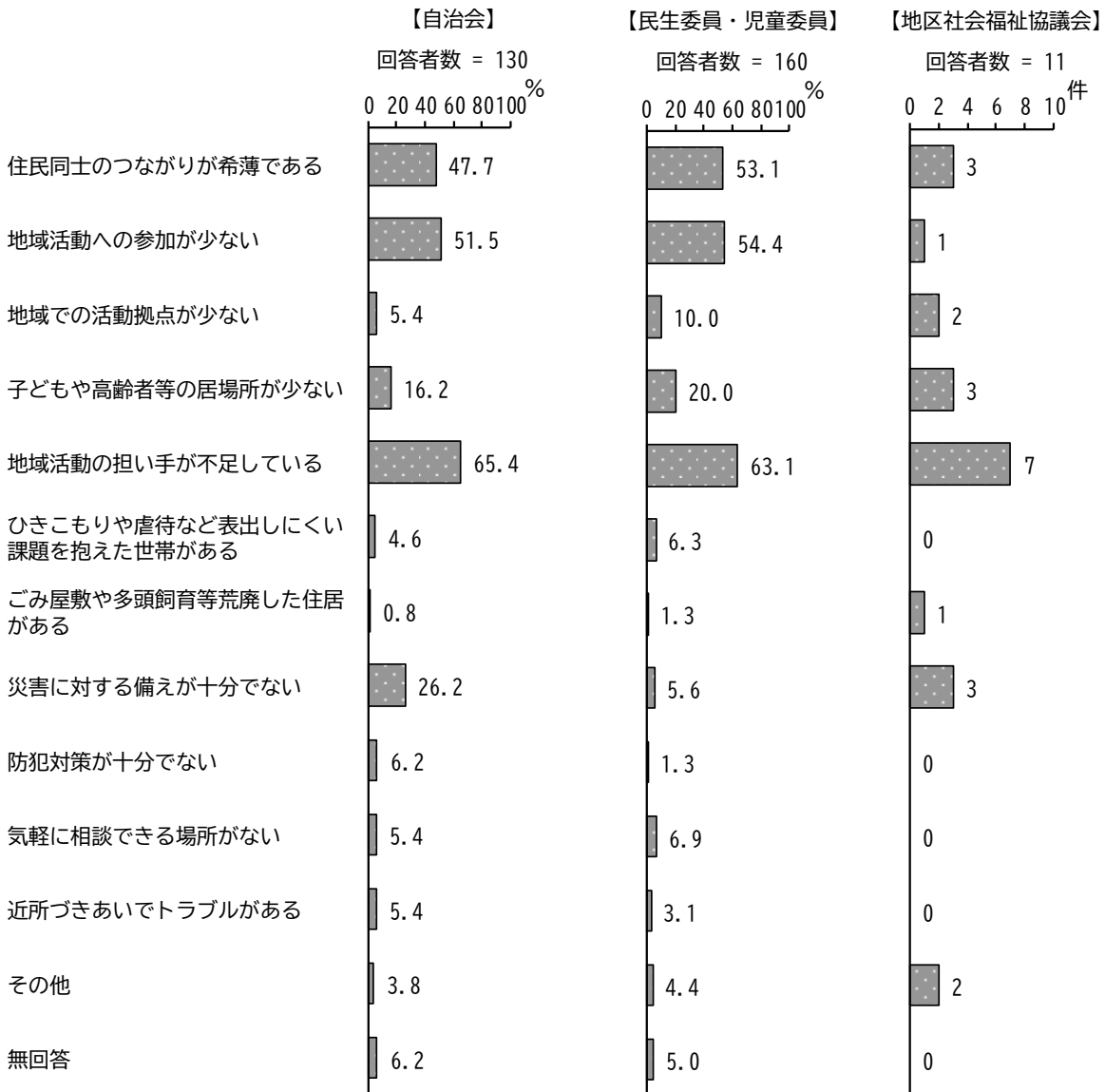
貴団体が団体として抱えている課題について教えてください。(〇は3つまで)
 【自治会】【地区社会福祉協議会】

『自治会』『地区社会福祉協議会』ともに「会員の高齢化が進んでいる」「役員のなり手がいない」が高くなっています。



活動を通じて感じる、地域の問題点や課題について教えてください。(〇は3つまで)
 【自治会】【民生委員・児童委員】【地区社会福祉協議会】

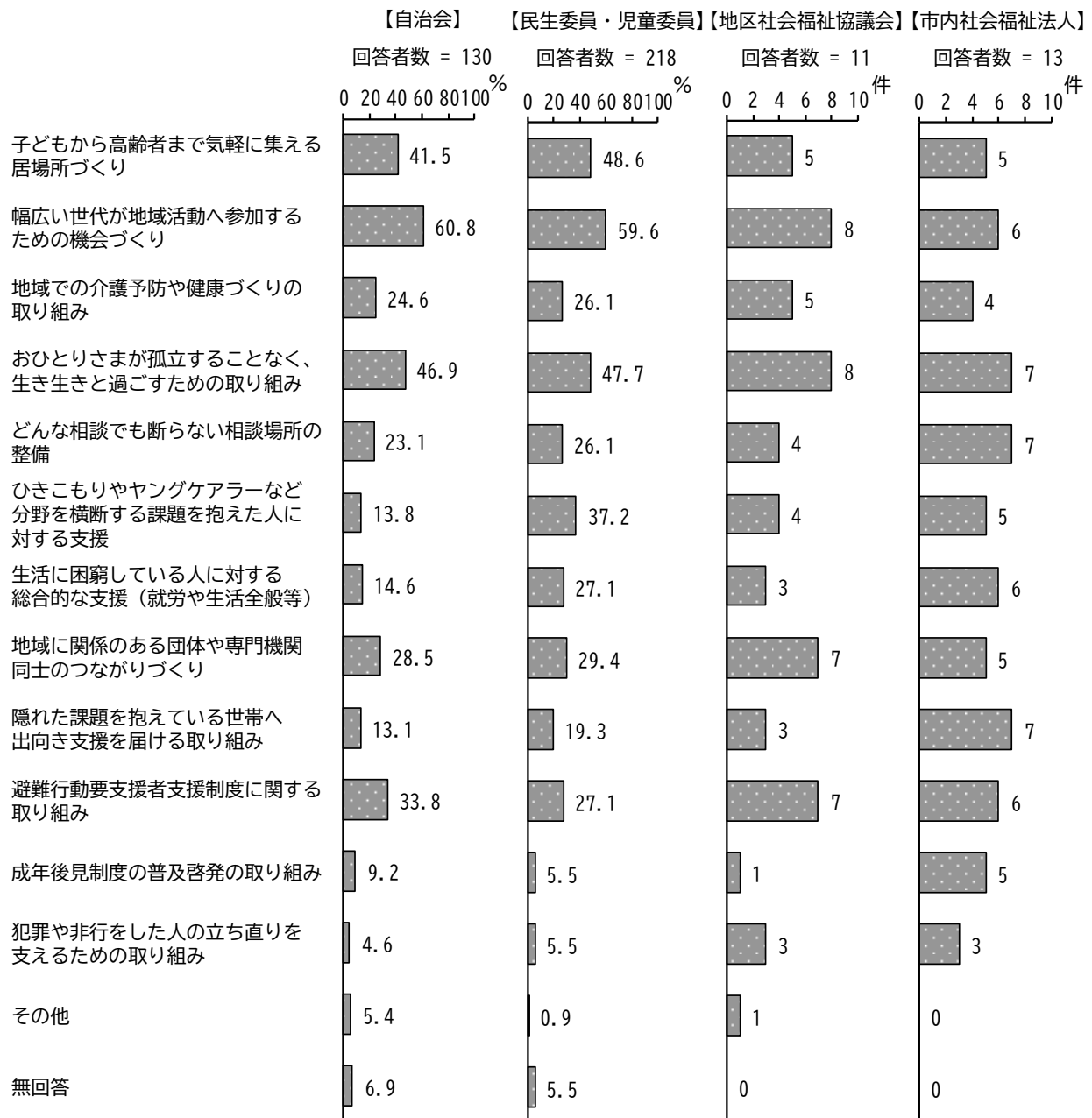
『自治会』『民生委員・児童委員』『地区社会福祉協議会』ともに「地域活動の担い手が不足している」が最も高くなっています。また「住民同士のつながりが希薄である」「地域活動への参加が少ない」も高くなっています。



行政が地域福祉を推進していく上で今後必要と考える施策について教えてください。
 (〇はいくつでも)

【自治会】 【民生委員・児童委員】 【地区社会福祉協議会】 【市内社会福祉法人】

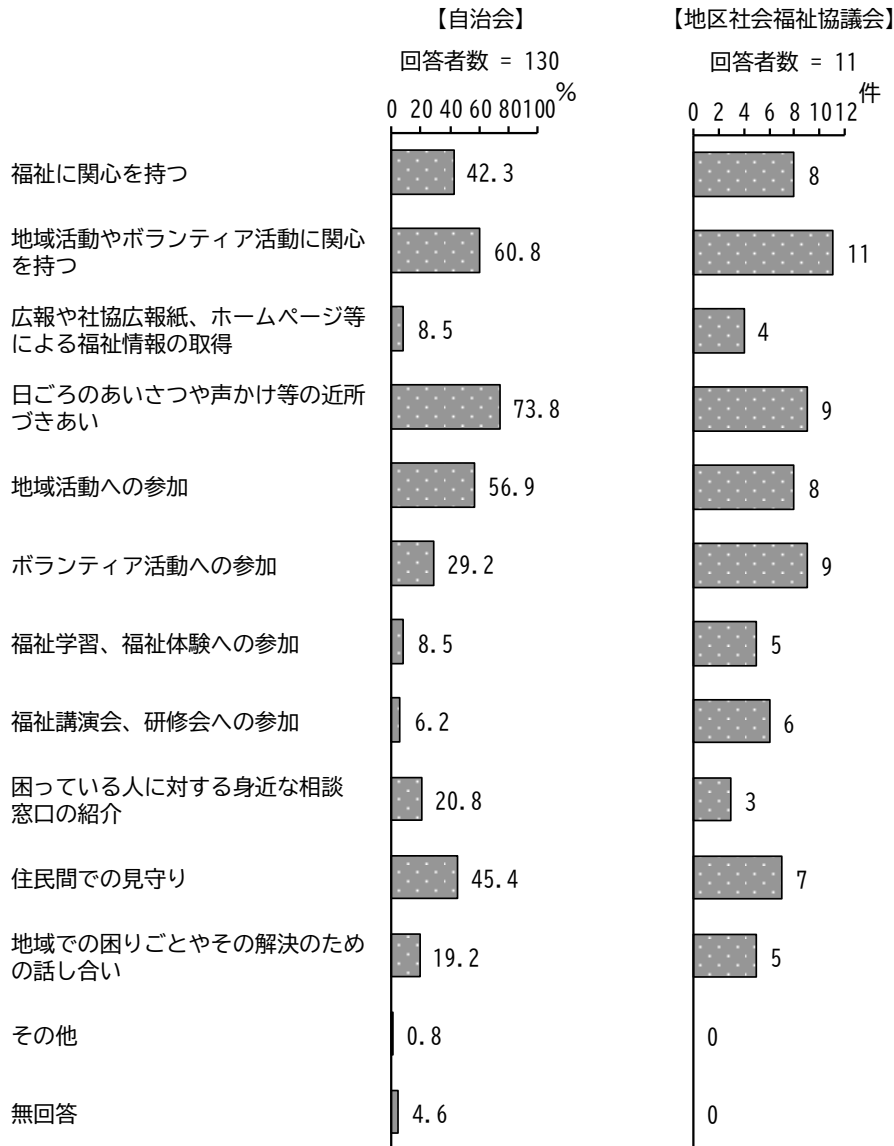
4つの団体ともに「幅広い世代が地域活動へ参加するための機会づくり」「おひとりさまが孤立することなく、生き生きと過ごすための取り組み」「子どもから高齢者まで気軽に集える居場所づくり」が高くなっています。



地域福祉を推進する上で地域住民に求められることはどのようなことと考えますか。
 (〇はいくつでも)

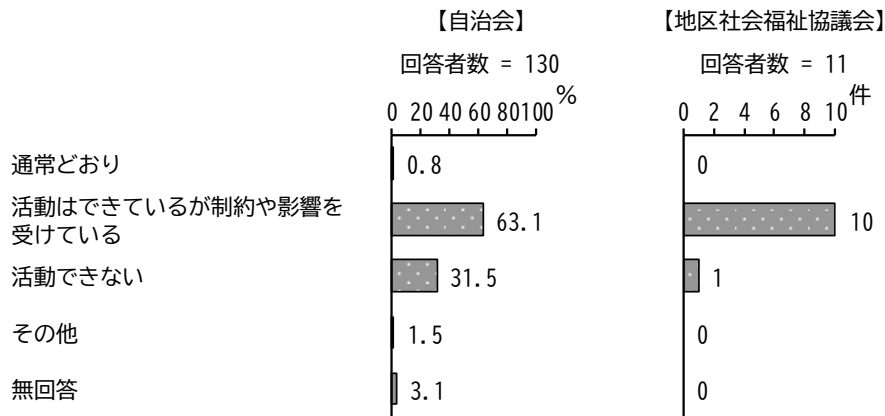
【自治会】 【地区社会福祉協議会】

『自治会』『地区社会福祉協議会』ともに、「地域活動やボランティア活動に関心を持つ」「日ごろのあいさつや声かけ等の近所づきあい」が高くなっています。



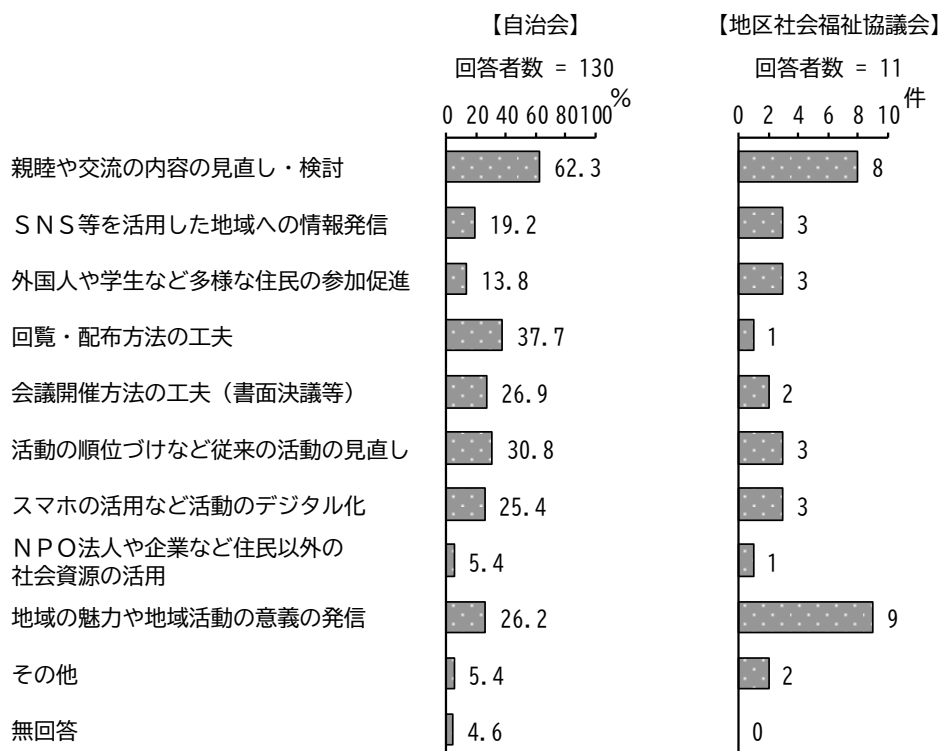
新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、貴団体の活動はどのような影響を受けましたか。(〇は1つ) 【自治会】【地区社会福祉協議会】

『自治会』『地区社会福祉協議会』ともに「活動はできているが制約や影響を受けている」が高くなっています。



貴団体の活動において、今後どのような工夫が必要と考えますか。(〇はいくつでも) 【自治会】【地区社会福祉協議会】

『自治会』『地区社会福祉協議会』ともに「親睦や交流の内容の見直し・検討」が高くなっています。また、『地区社会福祉協議会』で「地域の魅力や地域活動の意義の発信」が最も高くなっています。



IV 調査結果のまとめ

【市民】

○地域のつながりについて

近所の人との関係について、「あいさつ程度」の付き合いの人が最も多く、「付き合いがない」「近所にどんな人が住んでいるかわからない」人も1割程度となっており、近所の人との関係があまり密ではないことがうかがえます。また、年齢別にみると、若い年代ほど近所との付き合いが希薄な傾向にあります。一方で、認知症や障がいのある人が生活するために、地域住民の協力が必要と考える人は多く、あいさつや声かけ、見守りなどを協力できることとして挙げています。地域のつながりの希薄化は進んでいるものの、地域のつながりの必要性を多くの市民が認識していることがうかがえます。

○地域の支え合いについて

近所での助け合いについて、「自分が手伝う必要はない」と回答した人は少数にとどまっており、多くの市民が、おおむね「手助けしたい」と回答しています。また、6割近くの市民が、近所の人に「災害時の手助け」「安否確認の声かけや見守り」等の手助けをしてもらいたいと回答しており、地域に住民同士の支え合いの意識が存在していることがうかがえます。

○地域活動に対する状況

自治会活動などの地域活動に参加している市民は、2割程度となっています。また、年齢が若くなるほど地域活動への参加意向は減少するものの、30歳代では4割程度、参加意向を確認することができます。また、参加意向のある人で参加していない理由として「きっかけがない」「参加方法がわからない」が挙げられていることから、何らかの機会や適切な情報があれば、地域活動への参加割合が増加する可能性があります。

また、参加したい活動については「ボランティア活動」や「子育てに関する活動」の割合が高くなっています。

○悩みや困りごと、相談の状況

市民の日常生活の不安や悩みとして、自分や家族の健康に関するものが多く、次いで収入や家計に関することが挙げられています。困った時の相談先としては、親族や知人の割合が大半を占めていますが、要支援者がいる世帯ではかかりつけの医師やケアマネなど専門職を回答する人も多くなっています。「相談しない」とした回答の中には、「相談できる人がいない」「相談先がわからない」「顔見知り相談しづらい」を挙げた人もおり、相談意向があるにもかかわらず相談につながっていないケースも見受けられます。

また、経済的に困窮傾向にある人に必要な支援をたずねたところ、就労支援と同程度、相談支援を回答しているほか、市民が今後必要とする福祉的な取り組みとして「暮らしの困りごとを気軽に相談できる場所」の割合が最も高くなっていることから、市民の相談に関するニーズが高いことがうかがえます。

○要支援者をめぐる状況

経済状況について「ふつう」以上ととらえている人が多いものの、「苦しい」と感じている人も1割以上おり、この中には支援を必要としていながら、具体的に何を支援してもらいたいかわからないと回答する人も多く存在します。また、福祉的支援が必要と感じているにも関わらず、支援につながっていない世帯も確認できます。福祉的課題が重複している世帯も見受けられました。

要支援者がいる世帯に必要な支援をたずねたところ、経済的な支援や介護等の代行サービスのほか、支援者自身について相談できる場所や、支援者同士が交流できる場を望む声もありました。

ひきこもりの状態にある人の有無について、3.4%の人が「いる」と回答しました。40代の割合が高く、期間については1年以上5年未満と回答した人が最も多い結果となりました。

○災害への意識や支援制度の認知状況

災害時の避難について不安に感じる事として、避難所生活や家族の安否の確認が上位となっています。80歳以上では「避難場所への速やかな移動」の割合が最も高くなっていますが、市民の避難行動要支援者支援制度の認知状況は1割に満たない状況です。また、介護保険や障害福祉サービス等を受けている人がいる世帯においても、制度の認知状況は1割に達していません。制度を必要とする人に、制度の周知が進んでいない状況がうかがえますが、一方で多くの市民が、災害時に高齢者等支援が必要な人をおおむね「手助けしたい」と回答しています。制度の周知を含めた支援体制の強化が求められます。

○福祉情報に対する意識

必要な福祉サービスの情報入手については、できていないと感じている市民が約5割となっています。福祉サービスに関する情報の入手手段は、60歳以下では市のホームページ等電子媒体が、60歳以上では広報等紙媒体が主であり、年齢層によって異なっていることが確認できます。また、SNSや家族や人づてに情報を入手している市民も見受けられ、情報の入手手段が多様化しています。

○成年後見制度、再犯防止の認知状況

成年後見制度について、内容まで知っている市民の割合は約4割と、知らない人の方が多い状況ですが、知らないと回答した人でも、約半数の人は制度について知りたいと回答しており、とりわけ、何らかの支援が必要な人がいる世帯では、制度について、より関心が高い状況です。また、制度利用については、不動産や相続に関するニーズよりも、身上監護面のニーズが大きく上回っています。

再犯防止推進法についても、知らない市民の割合が5割以上となっており、法律の趣旨や再犯防止に必要な支援など、地域への理解が浸透していない状況がうかがえます。

○地域の環境について

市の暮らしに関する環境については、外出しやすい環境や生活の利便性が評価されている一方で、世代間の交流や地域の人とのつながりについては、以前より悪くなったと評価されています。

なお、大和市への定住意向は65.1%で、前回平成29年度調査時と比較し、ほぼ横ばいでした。

【自治会】

○地域のつながりと地域活動への参加状況について

多くの自治会が、地域内での住民同士のつながりの必要性を感じていることが確認でき、平成29年度調査時と意識の変化はほとんどありませんでした。

地域活動への参加状況については、おおむね「参加がある」の割合が高いものの、「積極的な参加」は少ない状況となっています。「あまり参加がない」の割合が高いブロックも見受けられます。

○今後の活動について

現在、重点的に取り組んでいる活動としては、「地域親睦活動」「清掃活動」の割合が高くなっています。また、今後取り組んでいきたい活動として「防災活動」「避難行動要支援者の支援体制づくり」の割合が高くなっており、災害に関連した取り組みへの関心が高まっていることがうかがえます。

【民生委員・児童委員】

○民生委員・児童委員活動をめぐる状況について

民生委員・児童委員の年齢について、「70歳代以上」の割合が5割と最も高く、平成29年度調査と比較すると、「60歳代」の割合が減少しています。

民生委員活動に対しては、5割以上が「やりがいがある」と回答しており、多くの民生委員・児童委員の方がやりがいをもって活動に臨んでいる状況がうかがえます。また、経験年数が長くなるほどやりがいを感じている割合が高くなっています。

一方で、活動を行う上で負担に感じることや困っていることとしては、「情報が的確に入っていない」と感じている割合が5割以上と突出して高く、活動を行う上で必要な情報の提供が求められていることが分かります。

○民生委員・児童委員の担い手について

民生委員・児童委員を引き受けた動機として、「地域貢献」の割合より「自治会等からの依頼」の割合が高くなっています。また、民生委員・児童委員の欠員解消のための方策として「活動に対する理解促進のための広報活動」「自治会との連携強化」が挙げられており、自治会をはじめとする地域の関係団体および地域住民の民生委員活動に対する理解と協力が必要とされていることがうかがえます。

○今後の活動について

民生委員・児童委員活動はコロナ感染症の影響を大きく受けたことが確認できます。今後活動にあたって工夫が必要なこととして「安否確認の方法」「民生委員同士の交流方法」「サロン等の開催方法」の回答が多く、ウィズコロナ・アフターコロナを踏まえた活動意向がうかがえます。

【地区社会福祉協議会】

○今後の活動について

「災害時に備えた体制づくり」「地域の見守り」「地域での健康づくりや介護予防活動」を現在取り組んでいる活動として挙げた地区は少数であったものの、今後取り組んでいきたい活動として挙げた地区は多く、新たな活動として関心を集めていることがうかがえます。

○地域課題の解決に向けた支援について

「活動・業務の担い手となる人材の育成」、「住民への地域福祉に関する意識の啓発」が共に最も高く、協働する住民の意識の向上も含めた担い手の育成・確保が求められています。

【市内社会福祉法人】

○交流活動や公益的な活動の状況について

「地域の集まりやイベントへの参加」「ボランティア等の受け入れ」「施設への招待、施設見学の受け入れ」など、地域との交流や公益的な活動に、すでにほとんどの法人が取り組んでいる状況が確認できます。今後、特に進めたい取り組みとして災害時に備えた取り組みや生活困窮者等への個別支援などが挙げられています。

○対応が困難な事例について

多くの法人が、既存の制度では対象になりにくい「ヤングケアラー」「複数課題」「分野横断」に関する相談について対応の難しさを感じていることがうかがえます。法人で対応が困難な場合の主なつなぎ先は、行政や地域包括支援センターが多くなっています。

【関係団体共通】

○連携状況について

自治会、民生委員・児童委員、地区社会福祉協議会は団体相互に、社会福祉法人は法人同士でおおむね連携がとられています。自治会、民生委員・児童委員、地区社会福祉協議会は「医療機関等専門機関」や「介護保険などの福祉サービス事業所」と、法人は「学校・PTA」と今後連携を深めていきたい意向であることがうかがえます。

○地域における課題について（自治会、民生委員・児童委員、地区社会福祉協議会）

地域に必要な災害への備えについて、いずれの団体においても「住民同士の日頃のつながりと助け合い」が最も高くなっており、災害時における地域の助け合いが重要視されていることがわかります。

また、地域活動の担い手の不足が、地域の主な課題として捉えられているほか、自治会、地区社会福祉協議会ともに団体の課題として、「会員の高齢化」や「役員のなり手不足」を挙げていることから、地域福祉活動の担い手の高齢化に伴う新たな担い手の確保が、団体共通の課題となっていることがうかがえます。

地域福祉を推進していく上で、今後必要と考える施策については、いずれの団体も「幅広い世代が地域活動へ参加するための機会づくり」が高くなっており、その他「おひとりさまが孤立することなく、生き生きと過ごすための取り組み」「子どもから高齢者まで気軽に集える居場所づくり」も高く、住民の地域活動への参画や孤立防止・交流の場づくりが求められています。